

地方にも無住處の貧民甚だ多く、且つ以前嚴禁たりし清國外に婦人家族等の移住を許可せられたるが爲めに、滿洲の移民は急速に實行せられ然も何等特別の國庫支出費を要せずに行はれたり。此移民は戰爭の際に一時中止せられたりしも、現今再び盛んに行はるゝに至りたれば、移住に最も適當なる滿洲の荒蕪にして然も豊饒なる曠澤山地は、未だ十年を出でずして其近傍の直隸、山東、山西、陝西の諸省の如く人煙繁華の地となるべし。

滿洲に移民政廳を設けると同時に、亦其郡縣に純然たる清國の治政制度を新に施行せり。現時滿洲には各獨立せる二箇の政廳あり。即ち僅に總督の手中に一致せしめある滿洲廳並に清國廳是なり。舊滿洲政廳は種族に基づきて滿洲人を區別したるものにして、久しく其實際の意義を失ひ、遠からずして只舊時代の歴史的意義を有するに至るべし。是種族として遠征的民族なりし滿洲人は、全く清國の多數民に同化し去られたるを以てなり。

清國の新政府は活潑なる活動的進歩主義にて、現今幾多の廣大なる企圖を畫策せり。清國の新政府は一切の地方收入を以て各縣省の入費に充てしむる道を立

て、ポグラニー停車場境外停車場即ち吉林省と露領沿海州の境界停車場より後貝加爾停車場間並に我領内に遣りたる長春迄の支線を合して、凡ての我東清鐵道を買収するの設計を立て、又吉林長春間の支線敷設の計畫を立て、各縣省の國家の收入を大に整理せんことせり。然るに又日本は奉天より義州、平壤、仁川等を経て釜山に達する鐵道敷設の設計を畫し、其一部は既に實行せられつゝあり。是、日本人が歐洲より自國日本に到達する最も近距離なる線路の敷設に步趨を進めつゝあるものなり。假令日本は歐洲に取りてさまで重大なる意義を有するものにあらずと雖、上述の鐵道はこれ必然に日本の軍隊を最も迅速に滿洲並に我國境に接近せしむるものにて、我西伯利亞の軍隊編制は甚だ小弱なるを以て、勢ひ我をして永久に不安の状態にあらしめんとするものならざるを得ず。

清國は、軍事的關係にて最も確實に滿洲を領有せんが爲めに、地方兵學校の設立並に優強なる地方軍隊の養成の根柢を置かんとして、軍隊の新編制を畫策せり。今日までに計畫せられたるは、奉天、吉林の兵學校にて、是、専ら地方軍隊の需要に宛つる爲めの目的なり。是等の學校には百八十名宛在學せしめ、學期は三年にて

此學校卒業後優等生には更に三箇年の課程を授くべし。其教官には、或は全部ならずとも特に日本人を傭聘すべし。滿洲三省即ち奉天(盛京)吉林並に齊々哈爾黑龍江の地方に於て、今年中に歩兵二十箇大隊(一大隊五百名)騎兵若干聯隊(一聯隊五百名)並に新式砲兵隊を編制せらるゝ豫定なり。その軍隊は袁世凱並に馬玉昆將軍部下の聯隊附士官を以て、歐洲、日本式の模範に従つて編制教育せらるべし。而して其教師並に士官の一部は日本人なるべきは勿論なり。新服制の着色圖案は既に送附せられ、其雛形に従つて準備中なり。歩兵の服装は幾分か日本兵に類し、只軍帽は古來の清國帽にて頂上に珠の附しあるものなり。此軍隊は吉林、伯都訥、渾春附近即ち我軍隊の配備範圍に置かるゝ豫定なり。是、同地方に於ける我軍隊は、ポーツマス條約に従つて明年は滿洲を撤退せざるを得ざるを以てなり。斯くの如く地方軍隊を改良したる後の滿洲清國軍は、若し再び日露が新に交戦する場合に、現然立ちて我敵國に味方せざるまでも、必らず過去の戦役に清國軍隊がその周圍に勇悍なる馬賊を集めて曖昧なる態度を取りたる如き行動に出づべきや明かなり。是實に我背面と我根據地に於て凡ての事に大に注意を要する

恒久の危懼たらずんばあらず。况んや清國には、我沿海州並に黑龍江沿岸州の國境に永久的要塞を築造するの企圖あるに於てをや。

韓國並に南部滿洲に於ける日本人は、全權を有せる無監督の主權となりて、純然たる蒙古人的の掠奪と住民の壓制々度を實行せり。韓國の地方官は全く日本人の掌裡にあり。奉天總督の清國官吏も全く其權を失ひ、日本の命令に服従して之を實施するの外何事をもなすを得ざるなり。市街の警官は清國人なるにも拘らず、日本風の服装をなして日本兵と共に其職を取れり。奉天將軍は全くその權を失ひて、滿洲に於ける日本の統監若くは軍務監督の職權を有する日本士官の權下に服せり。奉天には幾多の學堂を開設したるが、何れも日本人の支配を受け、學生は日本式の服装をなせり。或地方には日本人は自己の裁判所を開設せり。されど其裁判は只清國人の間の事件を審理するのみにて、それも訴訟者より先づ一定の税金を徴收するにあらざれば其訴訟を受理せず。又日本人に對する事件は之を受理せられざるなり。

又日本人は、戦争以來滿韓地方の一切の通商經濟の勢力を不法手段を以て全く

其掌裡に收めたり。日本人は一切の地方の生産物と外國品とを放逐して、滿韓地方には自國の商品のみを入れ、勿論無税にて之を輸入せんとするものなりと。ノイヴェンレミヤの戦後の一論は、又大に見るべきものあり。曰く、最近の戦争は、極東に於ける我政治上の位置を全く一變せり。吾人の敗戦は、當時に至るまでは白哲人種が優強なりと確信せし想念を、黄色人種の眼中より長へに一掃せしめたり。現今極東より歸來する者は憂慮に堪へざる風説を傳へ、日本人は決して中途に於て休止するものにあらず、何等かの機會に乗じて吾人を太平洋沿岸より全く放逐するの目的を以て、再び吾人と戦端を開くことを企圖すべしと云へり。

ルースコエゴスダールストウオウキツテ内閣の機關新聞は此件に關し氣休めの説を掲げて云へり。曰く、日本は現役陸兵の後送を斷えず繼續せり。又露國人を南部滿洲に入れざるに對し、滿洲北部諸縣に入らんとする日本人に對しても亦我より同様の處理に出でたるは、是、日露の間に締結せられたる協商の直接補遺たるに過ぎず。

併し孰れも此事態の真相を説明せる者にあらず。日本軍が一度かの關東半島を占領するや、是實に軍隊上陸に至便至利の要地にして、實に滿洲の鎖鑰たるを以て、日本は又滿洲に其軍隊を留むるの必要を思はざるなり。日本人は著大なる輸送力を以て、少時にして滿洲に其軍隊を送遣するを得べし。協商云々に關しては、固よりルースコエゴスダールストウオウ新聞の説明を俟たずして明かなる事にて、苟くも列國が平和の關係を持する以上は、外國臣民に對して一切の強制壓力を用ふるは、必らずや現行條規若くは特別協定に基づかざるはなし。

過去の戦争は、我財政を著しく壞亂せしめたると共に、又日本の安寧をも擾亂せり。若しそれ日本が昨年八月に平和に同意せりせば、是決して我に對する好意の爲めにあらずして、軍費を極度に伸張して尙戦争を繼續するは自己の損害にして、且つ甚だ冒險たるが故のみ。現役軍の解散と豫備軍の編成解散とが、日本の爲めに必要なは、尙我の爲めに必要なが如し。况んや之を行ふは何等の冒險をも要せざるに於てをや。加之陸軍を十八箇師團に擴張せんとする日本政府の決心は、新に所要の士官を作るが爲めにして、随つて陸軍歳出の増額を來たせ

り若し日本軍が清國に其經費を負担せしめて駐軍するにあらざる限りは、日本の大軍を永く滿洲に留むるは甚だ高價に値ひせざるを得ず。是に由りて之を觀れば、若し日本よりの危険が尙未だ吾人の頭上に墜落せずとするも、兎に角に此危険は近き將來即ち數年の間には之を避くるを得ざるなり。一八七四年に露國の強固なる聲言が佛國を獨逸の新襲撃より救ふまでの佛國の位置は、同じく斯くの如き位置にありしなり。吾人の興へたる抗爭は、縱令勝利を伴はざりしとするも、甚だしく憤慨せしめたる彼等日本人をして日本の現在の實力にて只一回の戦役にては、極東の我露國を根本的に破るべきを誓ひたる、日本の愛國黨の偉大なる企圖を成功し得ざる事を信せしめたり。延期は未だ廢止にあらず、必らずや日本は我國に對して新に戦備をなすに相違なし。此時に當りて日本人は新にその根據を樺太島と韓國とに構へ、韓國東岸の交通路を改修し、浦鹽並にニコライウスクを以て活動の主要なる目的となし、同時にハルビンに對し進撃し來たるに相違なし。現今我祖國は最も困難なる事情に遭遇せるものなり。歐洲並に近東に於ける重要なる利益問

題は、日本に對する復讐、もしくは主動的政略の事を想像せしむるの猶豫を興へざるなり。吾人は一度締結せられたる平和は之を守らざるべらざるも、然も吾人は銳意四邊に起る事情に注意し、且つ太平洋沿岸に防備の位置を作ること、勉め、之を有事の日に備ふることを忘るべからず。

斯くの如き事態關係なるを以て、我中央政府並に極東の爲政者は比較的の短期間に堅固有望なる邊境の防備策を講せざるべからざる重大複雑なる問題を有するものと云はざるべからず。我内治も亦我隣邦に對する政略も、一切皆この方針に向はしめざるべからず。隣邦に對しては如何なる外交政略を講せざるべからざるや、さといふに、先づ吾人は今後清國の内治に干渉する如きことを避け、清國に對して舊交を恢復するに全力を傾注せざるべからず。且つ吾人は決して日本に對してなりとも、清國を教唆して抗敵せしむる如きことを避けざるべからず。宜しく清國自身をして、何れの國が彼の友邦にして、何れの國が彼の敵國なるやを自ら判別せしむべきなり。是今日吾人の取るべき最も適當なる行動なり。されど一方よりは、我隣邦に對する友誼に眞摯なる價値を有せしめて、苟くも不信背

約の事あるを許容すべからず。吾人は既に幾度か論議せる如く、滿洲を撤退せざるべからざる吾人の義務は何事よりも先づ第一に我鐵道幹線をして最も危険なる位置に陥らしめたり。後貝加爾と黒龍江沿岸地方とを連結する鐵道線路の約五百露里は我領土に屬せざる地方を横貫するを以て、結局黒龍江沿岸の損失となりて、徒に他國民の繁榮を利するに過ぎず。

吾人は勿論戰爭前は北部滿洲に根本的に確立せんことを企圖せるものなり。渺茫たる北部滿洲の人煙稀少なるは(一露里に一人五分)實に植民事業の爲めには至便此上もなき地方なり。且つそれ北部滿洲は、其氣候よりするも黒龍江流域の所屬よりするも、支那海に引接せらるべき地方にあらずして、西伯利亞に引接せらるべき地方なり。故に國境の山を越えて(興安嶺外に)劃するを得ば、黒龍江は全く露國內地の河線となるべし。若し又歐洲の抑壓に對する拳匪の運動ありし場合に、我政略が清國人に對して最も眞摯に最も友誼的にして決して之に干渉することなかりしならんには、吾人は該地方を讓與せしむるの目的を達するを得べし。

たりしなるべし。吾人は決して西歐人と同一地盤の上に立つを要せざりしなり。清國人は西歐人を猜疑するや既に久し。當時北京の我公使は清國政府の信任を受け居りて、臨機北京を撤退したりしならんには、決してブラゴヴェチンスクの砲撃を見ざりしなるべく、鐵道の破壊に對しては清國その賠償の責に任せしなるべし。

然れども、こは若し然かありしならんには、の事なり。今や事實に就き考慮せざるべからざるに至れり。對清の戰爭並に南部滿洲の長期の占領等は、清國人と清國政府とを以て我に對して敵抗せしむるに至れり。清國人は敢て日本人を憎惡せずとするも亦決して我等を親愛せず。日露戰爭前既に南部滿洲鐵道支線外の一帯地方は、恰も我を憎惡する官吏に依りて治理せらるる所の稠密なる清國民の生きたる胸壁を以て築ける外廓の如くなりき。今や吾人が滿洲を撤退したるに依りて、我鐵道幹線は殆ど之と同様の状態に陥りたり。敵は臨機この幹線を破壊し得べきや言を俟たず。

西伯利亞幹線敷設の議決定せらるると同時に、幹線を黒龍江の北部に敷設する

は困難にて且つ不可能なること發表せられたり。然るに既に其敷設を終るや、若し方向を選択する時は之を黒龍江北部に敷設するの困難にあらざりしこと、スレテンヌクとニコライフスクとを黒龍江に沿ひて連絡するを得べきことを明かにせられたり。

今や益之が急務を認めらるゝに至れり。日本人の成功に畏怖せる該地方の露國民は、此事即ち西伯利亞幹線を黒龍江北部に敷設せざる事を黒龍江沿岸地方の得失にも關する事なりと云へり。スレテンヌクとニコライフスクの直通線は約一千五百露里にして、此外に防禦其他の必要上よりニコライフスクとハヤロフスクとを連絡せざるべからず。西伯利亞黒龍江鐵道がセーヤ河、ブウレヤ河、アムグニ河等の流域を貫通して之を連絡せば、此地方に於ける露國民の増殖を迅速ならしめ、且つ若し今後の移住民をして矢張りコサツク軍人ならしめば、自ら邊境の防禦力を非常に大ならしむるを得べし。概して原理上の見地よりすれば、一方が自ら十分の防備資料を有して、本國より補充の到着する迄最初の打撃に堅く堪へざるべからざるは當然なり。此原理よりすれば、鐵道線路より外に尙イル

クトヌク以東に地方造兵廠の如きものを有し、且つ浦鹽並にニコライフスク等の海軍の必要に應せしむる爲めに、船渠並に工場等を十分に設備せざるべからず。若し短期間に我戰艦を復興すること困難なりとするも、これ決して露國と黒龍江沿岸の要地、特にベトロパウロフスク地方との活潑なる連絡を保たしむるが爲めに、客船並に運送船の數を増加せしむる必要を妨ぐるものにあらず。

最後に吾人は極東に於ける我防禦の位置を強固ならしめんことを希ひ、浦鹽並にニコライフスクの我要塞を、晉に海面よりのみならず陸上よりも亦其防備を堅實ならしめ、又貝加爾の何れかの地點に要塞を築造せんことを希望するものなり。之が爲めには、資金の外に尙時日を要す。極東が尙混沌たる状態にある間は、該地方に大なる兵力を保持すべしとのことなり。傳聞する所に依れば、此兵力は戰時編制の七軍團に達すべきものにして、これが大部分は後貝加爾並にイルクトヌク縣に配備せられ、勿論之が爲めには數多の兵營を増設すべしとのことなり。

西伯利亞に新に軍管區を劃定せられたるも、是等の決議ありしが爲めなるべし。

尤大なる西伯利亞管區はオームスク軍管區と改稱せられ、イルクトスク、エニセイスク兩縣並にヤクートスク、後貝加爾の兩地方を以て、新にイルクトスク軍管區と劃定せられたり。斯くの如き變更は、是、我政府の對極東軍機の、將來嚴重なる防禦的性質を有するに至りしことを示すものなり。

又同新聞は極東通と題して論じて曰く。

予(通信員)は第三西伯利亞軍團司令官レンネンカムプ將軍の親近者なる某氏と會議するを得たり。談話は、近頃端なく頻りに風説を傳へてレンネンカムプ將軍の談話なりと云へる所謂復讐問題に及びたり。

談話者は予に告げて言へり。レンネンカムプ將軍が復讐云々の説をなさざるは、既に足下等の新聞にも報せられたる如し。併しレンネンカムプ將軍が復讐云々の言をなさざればとて、是未だ必らずしも戦争の思想が極東に於て主なる觀念となり居らずとの謂ひにあらず。寧ろ極東に於ては何人も皆現今の平和を以て只一時の休戦に過ぎずとなすの確信を懷けり。日本は我國內の不幸なる時運に深く注意し、疑ひもなく新なる戦役に至便なる時機の將に到來すべきを期待す

るものなり。今予輩の見る所を以てすれば、聖彼得堡に於ては極東事情の真相を敢て知らんとも欲せざるが如し。

極東に於ては、漸くに到來せる靜穩は、恰も是將に襲來せんとする大なる恐怖の前驅たることを思はざるべからず。日本の清國に對する關係——忽ちにして能く複雑なる事態を生すべき關係に對して、最も眞摯なる注意を怠るべからず。日本は最も無禮なる仕方を以て滿洲南部に其恐るべき鐵鎖の用意をなしつつあり。清國が黙して屈服し居る間は、日本人の侵略を忍び居るも將來必らず清國は清國自身の爲めに武装するの時機到來すべく、其徒黨をなすものは確に獨逸なるべきを忘るべからず。日清兩國の反目は最も迅速に進みて、政界の地平線に暗雲を漲らし來たることを忘るべからざるなり。

韓國事件に關しては、同國に容易ならざる騒動の起るは皆日本の細工なり。ポーツマス條約の結果と日本人の巧妙なる手腕とに依りて、韓國は全然日本の掌裡に歸し、韓國に於ける露國の勢力は全く地に墜ちたり。之を要するに、最近の戦争は日本をして偉大なる帝國たらしめ、日本が極東に對して覇權を掌握せんと企

圖するは、決して偶然の事にあらず。且つ日本は或點まで確に極東に於ける運命の完成者なり。日本人は最も慧敏なる政治家にして、且つ最良なる軍人的人民なり。若し日本人が能く成功に迷ひて其均衡を失ふことなくば、確に偉大なる未來を豫言せらるべき國民なり。

又日本人は、彼等が畫策せる目的を銳意決行し、其成功の爲めに献げざるべからざる犠牲は瞬時と雖躊躇せざりき。然るにわが露國に於ては、全く其反對なりき。其人命の損失は何事に限らず怨謗と不平とを喚起し、非常に吾人の働きを劣弱ならしめたり。我露國の兵卒は確に勇者の資格を示せり。吾人は彼等に對して感謝せざるを得ず。然るに上級士官は遙に彼等に劣れものありき。不幸にして露國にては考究的の注意甚だ乏しかりしに反して、日本は最も巧妙に考究を遂げ、最も廣く其探究の結果を應用せり。我等は官僚的陋習と繁文縟禮の爲めに非常の害毒を蒙れり。

予(通信員)は又對話者に向ひ、貴下は大方露佛、日英の政治的接近の想像談を耳にせられたるなるべしと問ひたるに、彼は左の答をなせり。

然り、此問題に關しては新聞にも讀み亦或談話をも聞きたり。斯くの如き協商は、極東の平和を利するに相違なし。然し予輩は日本の企圖如何を明かにせず、予は先に卿に告ぐる所を反復せざるを得ず。即ち極東にては新たなる戦役を想像せり。平和主義が復讐主義を壓するを得るや否や疑はし。日本には伊藤侯の如きありて、國家の成功を平和の間に求めんとする政治家あるは吾人の知る所なり。されど日本には好戦黨の一派がなかく、勢力を有して、彼等が勝利を得ることあるべきを信せざるを得ず。吾人は不測の禍難に備へ、如何なる變事の襲來するあるも、突然不意の事を免るゝやうに全力を注ぎて準備せざるべからず。我内國の不幸は、日本人の如き方法の何たるを嫌はざる巧智なる政治家に取りては甚だ至便なる場合なるべく、必らずや露國內の紛擾を自家の便益に利せんことを期し居るに相違なし。先きに言へる如く、日本の好戦黨の勢力はなかく、侮るべからず。彼等好戦黨は將に來らんとする新たなる戦役は、國家をして一層光榮なる戦争の記録に富ましむるものと確信せり。

予は吾人が平和を締結したるは大なる膠策なりしと信する者なり。其後の成功

は吾人にありしに相違なく、昨の不幸は大なる欣喜と變じたるに相違なし。然も既往は追ふべからず、只將來の事を眞面目に思ひ、先づ第一着に西伯利亞鐵道複線工事のことを慮らざるべからず。是實に極東に於ける我露國の運命の依りて懸る所の最緊急事業なり。予は將に之を切言せざるを得ず。

露國は西伯利亞の開發拓殖を企圖し、大に其植民地としての勢力を發揮せんと試むるに當り、ノイヴエーヴレミヤは、ハンニバル門に迫れりと題して、西伯利亞植民政策を論せり、曰く。

農民問題は、我露國に取りては最重要なる緊急問題なり。幸ひにして此問題は議會に於ける巧辯者輩の擾々たる議論外に、各人の爲め將國家の爲めに別に最も正確に又最も平和に解決せらるべき道あり。即ち農民問題は専ら移民政策に依りて解決するを得べし。若しそれ西伯利亞の地圖を繕きて之を一瞥せば、此問題に就き紛々たる議論を圖はすの要なきを悟るべし。東部並に西部西伯利亞の土地は實に渺茫無限の曠野なり。此渺茫たる千里の沃野が、今日に至るまで人民の繁殖を見る能はざるは、この事業を畫策する者なく、亦西伯利亞は氣候不良にし

て耕耘にも困難なるが如き先入主となれる見解ありしが故なり。政府にても今日まで西伯利亞の移民問題には深く注意せず。又歐露の地主輩は、移民を行はるるに於ては自然労働者の賃銀騰貴し、歐露の地所の價格下落することを恐れて、成るべく西伯利亞の移民を避けたりしなり。されど農民問題が端なく社會黨無政府黨の熱心なる援助によりて、現今最も恐るべき導火線となり居る事を認めば、何人も移民事業に反對する者あらざるべし。

西伯利亞の耕耘の困難を云々する者あるも、是、西伯利亞を識らざる者の言にて、其地味の豊饒なるは少しも歐露に異ならず。特に西伯利亞の氣候風土は、歐露の芬蘭並にアルハンゲルスカヤ縣に酷似せるものあり。若し此兩地方の農業が、近來非常の進歩發達せることを目撃せば、西伯利亞地方も亦忽ち一大農業地となるの敢て難きにあらざるを悟るべし。要は大に移民を行ふにあり。我露國が西伯利亞の沃野を有して容易に移民を行ひ得るは、獨逸伊太利、愛蘭等の諸國が年々他國に移民を行ひ居るに比すれば、國家將來の發展上非常なる有利の幸運を有し居るものなり。故に露國は西伯利亞に對して、銳意移民を行はざるべからず。

の豊饒なる未來の大農地に移民を行ふの必要は、既に久しく諸外國人の着目せる所にて、此事に注意せざるは此沃野の主人たる吾人露國人のみなり。吾人は茲に一の紹介せざるべからざる重要事あり。日露戦争中未だ旅順陥落前の事なりしが、米國の外交家は我露國に提議して、若し我露國が沿海州の領有を放棄する場合には、ボスポラス海峡を領する條件を以て英國の協諾を得て、この保證を以て交戦國の間に名譽の平和を速に恢復するの意見を提供せられたり。米國人は敢て自ら沿海州を領有せんことを欲するにあらず。即ち讓與せられたる土地に、恰も合衆國の一地方の如くに獨立の領土を成立せしむる目的なりしなり。兎に角米國人の希望は、將來米國は太平洋を渡りて此對岸に來たり、其地歩を堅め、太平洋を以て米國の一湖池となさんとの希望を、如何にもして實行せんことを期するにあり。米國人の此野心は、目下の所清國に於て之を實行すると困難なるを以て、我露國に於て之を實行するの容易なるを認めしなり。試みに我國の政治家のなす所を見よ、彼等は日露開戦前に我國の一切問題はボスポラスにあるが如く絶叫して、亦一人の極東並に西伯利亞に關して思想を費せる者なかりしにあ

らずや。然るに幸ひにも米國の提議が我當局の容るゝ所とならざりしは、實に國家の大慶なりしなり。若し吾人は極東沿海州を放棄してボスポラスに自由を得たりとするも、ボスポラスに果して能く一事をなし得べきか。ボスポラスに於ける諸方面の利益に對する競争者は、實に少小にあらざるなり。ボスポラスに於て我に利益を收むるは、之を極東に比すれば一層困難なり。現今の情勢に於て時に然りとす。今や極東に於ける我國の位置は、侮辱的位置に陥りたりと雖、未だ以て拱手なす所なき失意の極に陥りたるにあらず。况んや極東邊境は我に取りて非常の價值を有するに於てをや。

吾人は勿論、我極東邊境を米國人に讓與することを夢想するものにあらず。極東露領は一大富源なり。極東は必らず近き將來に於て我財政を豊富ならしめ、我國家をして流血の騷擾なからしむるを得るに相違なし。

西伯利亞並に極東に關して我國人の智識の暗きと前述の如くなるが、それに附けても吾人は、我國人をして西伯利亞と極東とが、我露國に取りて其意義如何に重きかを十分に確知せしめ、且つ斷えず此事を紀念せしむる必要あり。試みに我

露國の財政を見よ。我國家の歳計は年々歳入不足を以て計算せられ、何時も困難なる。然も高利なる外債を以て之を埋め合せ居るにあらずや。現今の如き場合に外債を成立し得たる如きは、眞に僥倖事と云はざるべからず。されど外債は、只僅に一時の猶豫し難き必要に應ずるまでのことにて、將來に於ける財源は之を何處に發見すべきか。無論天與の富源なる極東に於て之を得るの外他に途なし。されど記憶すべし、自ら勞せずして得らるべきもの一もあるなし。移民を行ふにあらざれば、極東は一も吾人に助くる所なかるべし。故に極東に於ける無盡の富源を適當に利益せんと欲せば、現今急速に黑龍江沿岸の北方に鐵道を敷設せざるべからず。此鐵道工事は、特に極東には、近き將來に於て新に戰爭の起るなきを保せざるを以て、最も迅速に敷設せざるべからず。若し同地方に鐵道を有せば、十年乃至十五年にして、最も自由に三百萬以上の移民を行ふを得べし。之に就いては移民の爲めに一文も國庫の補助を要せず、唯移民者に土地を與へて全くその所有地たらしめ、一定の期間免租を行へば、それにて足れり。若し新に競争起ることありとも、過去の戦役の時の如くに、我等の一も利益なき地方の爲めに何故に戰

争するの必要あるかと云ふ如き言をなす者なかるべく、却つて未來の戰爭には、國民自ら己れの寇の爲めに戦ひ、凡ての者は擧つて國土を防禦すべし。歐露にある者も能く極東に於ける戰爭の意義を了解するなるべし。

然るに、黑龍江沿岸には能く三百萬の植民をなすを得べく、若し全西伯利亞に移民を行ふ場合には、一千五百萬の移民は容易なるべし。我露國に斯くの如き土地の基本ありて、之に依りて流血の衝突も争論もなく、全く平和に、個人私有の土地を奪ふこともなく、農民問題を解決し得るは、實に幸福なりと云はざるべからず。我國民は農民問題の斯くの如き解決を得ることを思はず、濁水の中に魚を漁せんとするもの、皆此に同意せざるなり。

鐵道を敷設せざれば、極東の富源を利用する甚だ困難なりと雖、普通の道路開通も尙能く移民を助くる便あり。注意すれば、極東の豊多なる漁業、その森林、若くは礦産物等、皆是、移民を招致する聲にあらずや。然るに今日に至るまで、此富源は空しく放棄せらるゝにあざれば、我競争者我敵人が、吾人の資源に依りて利益を占め居るなり。極東に於て漁せらるゝ鮭は、ブラゴヴェネチンスク市に於て一フ

ント(我百九勿強)五コベックなるが、之をハンブルク市場に輸出すれば、一フントの價實に三十コベックなり。柔毛皮類も此くの如き有様にて、今日の所は米國商人に利益を與へ居るに過ぎず。森林の如きは、未だ斧の入りし所なく、空しく放棄せらるゝに過ぎず。其鑛物の産額に至りては實に無盡の天産にして、未だ何人も一指を觸れざるも、容易の方法を以てして之を得らるべし。

極東邊境地方の富源の一例は、現今の採金事業を一瞥するも明かなるべし。現今黒龍江沿岸に於て採掘せらるゝ金は、數百ブードに過ぎざるも、金鑛脈の地積は黒龍江沿岸のみにて、實に二萬九千三百平方露里に互れり。此金の包含量は採鑛百ブードに對し一勿とすれば、之を少なく見積るも實に純金の在鑛は一千六百〇七萬五千五百二十ブードの莫大なる金量なり。我國の金の平均本位を八九二として其代價を四留四十六コベックとすれば、一ブードの金の代金は一萬七千八百四十圓に相當すべし。されば黒龍江沿岸の金鑛の富は實に三千四百三十三億五千九百萬留なり。是只黒龍江沿岸の一地區域のみにて、沿海州其他の西伯利亞地方を算入せざるものなるが、其他の地方の金鑛に至りては更に驚くべきも

のあり、吾人は極東に於て此くの如き富源を有しながら、西歐洲に於て恰も救恤を仰ぐが如くに憐むべき外債を願ふことを思はば、卿等果して如何なる感想ありや。若し我政府も社會も惰眠を貪り、我政治家が目前有利の事業を企圖せずして擾々たる紛論をなし居らば、其責任は何人にありや。

西伯利亞、極東、黒龍江沿岸は、實に廣大なる金庫なり。吾人は此金庫を開くの鍵を發見せざるべからず。是今日尙未だ我領有なる富源の邊境を通過すべき唯一の關鍵にて、我國民代表者の宜しく千思萬考すべき重大問題なり。吾人の目前には、極東に於て吾人が爾く輕忽に始めたる失敗の戰爭に比すれば、更に最も恐るべき一層危険なる新なる戰爭の幻影横はれり。若し吾人再び其準備を誤らば、誰か亦其責任を負ふものあらんや。

予は前論に於て、かの日露戰爭中に米國政府が、若し露國に於て黒龍江沿海州に獨立國を成立せしむることを許諾せば、直に平和を締結せしむべしとの、公然の提議をなしたる最も確實なる事實を傳へたり。當時此提議が問題とならざりしは實に感謝に堪へざるなり。此最近十年間と云ふものは、我國の政治家は彼等の

實際の實力以上に買ひ彼られ鋭敏なる者の如くに思はれたり。米國人及び諸外國人は我極東と其富源に對して倦むものにあらず、又渴望を中止するものにあらず。彼等は一方に其志を得ざれば、方法を更へて必らず他方に現はるるなり。諸新聞の傳ふる所と私信の報する所とに依れば、彼得堡に米國人ロペリ氏來遊して、白令海峡を通過する米國鐵道の計畫に關して運動し居れり、又其外にも近時佛國より西伯利亞の新鐵道若くは西伯利亞富源開發の特許を得んとて來れる者もありと。又風説に依れば、同一目的を以て英國よりも資本家來遊すべしとの説あり。

斯く諸外國人の續々來たるは、少しも怪しむに足らず。前に述べし如く、吾人よりも一層明かに西伯利亞の事情に通じ居る外國人は、決して惰眠を貪りて安閑として居らざるなり。彼等は、最も困難と見ゆることも、露國に於て許諾を得るはさまで難からずと想像せり。歐米各國人は我露國の現状を以て、かの隨分無禮の事をも敢てなすを意とせざる清國同様に、尨大不振に陥りたる國の如くに想像し居るにあらずや。現今かの過激黨が土地共有問題を提げて、種々の騒動をなさん

とする場合にも關せず、外國人は土地所有の特許を得んとて來たるなり。諸外國の臣民は露國に於て一度何物かを得れば、彼等は其權利を確守して動かざるなり。試みに國會の過激黨に向つて之を問へ。其土地剝奪法案は露國にある諸外國人にも適用すべきものなりや、或は諸外國人には從前の通り其所有地を管理せしむべきか。秩序と正義の上よりすれば、外國人所有の土地を沒收すべきにあらずや。若し之を要求して外國人の應せざる時は如何に處理すべきや。若し諸外國政府が其國民の權利を保護する爲めに、恰も土耳其に對する如く手詰めの談判をなす來らば如何にすべきやと。彼等は此の問題に對して答ふる所を知らざるべし。佛、獨、英等の諸國民が露國に於て領有し得る所の土地所有の權を、露國民自身は之を領有するを得ずとは、我農民と國民との福祉を熱心配慮し居る者の、果して以て満足し得べきことなるか。彼等は生れて露國民となりて、外國人となり得ざることを嘆するなるべし。

以上は枝葉に亙る議論なるも、甚だ切要なるを以て之に論及したる次第なるが、今本論に立ち回りにて、植民問題を論究すべし。吾人の主張する所は、農民問題を諸

人の爲めに最も便利に最も穩かに解決すべき方法にして、吾人は銳意之を主張せんと欲する者なり。勞働者農民の移住に關しては、議會に於て一言も之に論及せるものあるを聞かず。只彼等は沒收と剝奪とを主張して已まざるなり。然るに西伯利亞及び極東に向つて移住民を行ふ時は、土地問題は各人の爲めに亦他人所有の土地を渴望する者の爲めに、平和に何人をも侮辱することなく解決せらるべし。此問題は只獨り經濟上より解決せらるゝのみならず、同じく政治上よりも解決せられ、現今無防禦に曝露せられある我極東の國境を實際に防禦し得べし。移民は茲に於て専ら國家的の意義を有するに至るべし。近頃、黒龍江沿岸の鐵道敷設の急須と題する一書出版せられたり。是、近來屢、ノ・ウ・エ・ヴレ・ミヤに於て予輩が幾度か主張したる所の意見にして、此新刊書はモルデーヌイ氏(大金礦家)陸軍技師ドンチニコ氏、陸軍中將ベレンゾフ氏、黒龍江水路司令長官の任にありたる商業會議員モルチアノ・ウイ氏(ハニコフの茶業豪商)メルクロフ氏(浦鹽の商人)等、幾分か同地方邊境の事に通曉せる人士の説を集録せるものなり。故に此書は西伯利亞に於ける各種の商工業、並に専門的に同地方の事を研究せる

知名の士が、一致せる事の意見を發表せるものなれば、斯くの如き人士の所説に對しては特に注意を拂ふの價值あり。吾人が此一書に對して特に趣味を感じたるは、此書が吾人の數次ノ・ウ・エ・ヴレ・ミヤ紙上に於て、植民及び西伯利亞に關して主張せる點を、遺憾なく唱道せるを以てなり。即ち西伯利亞に於て利益を獲得することに關しては、決して從來の如くなるべからず。今日迄不問に付せられたる富源地を拓殖して、之を防備せざるべからざるを明かにせり。此一書は、概して専ら西伯利亞が露國の中央都市に對して有する價值と意義とを明かにせるものなり。此書は西伯利亞邊境に對する社會の注意を喚起する爲めに、大に吾人の意を得たるものなるを以て、尙一言本書の内容を茲に紹介すべし。同書は先づ一九〇〇年後特に日露戰爭後の東部西伯利亞の事情形勢を明かにせり。嗟、回顧すれば今を去る十年前、吾人が惡運なる東清鐵道を敷設する頃までは、露國の清國に對する關係上、吾人は堅固なる地歩を占め、清國は露國を尊敬し之を重視せり。然も今やその痕跡とも見る能はざるなり。現今東方に於ける我敵は從前の如く一國にあらずして二國となり、日本一國にあらずして清國も亦敵

國となれり。同書に論じて曰く、若し露國は南方關東半島に對する侵略運動の成功に慢じて、其勢力を韓國に擴張する如き事なく、對清政略を持したりしならんには、一九〇〇年の清國事件も日露戦争も起らざりしなるべく、縦し起る事ありとするも、不注意に敵をして我國の不備に乗せしむる如き事を演出せしめざりしに相違なし。拳匪事件は歐洲の抑壓に對する反動として、起りしものなりしを以て、我露國は之に關與するの必要を有せざりしなりと。

予は前述の議論の全部に對して賛成する者にあらず、特に後段の一節拳匪の亂は、西歐洲の壓制に堪へずして起りたる者なれば、露國は之に與かり關せずとの一説は、予の全然賛同するを得ざる説なり、清國內の諸新聞の掲載せる所と、國內の輿論とに徴して考ふれば、日清戦争の終るや否や、歐洲列國は下ノ關係約締結の際に、清國に對して現はしたる盡力功勞の報酬として、清國より先を争ひて其領土の一部を割取せんことを謀りしかば、清國人は此状態を見て何れの區別なく、一般外國人に對して非常の惡感情を懷くに至れるなり。されば我露國は、他列國に比すれば最も廣き清國の領土を割取しながら、獨り吾人のみ拳匪の蜂起に

與かり關せずと云ふを得べきや。英國の獲たる威海衛や、獨逸の得たる一小灣、若くは伊太利が得ると間もなく放棄の意を示したしたる一小地の如き之を、我露國が清國より割取したる廣大の版圖に比すれば、殆ど云ふにも足らざるなり。故に列國に對しては、清國の愛國家並に密かに北京宮殿内に於て唱へられたる不平不滿の程も自ら明かにて、此不滿が他列國に對するよりも、特に此露國に對して最も甚だしく爆發せるものなること明かなり。

當時李鴻章は、何故に滿洲を我露國に賣渡したるかは、當時の歴史的書類が將來此事を明示すべし。李鴻章は眞實の支那人なるを以て、滿洲と滿洲朝廷に對して含む所ありしなるべく、これに依りて同朝廷の爲めに禮を盡くさず、彼が將に持すべき節義と關せざるが故に此事をなしたるか、或は李鴻章が何か他に思ふ所ありて滿洲を露國に與へたるか、これを確言するを得ざるなり。予輩の豫想する所を以てすれば、彼狡猾極まる支那人は、吾人が他國の領土を侵略して自ら己れの首を經るに至るべき困難を豫知し、萬事の責任を我に負はしむるを以て、却つて策の得たるものとなして、滿洲を與へたるにあらざるなきか。

兎に角李爺が我に滿洲を與へたる動機は不明なるも、清國の多數民が我露國の行動に不滿なりとは斯くの如き場合に他の一般未開人が不滿を懐くに同じかりしなり。されば我靜穩なるブラゴウエヌチエンスク市に對して、突然砲撃を加へたる事件は、これ明かに清國愛國家の露國に對する態度の真相を、全く明かに示せる者と云はざるべからず。吾人は斯く論ずるも、著者の前の一説は大に吾人の意を得たるものとして賛成する所なり。旅順、大連等關東半島を侵略する如きは、全く無用の業なりき。事業家が利益を得る爲めに企圖したる鴨綠江事件の如きも亦然り。皆これ露國の利益をなすものにあらざるなり。當時清國人は前きに日本と平和條約を締結する際になしたる露國の盡力は、これ唯露國の侵略政策に出でしに過ぎざりしことを看破せり。此政略はウキッテ伯の在任中に實行せられざりしなり。實に然り、之に對するウキッテ伯の露國に於ける責任は、決して輕からざるなり。一切の侵略政策は、皆これ詭計なり。隣邦の不幸は大に憂ふべき事なるも、吾人は自らなさんとする政策より生じ來たる結果を悉く豫想せざるべからず。佛國は伊太利統一に盡力したるその報酬としてニス、サウイを得たりしも、伊

太利人は之が爲めに大に不滿を懐き、佛國に對する忘るべからざる遺恨となれり。然り吾人は下ノ關係締結の際に清國人をして、我に對して特別の關係を感せしむる程の事を果してなしたりや、清國は關東並に滿洲を失ひて、如何で我に對して満足を感じざる理あらんや。

極東に於て我露國の領となし得べかりしは、人煙稀少にして清國の爲めには殆ど不用なるも、我露國に取りては最も重要な北部滿洲なりしなり。されど今此事を思念するも既に遅し。北部滿洲の一部を割取して、之に據るに當りて出來得るだけ其勞を越くして、成るべく衝突と騷擾とを避けざるべからざりしなり。斯くの如くして穩に北部滿洲を割取せば、黒龍江の右岸は我有に歸して、同河流は

我國内を通過する最も重要な河線となるべかりしなり。今や我露國が大々的な企圖をなしたる後、その結果如何といふに、黒龍江の右岸の領土を得る代りに、吾人は依然として其左岸に止まり、我清國との境界は以前に比すれば一層甚だしき無防禦の曝露せられたる邊境となれり。今や吾人の清國接境上に於ける位置は、恰も雅克薩條約以前の西伯利亞に於ける位置の如

くなりて、清國の勢力は現今次第に強くなり來りて、我に對する清國人の感想は又昔時の如き者にあらざるなり。我不利なる戦争と屈辱なる媾和——吾人が當時戦地に約百萬の兵力を集中しながら、戦ひよりも尙有利なりとして締結せられたる平和後は、清國に於ける我軍の威名と國家の威信とは全く地に墜ちたり。元來亞細亞人は古來尊ぶ所の自得する所は、只武力の一のみにて、彼等は常に弱者を蔑視し、之を凌辱せんとするものなり。吾人は將來に於て武力を以て此威信を恢復するを得るや否やは是、難問題なり。然るに吾人が現今東部西伯利亞に於て占め居る位置の状況は、新たに葛藤の生ずる場合に對しては、全く無防禦の狀態にあるものと云はざるべからず。現今の情勢に徴すれば、此新衝突は何時起るや知るべからざる有様なり。何となれば我敵は我國家と思想界の狀態と機關とを出來得る限り十分に知悉せるを以て、敵は自家の便利の時に之を利用すべく、彼は決して拱手して時機を待つものにあらざるを以てなり。

以上論ずる如くなるを以て、吾人の畫策施設すべき最急務は、最も迅速に西伯利亞の黒龍江左方に新鐵道を敷設するにあり。吾人は敢て左方と云ひて左岸と云

はざる所以のものは、若し新鐵道を左岸に敷設せんか、獨り殆ど無益なるのみならず、同鐵道は何時も危害を免れざるべきを以てなり。ポーツマス條約によりて東清鐵道は、開戦の場合に之を軍事行動の目的に使用するを得ず。同鐵道を何程延長するも同一條件の下に置かるべきものなり。故に實際の上よりすれば、若し吾人は獨り、現存の鐵道のみ用ひざるべからずとせば、吾人は國境防禦上に實際何等の交通機關をも有せざるものなり。而して敵が二方面(即ち日清聯合軍の事なるべし)より我に對して侵襲を始むる場合には、東清鐵道を利用し得るものは、悲しい哉吾人にあらずして即ち清國人なりとす。敵は既に軍隊の數を以て、善く吾人を壓迫するに足るべし。彼等の軍隊は果して如何なるものなるかは、今日の所何人も之を確信するを得ざるなり。兎に角吾人は唯東部西伯利亞のみならず、全露國を防禦する爲めに、一時も猶豫すべからざる二個の策あり。即ち新鐵道の敷設と極東移民是なり。ハンニバルは門に迫れり、宜しく此一事を記すべし。

其經費は固より莫大なるものに相違なきも、幸ひに此兩事業は實際結合せられて一事業を成立する者なり。此兩事業は兩者互に相保持し、且つ國家の防禦に一

日も猶豫すべからざる事業なり。若し國會議員諸氏は何れも實際家にして、今日歐洲諸國の物笑ひとなり、吾人の敵の喜びとなり居る國會の欺論巧辯に代つて實務を尊重せば、彼等議員は必らず極東問題と西伯利亞の事を以て、最急須の企圖となすに相違なし。況んや此極東邊境の爲めに、土地問題も全く平和に根本的に解決せらるゝに於てをや。實際國家の土地に無限の猶豫ありて、其數量性質の上より見ても少しも遺憾なきに、此國家の猶豫ある土地を利用せずして、土地總體の沒收を云々するが如き、其愚に驚かざるを得ざるなり。讀者宜しく茲に記する數字を記憶せられよ。是西伯利亞に於て、此土地を得るは然く容易なるに、國會議場に於て——其黨派の何たるを問はず——土地沒收を絶叫する爲め、如何に無智なるかを示して餘りあるべし。移民に適する土地は、唯黑龍江地方のみにて、も實に二千萬デシヤナ（一デシヤナは我一町一段四畝八歩を以て算せらる。此外に黑龍江地方コサツク兵村の地所五百七十八萬デシヤナは黑龍江左岸にありて、コサツクは土地を耕すこと甚だ稀少なるを以て、多くは殆ど無人の荒原なり。此廣大なる地所の中より耕されたる分は、百二十八箇の移民村に分配されたる九十

九萬八千デシヤナに過ぎず。若しコサツク兵村には、更に手を觸れずに計算するも、只黑龍江一部のみにて、この廣大なる地所を一人平均十五デシヤナを分與するものと假定するも、優に妻子を除きて戸主百三十萬人を移住せしむるを得べし。前記の移民適當地二千萬デシヤナ以上の地所の計算は、これ正確なる根拠を有する計算にて、特に之を所管する者の言明する所なるを以て、確信するに足るべき者なり。彼等（前記著書中の人物）は或は其職責を以て、或は冒險的事業の爲めに自ら邊境を跋渉して、親しく目撃せる所を言ひ且つ證するものなり。

西伯利亞の他の諸縣に屬する地所は、茲に記述せざるも、之を識らんと欲するものは、之を調査すると左まで難事にあらず。されど、久しく耕耘に適せずとせられたる同地方の産物に就きて一言すべきことあり。黑龍江地方の地所は、一デシヤナに就き平均穀類七十ブード（一ブード四貫三百外強）を收穫するを得べし。沿海州地方は平均百四十ブードに達す。此地方に産する穀類は、小麥、裸麥（春蒔）大麥、蕎麥、燕麥、其他各種蔬菜、芋類是なり。

斯くの如く極東西伯利亞の地は、農民が歐露に於て有すると同様なる一切の要

求を満足せしむるに足るべし。極東西伯利亞が、農業地として又植民地として、露國に取りて有する意義は、恰も滿洲の英國に於ける如きものあり。但し西伯利亞極東は歐露と地續きの連絡あるを以て、吾人にして能く同地方の事を慮りたらんには、滿洲が英國より分離したるが如く、然かく容易には分離するを得ざるなり。

吾人は斯くの如く何等の抑壓も強制をも行ふことなく、土地問題を社會の一般利益と、露國の福祉とを増進せしむる様に解決するを得べし。吾人は之に依りて我東方の國境を眞面目に防禦し、且つ其富源を開拓するを得べし。若し吾人は祖國の光榮なる名譽を思ひ、祖國をして滅亡に陥らざらしめんと欲せば、上述の途に依つて土地問題を解決するに盡力せざるべからず。國民の代議員たる者も、土地問題を斯く正當に解決するとなくんば、其使命を辱かしむるを免れざるべし。かのダブルノ將軍がモルデノ氏に向つて、烏蘇里鐵道と東清鐵道の合併問題に就きて、極東の生産は歐露より極東の爲めに支出する所を償ふに足らずと云ひたるが如きは、實に奇怪千萬の語と云はざるべからず。歐露が極東を利用せざるは

何人の責任なるか。吾人は此事を言ふも尙憤慨に堪へざるなり。極東を國民の爲めに利用せられんことを請願し懇求し、且つ要請せられしこと果して幾たびぞ。ダブルノ將軍の言は、これ自然左の如き斷案を與へしむるものにあらずや。即ち極東西伯利亞は收支償はざる地方なるが故に、宜しく之を放棄して之を獲んとするものに與ふべしと。されど何人も斯くの如き愚をなすものなかるべし。若し吾人は無智なる政策を弄して、極東に數億の金と數萬の人命を犠牲に供したりとせば、邊境のため成否を意とせず、本業を企圖すべきか。抑も又之を放棄すべきかは一目瞭然たるべし云々。

又巴里レテネルジ・フランセース紙上に、極東通信員よりの所報として露國の地位に関する一論文あり、曰く。

最近三四箇月以來、東部西伯利亞及び一般極東に関する露國諸新聞論調の變化は、實に驚くべき者あり。戦争前にありては、西部西伯利亞は云ふを待たず、滿洲に於てさへ露國諸新聞は、露國の地位を以て拔くべからざるものなるが如くに論ずるを以て常とせり。而して其滿洲の開放を拒み、戦争破裂の日に至るまで、朝鮮

問題に關する日本との交渉に於て、其交渉の地域を限らんとしたる等の事實より之を見れば、露國諸新聞は熱心誠意露國の地位の抜くべからざるを信じたる者なるが如し。然れども今日に至りては、露國諸新聞は露國が將に東部西伯利亞を失ふの危険なることを確信し、而して之を救ふの道は唯外國移民、資本家及び商工業者の爲めにトランスバイカル州を開放するにある旨を唱ふるに至れり。露國新聞の今日等しく懐ける所の憂慮は、之を三年前に於ける絶對的安心に比すれば、其對照頗る人を驚かすものあり。藝にノヴェレミヤ紙上に現はれたる左の論説を讀まば、庶幾くばその憂慮の程度を窺ふを得べし。

「吾人が太平洋北岸の領土と交通するの道は、一部清國の領地を通過する所の一條の鐵道及び黒龍江に依ると、なほ外に海上極東の諸港と相通するの道あるのみ。」

而してこれ等三條の交通線中、海上の道は冬期全く杜絶するを以て其用最も少なし。これ既に日露開戦中確然證明せられたる所なれば、此交通線は之を問題外に置き、また巡洋艦運送船等の派遣を思ひ立つべきにあらず。黒龍江は一年中、半

ばは氷結によりて閉ぢられ、支流シルカ江は下流四百ウルストにわたり、即ちスリードウワテルーに近く、黒龍江の始まる地點、シルカ江とアルゴン江との相合するに至るまでは、岩礁處々に散在して舟行に便ならず。之を以て黒龍江を利用する交通は、延長四百ウルストに亘る鐵道支線を敷設したるの後にあらざれば、到底之を採用すべからず。これ約五千萬留の經費を要する所なるが、而もなほ此鐵道の便を借るとするも、この交通線は一年中五箇月よりは之を利用すべからず。更にスリーテンスクを下りて、四百ウルスの間、シルカ江の兩岸は砂礫より成るを以て、舟行の點より云へば甚だしく困難なり。此くの如く露國を極東に連絡する第二の交通線は、夏にありては頗る不安全にして、秋冬春の三季にありては全く其用をなさず。即ち軍事上大價值を有するものにあらざる事之を以て知るべきなり。残るは唯一の東清鐵道あるのみ。これ他國の領土を走る所のものにして、狹隘なる地帯に沿うて配置せられたる多少の露國軍隊に依りて保護せられ居れり。

一九〇四年、同五年以降、吾人は實に滿洲を占有し、該鐵道の南方の地域を占領し、

黄海に臨んで城砦を築き、海上更に一艦隊を有する、杯前途の希望洋々たるものありき。之に加ふるに清國の局外中立あり。吾人は戦争の進行中、能く自ら該鐵道の遮断を制止し得るの地位にありたりしが、今や形勢全く一變し、日本人は旅順口及び吾人の鐵道の約六百ウエルストを占有し、現に哈爾濱より二百八十ウエルストの地點まで迫れり。吾人は戦争開始の場合に於て、其軍隊に十分の兵力を附與せんと欲せば、滿一箇年の日時を要すべく、而も如何なる場合たりとも自ら攻勢に出づること能はざるなり。これ我艦隊の喪失以來殊に然りと云ふべし。此くの如くにして、日本人は吾人の抵抗を與ふるを得ざるに至りて、早く既に哈爾濱に進撃するを得べきなり。

加ふるに近隣日露の間に戦争の起るに當りては、清國が局外中立を維持せんこと甚だ疑はしと云ふべく、或は政府に於て之に與からずとするも、清國人が戦争に對して主動的態度を取るべきこと、常に之を豫期するを得べく、或は一九〇〇年のボリア戦争を學ぶに至らんも知るべからず。事一たび茲に至らば、該鐵道はまた吾人の有にあらす、橋梁は爆薬の奇禍に罹り、全線路は破壊せられ、鐵道は全

く存在せざるに至るべし。之に次ぎて馬賊若くは政府の軍隊は久しからずして、警備なき吾人の國境及び黒龍江を涉らすと云ふことなく、即ち極東に於ける吾人の交通線を遮断するに至るべし。茲に至りて、我太平洋沿岸と領土との唯一の交通線は、頗る依頼するに足らざるものなるを看取するに難からず。蓋し吾人に對して單に之にのみ依頼したらんには、吾人は毫も交通線を有せざるに至るの危険を蹈むこと甚だ大なればなり。此結果として、我極東領地の全部、我太平洋沿岸一帯の地、我堪察加及び樺太の半部は全く保護なきに終り、敵艦隊に取りて易々たるの獲物たるべきなり。

吾人は今や既に太平洋上一の艦隊を有せざるのみならず、今後と雖、日本にして一たび新に開戦を宣言したるに際しては、能く之を保つを得るや甚だ疑ふに堪へたり。即ち我極東領土の状態は、之を左の如く説くを得んか。曰く全領土は純然たる沙漠にして、人口稀薄に、自ら外敵に當るの力なく、吾人にして之を保持せんと欲せば、茲に強大の軍隊を駐屯せしめざるべからず。而して此軍隊は露國本土より送遣するの外なきは人の能く知る所なり。此くの如くなれば、此領土或は少

なくとも太平洋沿岸の土地は露國と何等交通の途を有せずと云ふも過言にあらず。沿海一帯の地江流の口嘴島嶼等は敵艦隊にして之を攻撃せんと欲せば、常に其欲する所に委ねありと云ふべく、朝鮮に接せる國境亦毫も警備を有せざるなり。これ實に極東に於ける露人の地位の概要なり。

然れども、此領土の長く現状に安んせんことは、思ひも寄らざる所なり。我太平洋沿岸の富源は甚だ大にして、而も之が保護を缺くポーツマス條約にして、既に日本人に與ふるに我沿海に漁業をなすの權利を以てし、従つて諸般の侵掠の爲めに廣大の範圍を開ける以上は、外人の手を爰に下すは必然の數なりと云ふべし。それ既に然り、吾人は自ら此富饒の土地を警護して以て之に備ふべく、若くは移民を移植し、之をして富源を開拓せしめて以て自ら其利を收むるの策を講せざるべからず。蓋し植民事業の歴史は、人煙稀に土地開けざるの國土は、或は開拓に拙なりとするも、一時も早く移民を移植するにあらざれば、到底之を保護し能はざること明白に立證し居ればなり。

要するに此地方の距離の遠きと、其廣袤の甚だ大なるとは、吾人をして殆ど其保

護を不可能ならしむるものにして、殊に極東に於ける現状は之をして益、不可能ならしむるものと云ふべし。是を以て、今日名目上、吾人に屬するも、其實は所有者を有せざる此極東の領土に對して、吾人は何等かの守備を講せざるべからざるなり。然れども吾人にして、若し面目を保ちて極東の全領土を分散し、由りて以て自ら黄色の亞細亞人、又は白色の米國人が之を掠取し去るの光景を目撃するの汚辱を免かるを得ば、これ更に策の上乗なるものなり。即ち我東方問題に關しては、些の感情論を容るべきにあらず。これ單に有るかなきか (To be or not to be) の問題なればなり。吾人は此點に關して沈黙を保つこと能はず。問題の重大なる事及び其關係の如何は、吾人の決する所にあらざればなり。吾人にして動かざらんには、他先づ動くべく、吾人は之を欲すると欲せざるに拘らず、自ら此問題と對峙せざるべからざるに至るべし。吾人は或は古來の習癖に従うて其機を逸したるの後に至りて、之を研究するが如き事なしと云ふべからず。然れども極東問題の吾人に取りて重大なるや、全露國人民が帝國議會に於て之が決議をなすの外あるべからざるなりと。

これノ・ヴエ・ウレミヤの論する所にして、執筆者は嘗て旅順ノウイ・クライに筆を執りたる事あるレウイトフ氏なり。氏は三四年前旅順にて、黄海のボスポラスてふ朝鮮海峡に關して一小冊子を著はし、其兩岸は空しく日本の手に歸して、太平洋に於ける露國をして、黒海に於けるが如く不利の地位に陥らしめたるを慨せり。然れども氏は今や露國の朝鮮海峡を掌握せんことを主張する者にあらず。却つて露國極東の領土の全く日本の手に歸するに至らん事を恐るゝものにして、之を未然に防がなが爲めに、貝加爾以東の西伯利亞を全然外國商工業に開放せんことを勧誘し居れり。即ち此地方に於ては、自由貿易を宣布し、通行券制度は廢止せられ、外國貿易に對する諸般の牽束は、すべて撤回せらるゝに至るべきなり。茲に至るは軍隊の駐屯を要せざるべく、唯警察のあるのみなるべし。レウイトフ氏の説によれば、此等の施設は英米國人の來りて資本を放下したるの後になすべきものにして、彼等は直に其土地に利害關係を有し、従つて日本人の土地侵略に對しては、極力反對するに至るべきなりと。此驚くべき畫策は、之を世間に向ひ、既に有名なるイグナチーフ伯の賛同を得るに至れるの事實は、露國人の如何に窮

困の地位に陥れるかを語りて明かなりと云ふべし。彼等は今や既に極東駐屯軍の經費を支辨し得ざるは明白の次第にして、今より幾年ならず、守舊黨と自由黨との間に、必然起るべき猛烈なる争鬭の露國本土を震撼するに際して、太平洋沿岸内領土に生ずべき惨事は、今より憂心忡々たるに値ひするものあり。而して彼等は既に此惨事に指を染めたるものにして、開戦の初めに當りては西伯利亞鐵道の列車の通ふこと一日十七回なりしに今は唯七回となれり。これ實に同盟罷業より生ずる秩序の頽敗に由るものにして、線路に使役せられたる職工の殺されたるもの少なからざればなり。今や汽罐車は、兵士に由りて指揮せらるゝ不備の状態にあるのみならず、曩に莊麗目を眩せしめたるの客室は、今や殆ど貨車と選ぶなきの有様にして、今春擾亂の際にありては、東部西伯利亞との關係は全く斷絶し、爲めに當時滿洲にありたる一將軍は、皇帝蒙塵して新政府起れる旨、軍隊に宣布したるなどの奇談あり。加ふるに西伯利亞は、流刑せられたる革命黨員に依りて開拓せられたるものにして、國中錚々の名士にして鐵鎖の下に爰に來れる者一二のみにあらざれば、共和政治の精神従つて甚だ盛なり。之を以て、若し日

本にして今後更に露國と戦端を開かんか、東部西伯利亞は共和政治を宣言し、悠々其果を收むるの時日を待たんのみなるべし。然れども東部西伯利亞は、果して白哲人種の共和國たるべきや、或は又黄色人種の領土たるべきやは疑ふに堪へたり。今日にありては、清國の太平洋沿岸に於ける地歩頗る鞏固なるものあり。露國にして若し其地歩の如何許り鞏固なるやを解し得たらんには、其憂慮更に一層の大を加へん。清國は露國の腐敗を利して、其領土の一部を得るに至るべきか。露國に取りて最も恐るべきは、此地方に於ける清國人の知識、露國人の上に出づるにあり。清國人は清露兩國の語を語るのみならず、又必らず自國の語を書するを得るに、露國人は概して之を書する能はざるなり。予は恐る、露國が今日征服者たるの特權を失ひたる以上は、露國人は公平無私の競争に於て、遂に能く西伯利亞の清國人に勝つ能はざらんことを。

明治四十年に至り、日露間の媾和條約中、未了の問題交渉に關し、ノーヴェヱグレミヤは我對日協商と題し論じて曰く。

吾人は既に再應此問題を論じて、日本政府と交渉中なる我外務省は此際左の二箇の重要問題を有し居る事を論述せり。即ちポーツマス條約第十一條にて、日本人に許可せられたる漁業權問題の解決と、樺太島南岸に於て漁業に従事せる露國臣民の被りたる損害の賠償問題はなり。此二問題は或共通の點を有し、其外形よりすれば、兩問題は共に漁業の事に關係せり。一は從來の露國人の漁業を終了せしめ、他の一は日本人の爲めに新に漁業を始めしむるにあり。されど此問題が其外形類似し居ればとて、吾人は決して事件の根本を忘却すべからず。此兩問題を混同するが如きは、大なる誤謬たるを免れず。日本人に與ふるに我極東沿岸の漁業權を以てするが如きは、これ實に國家に取りて重大なる關係を有する事件なり。陸續たる日本の多數移住民を露國領の本土に移住土着せしむる如きは、將來必らず容易ならざる事件の錯雜を來すを免れず。假令移住し來たる日本人は甚だ善良にて、決して其移住を以て政治的根據を造るが如き野心を有する者にあらずと假定するも、外國人に莫大なる土地使用權を許可する如きは、政治上並に國家防備の見地より觀ても、將來幾多の困難を醸すものならざるを得ず。故に

吾人はなほ再言す、日本人漁業問題は最も注意すべきものにて、十分其筋の詮議を要する問題なる事を。一些事と雖、十年も経過したる後には、最も危険なる紛争の種子となる事なきを保せず。

露國臣民が最初樺太島に保有し、今彼等が之を利用するを得ざるに至りたる權利侵害の賠償問題は、これ全くの別問題なり。こは、利益の權利問題にして、何等異論もなき明瞭なる問題なり。日本人は固より此權利を守るの義務ありて、損害高を計算して之を賠償すれば、それにて足れる次第なり。今日此問題を解決することも、日露兩國の間に何等の友誼を害する如き事あるべからず。

露國は日本人に與ふるに漁業權を以てし、日本は浦鹽に於て掠奪に遇へる商人の損害賠償の要求を放棄し、之に依りて協定を成立せしめんか、これ全く露國の不利益を買ふ者なり。即ち日本の我に讓歩する所は一時的のものにて、露國の日本に讓與する處は永久的のものなり。毎年の百留の收入を一時の百留の現金と交換するの愚を學ぶ者果してありや。若し我等の識る所にして誤謬なくんば、我政府は即ち此誤謬をなさんとする者なり。我國の識者が之を以て危険となすも、

又敢て杞憂にはあらざるべし。

伯律婁市のランデパンダンス・ベルジニ(一月六日)は日露間の商議を論じて、先づ列國が此商議に注意せるを叙して曰く。

各國の論調區々にして、其最も悲觀せざる者も、世界の治亂は此商議の結果如何に關すと言ひ、又極めて悲觀する者は、先年の瘡痍未だ癒えざるに及んで、早くも日露戦争再び破裂すべきを論じ、一般に危険を感ずる迹歴々徴すべきものあり。果して然らば、必らず之を防止するの術なかるべからず。歐洲の或政治社會にては、日本が極東に頭角を顯はすに至れるは危険の始めにして、其奉天旅順對馬の戦勝は、即ち日本人をして最も其武力を自覺せしめ、世界の強國亦恐るゝに足らすとの感想を起さしむるに至れりと思惟せるが、今日列國中最も日露商議に小心注意するものは、蓋し英國ならん。英國は日本の同盟國たるに於て殊に然るものあるべく、曩にポーツマス講和の時は、日本に勸めて其條約を承諾せしむるに努め、近頃又露國と接近せんことを欲して、日露再び滿洲の野に戦ふに至るならんことを願ひ、隨つて商議の成行に就きては、列國中倫敦獨り樂天論をなさん

と試み、かの倫敦デーリー・テレグラフの露都通信員の報道、先日の日々新聞紙上、日露の干繋と題して兩日に互り記載したるもの如きは、甚だ之を悦ばざるなり。同通信員は曰く、日露兩國は今回妥協する能はずんば、戦争は唯時日の問題ならんのみと。

ランデバンダンスは更に日露の妥協に就きて曰く、

妥協誠に可なり。然れども、これ容易にして成らんや、露國は領土を極東海面にまで擴張し、不凍港を得んとして日本の爲めに妨げられ、心中悶々に堪へず、而も今尙其失敗を自認して新發展の地を他に求むることを思はず。又日本政府は講和條約が國民の意に満たずして大反抗を招きしに顧みて、この一舉に幾分なりとも其失敗を回復せんと欲す。此に於てか、日本は初めより幾多の要求をなし、而して露國は之を峻拒す。兩國亦何すれぞポーツマス條約に省みざるや。蓋しポーツマス條約の本文は、意義茫漠、ウキッテ伯の當時思量し及ばざりし點にまでも敷衍解釋し得べく、例へば松花江通航權、及び沿岸漁業權の兩問題の如き、又殊に極東露領に在住する日本人に露國移住民と同一の權利を承認せんことを求めたる

問題の如き即ち是なり。世間所謂日本の要求中には、傳ふる所其實を過まり、誇大に失するものも固より之あるべしと雖、兩國商議を重ねる毎に互に新要求を出だすに於ては、何れの日か能く終らんや。此くの如く言はば、日本は不可行の要求をなすと云ふに似たれども、日本は決して此くの如き誅求を強ふる者にあらずるは明白なり。既に朝鮮を保護國とし、旅順を收め、露人を滿洲の奥に逐ひたれば、又其活動發展を害するものあるなく、而して今又國民の爲めに計りて、此等の地に各種の便宜利益を得るに努むるものは、即ち其活動發展を保護する所以にして、苟くも露國にして之を妨げずんば、また兩國何をか憂へんや。妥協は立地に成るべし。然れども日米の便宜を收めんとする要求には、其眞の利害と鈞合はざるものあるは疑ふべからざるに似たり。日本政治家がポーツマス條約の失敗と、今回の商議に於て回復せんとするは、是、人情の常聊か怪しむを要せずと雖、然も毎に過大の要求をなし、世界列國の不滿を招くが如きは、斷じて日本の眞利益にあらざるなり。日本は新興國なれば、列國の感情を害せざるを得策とす。日本が今日の地位を得たる第一階段は日英同盟なり。今又露國と接近するを得ば、その今後

の發展途に如何ぞや。元んや今日は民力を休養し資源を開發するの要あるに於てをや。我輩は乃ち日本政治家の難きを露國に強ひすして止むを信じ、世間の悲觀説を意とせざるものなりと。

ノイヰツニツレミヤは又國防論を試みて曰く。

日露戦争に於て我國の敗衄を招きたる故により種々の評論内外に起りたるが、同問題に關する種々の意見中にて最も主たるものは露國の戦争に準備せざりしを以て敗衄の重なる原因となすもの是なり。此説蓋し其當を得たり。我國の準備を缺きたることは已に多くの事實の示す所にして、今更證明するに及ばざる所なり。何故に吾人は戦争の準備をなさざりしか、是實に重大なる問題にして、之を解決せざれば、吾人は將來の戦争に際して、今回の如き敗衄を再演せざらんが爲め、何事をなすべきやをも言ふこと能はざらん。

我國人中には、國家の兵力は其何國と戦ふべきやの問題の解決如何に拘らず、戦争の準備をなすを得べしとの説をなす者あり、軍人中にすら此説を持する者あるが如し。されど現今の軍事の状態にては、此くの如き説は決して當を得たるも

のにあらず。敵の誰たるか問はず、戦場の方面如何を論せず、諸般の場合を見込みて戦争の準備をなすべからず。即ち唯一定の方面の戦場を目當てにして、一定の方略の戦備を講ずるを得べきのみ。今や昔と異なり、兵數の頗る多きと軍事の非常に錯雜なるに依りて其需要夥しく、糧食と云ひ軍需品と云ひ、各種技術的の設備と云ひ、十分之を貯ふること必要なり。此事情の爲め、平時已に國境附近の地方に一定の策源地を作りて、兵員集中の時期は勿論、開戦の當初に必要缺くべからざる諸種の物品を貯藏し置くの必要あり。然らざれば、兵員集中の時期に際して、倉皇策源地を作らざるを得ずして、之が爲め兵員の集中非常に遅緩となりて時期を失せん。

日露戦争に於て、我兵は戦役の終るまで狹隘なる輸送線に由りて滿洲に輸送され、最後の部隊の戦地に到着したる時には、戦役已に終局したる時なりき。且つ吾人は設備の割合に完全ならざる一直通鐵道線のみを有したる外、我兵集中の遅々たりし原因は、兵員集中と同時に多數の貨物を輸送したる一事にあり。若し平時に於て、此等の準備已に成りて、各種の材料極東の策源地に蓄積せられたらん

には、我軍を滿洲に集中したること、少なくとも二倍早かりしならんと斷言するを得べし、吾人若し一方面の衝突を豫期せず、漫に各方面に對し戦備を整へんとせば、西部國境にも高加索にも土耳其斯坦にも、西部及び東部西伯利亞にも、諸方面に策源地を作らざるべからず。然れども露國より富める國と雖、此くの如き準備に堪へざるは論を俟たず。數月間數百萬の兵員に供給するに足るの物品を購求輸送するの一事、已に莫大の經費を要するとなるに、之を保管するが爲め多くの倉庫を要し、之を管理するが爲め多數の官吏を要するのみならず、其物品を新鮮に保持すること極めて困難にして、時日を経過するに従ひ不用に歸するもの多きは到底避くべからざることたり。加之、策源地を安全にせんが爲め、技術的の防禦工事を施し、要塞を築き、防備地區を設け、交通線路を十分完全に、安固なる交通路を以て内地と策源地とを聯絡せざるべからず。これ皆策源地設備の經費を益増加するものなり。

以上、策源地の設備に就き説く所に依れば、戦備を速に整へんが爲めには、豫め何の目的を以て此戦備をなすやを明かにすること必要にして、他語を以て之を云

へば、國家が如何なる外交的問題を解決せんが爲め、戦備をなさざるべからざるやを豫め決定せざるべからず。此問題を決定せしむれば、兵數及び軍隊の編成の如き軍事上の重大なる問題をすらすら決すべからず。吾人は今平時百二十萬の現役兵を有す。此兵數多きか將、少なきか、此間に答ふるには、我軍果して何國と戦ふを豫期するやを聞きたる後にあらざれば、不可能の事たり。若し豫め目指したる一國のみを敵とするに於ては、其對手國の兵力如何に由りて、或は多きに過ぐるることならんも、世界各國を敵とするに就いては、前記の兵數にても固より不足なり。凡そ軍隊に各兵種を設くるに當りては、その軍隊が如何なる任務を遂げんとするか、に顧み、其目指す戰場の性質と敵の兵力の組織等に關して、其兵數の多少を定むるものことす。例へば若し吾人再び山地に於て騎兵に乏しき敵と戦ふが如きことあらば、我騎兵は十分と謂はんより、寧ろ餘分ならんも、平原に於て多くの騎兵を有する敵と戦ふに於ては、我騎兵猶恐らく不足ならん。

此くの如く、吾人が我陸軍を擁する目的を確然明白となさざる以上は、其數の果して十分なるや、并に各兵種の互に相當の釣合を保つや否やを明言する能はず。

彼是共に全く根據なく偶然的のものたるのみ。陸軍の武装も亦或程度まで前記の考慮に依りて斟酌せらるるものなり。日露戦争に於て吾人は山砲の不足を感じたり。吾人は曾て山地に於ける大戦の準備をなさざりしを以て、誠に當然の事とす。砲兵を平原に於ける戦争の爲めにも適し、山地に於ける戦役にも適する如く、豫め準備せんとせば、是、二重の兵種を準備するに等しくして其煩に堪へざらん。

又我輜重の如きも、歐露及び其附近地方の輸送に適する二頭曳の車輛多きを占めたるに、滿洲に於ては全く其用をなさず、急速二輪車を以て之に代へ、又は駄馬輸送となしたることあり。將來若し中央亞細亞に於て戦ふが如きことあらば如何斯かる場合に於ては、吾人は又大に駱駝の輸送と同地方の運搬車を利用する事となりて、茲に第三種の輸送方法を設備せざるを得ざる事となるにあらずや。戦備の問題は以上説く所にて未だ盡きたりと謂ふべからず。將來の戦役の勝算を安固にせんとせば、其戦争の起らんとする戦場の状況を自國領のみならず、敵地に對しても豫め十分緻密に探查すること極めて必要なり。吾人は平時に於て

已に同方面に逼り實地探查、報道、蒐集、嚮導者、探偵養成等の設備をなすこと、猶日本が開戦前滿洲及び東部西伯利亞に對して、萬遍なく施設したるが如くせざるべからず。然れども、此くの如き設備、果して我と接壤の各方面に對して、逼り施設するを得べきや否や蓋し疑はし。

以上説く所は、陸戦に關する事のみなるも、海戦に關しても亦此説を應用すべき點少からず。海軍も亦陸軍の如く設備完全なる策源地あるにあらずんば、巧みに艦隊を操縦して勝利を期する能はず。吾人は現に日露戦争に於て之を實驗したり。我海軍は極東に浦鹽港、及び旅順口の二箇の根據地を有したるに過ぎざるに、開戦の初めより兩港間の交通は斷絶せられたり。蓋し朝鮮海峽沿岸は、日本人の手にありたるが故に、我軍艦同海峽を自由に通航すること能はざるを以て、事あるの日、兩港間の交通の斷絶は見易き道理なり。我艦隊の主力は旅順口に封鎖せられ、逸出するに由なかりしを以て、前途全く望みなき者となり、僥倖にして逸出せるも其益なく、一九〇四年七月二十八日(日本の八月十日)の戦闘後、我艦隊の大部分は再び旅順口に歸らざるを得ざる仕儀となり、旅順陥落と共に全滅せり。

又艦隊より分離したる軍艦は、局外中立國の港に避難して、戦役の終るまで無爲にして碇繋したり。海軍の勢力及び組織も亦猶陸軍の如く其任務如何に關して定めざるべからず。我内海の沿岸を防禦する爲めには、恐らく非常の高價を要する二萬噸位の巨艦を要せざらん。吾人若し攻勢的目的を遂げんと欲せば、先づ其目的の何處にあるやを明かにせざるべからず。通例艦隊なるものは、商船隊の増加するに従ひ起るものにして、軍艦は商船を保護し、商船は艦隊に補充の資を給するものなり。然るに我國には商船隊なるもの殆ど皆無なるを以て、我攻勢的目的は、或は大洋に於て敵の艦隊と戦ふか、或は敵の海上貿易を殲滅するの外にあらざるべし。然れども彼是、共に我攻勢的艦隊の動作せんとする海上に、防備を嚴にして艦隊に要する物品を貯藏し、破損を修覆する設備を有するの海軍根據地なかるべからず。而も我國には斯かる根據地なく、將來亦之を設備するを得るや否や疑はしきを以て、海上に於て海國民と相争ふが如きは、吾人の思ひも寄らざることなり。

各種の物質的材料を以て、戦争の準備をなすの外、精神的關係に於て準備するこ

とをも忘るべからず。此準備は獨り陸海軍のみを目的とせず、國民全體を目的とすべきものなり。須らく國民をして、國家の外交政略の大義のある所を知らしめざるべからず。若し國民にして、戦備が國家の死活的利益の防禦を以て、目的とする戦争を見込みて行はるゝことを悟りたらんには、平時に於て之が爲め要求せらるゝ犠牲をも自ら諒として忍ぶ所あらん。而して一たび干戈相交ゆるに於ては、國家人心の激昂する時期に際して、勝利の精神的要素たる高尙なる忠勇の義氣を發揮するに至る。人民には、既に小學校時代より國家休戚の因りて懸れる大問題の趣旨を、其頭腦に貫徹せしめざるべからず。

此くの如き方法にて、始めて國家危急の時に際して、勝を制するの主因たるべき愛國心と敵愾の氣象とを養成するを得ん。漫然唯隣邦との衝突に際し、驟然として起つゝ覺悟をなすの必要を悟らしむべく、人民を養成するは不可能の事にして、此くの如き戦争の無目的にして勝算の期すべからざること論を俟たず。斯くして人民を養成すると共に、吾人はその骨肉たる軍隊の愛國心をも養成するを得ん。凡そ軍隊にある者は、皆十分明白に國家が軍隊を養成準備する一定の目

的を了解せざるべからず。軍人は之を悟るに於て、其業務に興味を感ずべし。漫然唯萬一の場合を期して養成するが如きは、單に學校的の日課を與ふるに等しく趣味なきものたらん。

吾人は日露戦争に於て、屢補充兵、就中老兵が戦役の用に立たざることを聞けり。然るに一八七七年、同八年の露土戦争に於ては、今の三十七八歳の補充兵よりも老年なる補充兵ありたるに、其役に立たざりしとは吾人の曾て聞かざりし所なり。露國民豈かの時より、斯くも衰弱したるか。想ふに露土戦争に於ては、機宜の一般に宜しきを得たる外、兵卒が戦争の目的を了解したるもの、戦局に好影響を及ぼしたると少なからざるが如し。同宗教徒及び同種族民を、異教徒の權下より救脱せんとすることは、露國民の一般に懐抱する所の希望にして、露國の一丁字を知らざる兵卒も百姓も、土耳其との戦争を以て一種の十字軍と見做したり。此れ年長の人々をして、能く行軍の苦痛を凌ぐの勇氣を起さしめたる所以なり。此くの如く、戦備は唯豫め一定の對手を目的とするに於て、始めて成功すべき者と論定して、茲に一疑問を提起せん。即ち若し或敵と一定の方面に於て戦ふの準備に汲々たる際、全く他の方面に於て突然豫期せざる國と戦ふの已むを得ざるに會せば如何との問題はなり。

我輩之に答へて曰はん。戦争の起るは常に豫知するを得べく、而して或場合に於て容易の業にあらずとするも、之を避くるを得べし。幸ひにして、かの四方に割據して、性急傲慢なる諸侯が、徒に武を輝かさんが爲めに戦ひを起し、何人と雖何時孰れの方面より隣邦の來襲すべきやを豫知すると能はざりし中世の暗黒時代は已に遠く過ぎ去り、又かの區々たる西班牙の王位繼承、其他人民の死活的利害に何等の關係をも有せざる事件に依り、軍を起したるが如き世襲争ひの時代も已に過ぎ去りたり。今日の戦争は幾百萬の貔貅、武装したる人民が、國民自身の已むを得ざる死活的利益の爲めにのみ演ずるものにして、戦争の爲め國家の資力と犠牲とを要すると夥しきを以て、何人と雖重大ならざる事件に口實を藉りて、開戦の決心をなすが如き者あらじ。斯かる事件に就いては、協商して相和するの餘地あり。唯國家が眞に危急存亡、黙すべからざる場合に迫りて、自ら防ぐに止まるのみ。

外交と軍備繋聯運動の如何に重大なるやは、戦近の歴史の明示する所なり。普魯西人は曾て埃太利及び日耳曼の一部分と戦ふに當り、能く佛國をして此戦ひに干渉せしめざるを得たり。若し當時奈破翁三世にして、其兵に鞭ちてライン河を渡らしめたらんには、該戦争の結果や全く趣を異にしたるならん。次いで四年を経るに及び、普魯西は今次は已に日耳曼諸邦と同盟して、佛國と大戦争をなしたるも、曩に普魯西に敗られたる埃太利は、此機に乗じて復讐を企てんとせず、局外中立を嚴守したりき。

獨逸軍を養成して、連戦連勝の月桂冠を得せしめたるモルトケ將軍の英才勤勉には敬服すべしと雖、若し獨逸聯邦統一の大目的を主旨としたる戦争を起さん、が爲め、外交上の施設宜しきを得たる大政治家ビスマーク其人と提携畫策するにあらざりせば、恐らくモルトケ將軍の多年の勞も水泡に歸せしならん。此二人の不屈不撓の多年の勤勞にて、此目的は美事に遂行せられたるのみ。

又曰く、我極東露領の經濟的發達と安固とを謀るの策は、西伯利亞に其數裕かなる河川を航通に便なる如く施設し、水路の交通機關として之を利用するにあり。

オビ及びエニセイ兩河間の一運河を、航通に差支なく施設するのみにても、貝加爾より烏拉爾の麓に至るのみならず、聖彼得堡及び歐洲に至るの連綿たる水路を作るを得ん。若し此水路に加ふるに、黒龍江を以てしたらんには、貝加爾よりスレーテンスに至る一千露里を除くの外、黒龍江口のニコライフスクは、水路にて聖彼得堡及び歐羅巴と連絡せられん。我東部及び西部領土間に於ける貨物輸送上、此水路は西伯利亞鐵道に對し、有力なる補助線となり、同時に附近地方の發達及び植民に益するを得べし。我輩は殊更此廣大にして連綿たる大水路の露西亞大帝國の幸福、及び安穩の發達に取りて、緊要なるを測るべからざる者あるを以て、茲に本問題を提起して之を實行するの急務なるを絶叫せん。我東方露領の防備を安固ならしむるに缺くべからざる第三策は、同地方に十分の兵力を配置するにあり。若しそれ、日本にして自國の島國位置を占むるに拘らず、又自國海軍力の著しく發達したるを以て、足れりとせず、益々陸軍を擴張し、自國政治家の口を藉りて、公々然其擴張の目的、露國に備ふるにありと揚言するに於ては、露國の如き大陸に據るの國は、自己の遠く隔りたる東方領土を防衛するが爲め、同地方

に十分の兵力を配置せざるべからざるは論を俟たず、加之、輸送の時間を節約し、且つは莫大の輸送費を投ずるを避くると共に、陸軍貨物を以て鐵道を填塞し、以て通商の利益を損せざらんが爲め、前記兵力に必要な武器被服糧食萬端を、同地方に於て直に供給するが如き設備をなさざるべからず。此缺くべからざる需要を満足ならしめんとせば、直に鑄鐵所、造兵廠、火藥製造所、並に製絨所、及び其他軍事上に必要な毛織物製造所等を設立せざるべからず。我輩はスレーテンズクを以て、亦之が設立に適當の地と認む。然れども、之を難する者ありて曰く、此等製造所設立經費は幾何ぞと。予は固より専門家にあらざるを以て、此間に對し、確答すると能はずと雖、今日其效益の大に疑はるゝ一裝甲艦の製造費より高價ならざるべしと思ふ。且つ之に就きて忘るべからざるは、此等製造場が土地の勞働者に工賃を得せしむると共に、地方の經濟上發達及び繁榮に至大の影響を及ぼすもの疑ふべからざる是なり。加之、事苟くも我祖先が多年の勞を費して獲得し、全露國の疑ふべからざる藩屏となる地方の防備及び經濟上の發達と、亞細亞に於ける露國の勢威を回復する唯一有效の方法に關するに於ては、經費の問題

の如き彼は言ふべき餘地なし。况んや其經費たる頗る生産的にして非常に鉅額ならざるに於てをや。又最後の策としては、國防てふ一大事件に關して、恐らく至緊至要の處置たるもの、我東方露領を迅速に植民するにあり。此植民なるものは、其直接の目的たる地方防備の任務を遂行しつゝ、目下の難問題たる土地普及問題を當然平和に解決することに尠からざらん。

又かの有名なるリームスキークールサコフ氏は、前段掲記の「極東の危險論」に對し、反對論を唱へたる爲め、ウ侯爵は之に對し更に論じて曰く。

海軍彙報第一號に、曾て本紙「リームスキークールサコフ氏は、西伯利亞複線か海軍か」と題する論文に對し、リームスキークールサコフ氏は、西伯利亞複線か海軍か」と題する論評を掲げたり。甚だ重要な問題なるを以て、予は反對論者に對して一言答へざるを得ざる者なり。複線工事の一部は既に決定せられたりと雖、今後の歲出は一に議會の協賛に關する所なるを以て、新聞紙上には是等の問題に對する諸種の意見を發表するは、甚だ利益なるべしと信するものなり。リームスキークールサコフ氏も亦ポーツマス條約を以て、同じく是只一の休戰條約に過ぎずとなす

論者の一人なり。氏も亦予輩と同様に極東よりの危険を期待して、熱心に防禦準備の國民の義務を認め居る人なり。然るに防禦の中心點を何れに置くを以て最急務となすやの問題に關し、氏と予とは其見を異にせり。予は防禦の中心點を陸上に置くべしと論ずるに對して、反對論者は之を海上に置くべしと主張せり。リムスキークールサコフ氏は、予の陸上防禦論を目して、専門家の偏狹なる議論に過ぎずとせり。請ふ果して然るや否やを左に論究すべし。

一、陸上の防禦　日本は海權を領有し、上陸方法を有し、並に海岸より滿洲の中原に敷設せる鐵道を領有し、其他戰地に接近し居る事等の諸事は、日本に與ふるに最も便利なる進撃的戰略上の位置を以てするものなり。之に依りて、我露國現今の極東の兵力は、只これ前衛たるの役目を有するに過ぎず。更に敵に打撃を加ふるが爲めには、他に主力を有せざるべからず。果して然らば、此主力を何處より得べきか、其最も有利なるは、平時既に極東に此主力を集中し置くにあり。されど之が爲めには、十年乃至二十年の地方開發の準備を要するなり。蓋し現時の状態を以てすれば、軍隊を置くの便利なく、又糧餉供給の道を有せざるを以てなり。而し

て時日は、我等を待たざるなり。故にいざ戦争となりて後は、歐露より兵力を移送するより外に他に道あらざるなり。西伯利亞複線の至急敷設は、近々の年月の間に、我國を防禦する唯一の方法なり。且つそれ邊境の開發を催進し、邊境をして將來の防禦力を有せしむる確たる條件なり。加之、西伯利亞複線を有せざらんか、黒龍江鐵道敷設の如き、其他の最緊要なる事業も、或時期の間は敵に便利を與ふるの機關たるを免れざるなり。予輩は嘗てゴロスキウイ新聞紙上に、極東防禦の建築物は、現今これをなしたる如くに、屋根より建てず、土臺より、即ち西伯利亞複線よりせざるべからずと論せし事あり。

リムスキークールサコフ氏は、複線に關する此見解を論駁せんと試みて、(一)過去の戦役に我國は單線なりしを以て、十分兵力を集中するを得ざりき。(二)然るに複線となせば我等は二倍の兵力を集中すべきを得べきも、敵も亦更に二倍の兵力を増進するを得べきを以て、複線は我等に何等の利益を與ふるものにあらずと論じたり。然し此二個の前提は、何れも誤謬たるを免れず。

我輩は過去の戦争に十分の兵力を一地點に集中せるにあらずして、漸々若干の

地點に集中せり。即ち遼陽、奉天、四平街等の陣地に集中せり。若し敵の兵力關係を確知するを得ざりしものありとするも、日本側には到底我勝利を期するを得ざる程の壓迫力のありたるにあらざる事は全く明かなりき。遼陽並に奉天等に於て、或數日間我等は十分なる勝利の見込みありしことは、何よりの證據なり。左岸遼陽堡壘の防禦軍の前には、既に死屍を除きては他に目ぼしき敵を見ず、且つ堡壘にては、北方に黒木軍を撃破する爲めに、我軍兵の集中せられし事の報知をも得たり。此時我堡壘は未だ戦はずして勝算歴々、皆勝に酔へる如き勢ひなりき。然るに突然この時に退却の命令に接したり。多少の相違こそあれ、奉天の役にも殆ど同様なり。我敗北には他に幾多の原因ありしなり。戰場には戰鬪に参加せざる大軍あり、且つ豫備隊とせられたる師團あり。上官等の間に面白からざる所もありたり。勝利は目前にありながらも、是等の原因ありしが爲めに遂に之を逸せり。鐵道は其輸送せられたる軍隊に左の如く言へるなるべし。曰く予は鐵道としてなすべきだけの事をなせり。敢て餘りある程にあらざるも、爾等は勝利を得るには、十分澤山なる兵力を輸送せり。今は汝等のことをなして勝利を得よと。論者の

第二の前提は、これ複線の輸送力は、只單線の二倍大なりといふに過ぎず。これ全くの謬見なり。予は手元に正確なる材料を有せざるも、複線は確に單線の二倍半の輸送力を有するものなることを斷言するを得べし。外國には一晝夜に百二十回の發車をなし得る長距離線路なきにあらずと雖、敷設後未だ十年に足らざる西伯利亞鐵道には、固より是、一の理想たるに過ぎず。されど戦争開始當初の三回發車及び戦争終局の頃の十八回の發車と、此理想との差は、さまで大ならざるなり。輸送力を増加するは他にも方法なきにあらず。即ち車輛の乗員數を増加し、且つ平時に豫備隊、若くは若干師團を移送するが如き是なり。

リームスキーク・コルサコフ氏は、我等は貝加爾以東には何處にも兵力を集中し得るの望み全くなしと云へり。論者は過去の戦役の我軍に、困難なりし状態は、複線を有すべき將來の戦争にも、同様に「百萬の軍隊を細き絲の如くならしむるものなり」といへり。何人も複線に於ても我等は絶望なるべく、戦争は遷延すべしと云ふ者なかるべし。されど複線は我等に貝加爾附近に於て勝利を得せしめず、更に東進して黒龍江に於て敵を防止せしめ、決してチタに於てするが如き事なから

しむべし。

又論者は、百萬の軍隊を地球の一極より他の一極まで移送せんとするが如き思想を一掃せざるべからず。現今の器械力は尙未だ我等に之が爲めに十分の方法を與へざるなり云々と論せり。我等は過去の不幸の壓迫に依りて、祖國の事實上の悦ぶべき點を見るの明までも失へり。百萬の軍隊を移送するは、既に想像にあらざりて偉大なる事實にて、既に非常の困難を以てし、不意に實行せられたる事實なり。此數年度には、専門家は此世界の史上に類例なき事實を驚き、研究し、之に依りて軍隊後方任務の機械力の尙未だ調査せられざるものを探究すべし。又論者は西伯利亞複線を敷設するは、却つて黃禍の襲來を二倍速かならしむる者といへり。是更に事理を解せざるの甚だしき論なり。日本並に清國に對して、十分なる陸軍の兵力を集中し得る事の結局の斷案は、果して如何なるべきか。此問題に思想力を以て解決せらるべき問題にあらず。複雑なる然も綿密なる計算に依りて決せらるべき問題なり。計算は獨り東京に於てのみならず、聖彼得堡にてもなさざるべからず。此計算の結果は、茲に敵軍集中の戰場の問題を解決するを

得べし。西伯利亞複線を敷設するを得れば、敵の兵力集中點は單線の時よりも遙に東方なるべきや論を俟たず。若しそれ、敵國が我鐵道に相對し、若くは我鐵道を横斷するが如き鐵道を敷設することあるべきを想像する時は、複線敷設を遅々たらしむるは、祖國に對する大罪たるを自覺せざるを得ず。

又かの有名なるリネウイチ將軍は莫斯科新聞ゴロース記者の極東安全策の質問に對し答へて曰く。

- 極東に於ける我死活的利益を安固にせんが爲めには、予の意見に依るに急務とする所左の如し。
- 第一、速に西伯利亞鐵道複線を敷設すること。
- 第二、駐兵を以て東清鐵道を安全にし、事ある秋に際して直に之を占領し、支障なく之を利用すること。
- 第三、朝鮮が日本の掌中に歸したる後、日本兵侵入の爲め容易となりたる南部烏蘇里地方の位置を安固にすること。
- 第五、黒龍沿道地方に成るべく多く兵を集中すること。

此集兵の件は、予の極東より歸る時、實行するの豫定なりしに、空しく豫定たるに止まれりと。

聖彼得堡の實業俱樂部に於て、パーゼーフ氏が極東露領の形成に就きて演述したる所の大要左の如し。

沿海州オコック海沿岸、堪察加を包含する黒龍沿道總督府管内にある莫大なる天富は、後貝加爾に至るまで殆ど開拓せられず。若し採取せらるゝものありとせば、密獵的行爲のみ、幾百萬留の價格ある森林は、惜氣もなく焼き棄てられ、正當なる伐材業なるものあるなし。之が爲め、同地方の木材の價格は非常に高くして、木製品は小雜貨に至るまで、米國より輸入するもの夥し。鑛業に至りては言ふに足るものなく、當局者は鑛物の採收を企てず、地方に必要缺くべからざる石炭すら採掘せられず。而して民間の鑛業は、海岸を距る百露里以内に於て、採鑛を禁止するの法律にて制限せらる。獨り米國人は此禁止法に束縛せられずして、堪察加沿岸に於て悠々炭坑及び金鑛の採掘に従事す。漁業は日本人の手に歸して、土地の人民は到底彼等と競争するの力なし。我河川の河口并に沿岸は悉く日本人の植

民する所となり、今より十年を出でずして露領沿岸は事實上日本人の占領する所とならん。

是果して誰の罪ぞ。露領地方の經濟上の不順の状態に關して、該地方官憲のみに責を歸するは其當を得ざることならん。知事は管に自ら萬事を注視すること能はざるのみならず、交通の便なきを以て管内の廣漠たる地方を巡視する能はず。又一方には州長官に任命するに、行政管理上の素養なき武官を以てし、彼等は知事の職を以て、恰も過渡昇進の位置の如くに見做せり。總督に至りては更に不利の情態にあり、軍隊指揮の權之に委ねらるゝに依り、行政も軍隊もこの兼任の爲め意の如くなる能はず。移住事業も亦振はず、移住地として區劃するは、烏蘇里鐵道沿線のみにして、當局官吏は最早空地なと上申す。而も其奥には空地多々あるに拘らず、官吏は道路の便なきを以て、鐵道線外に踏み入りて調査をなさず、支那人朝鮮人は、陸續深く内地に入り込みて着々經營せり。抑も極東露領は交通の便なく、且つ甚だ廣漠たるを以て、獨り陸軍のみを以て、之が防備を策するは、不能の事にして、之が防備の爲め海軍を作ること目下の急務なるも、之が製造は、聖

彼得堡に於てせずして、極東方面に於て之を製造すべく、火藥、武器、軍需品、食糧器の製造所も極東に設けること最も必要なりと云ふべし。なほ、終りに臨んで吾人は、聖彼得堡にて極東の事に關し、依然冷淡なるに於ては、近き將來に於て、露國は極東露領と稱するの地を失ひて、露國は全く東洋に出づるの途を梗塞せらるゝに至らんと警告せんぞす。

又ノイヴェ・ウレミヤは、未來の戦争と題し論じて曰く。
 我露國は、未だ嘗て最近の日露戦争の如き悲しむべき戦争をなせる事あらざるなり。我露國の敗衄を以て終りし戦争は、一再に止まらざりき。一例を言へば、一八五四年同五年の我敗衄を招きたる困難なりし東方戦争もありたり。シリヌツリアの役、アリマ、インケルマン、マラホフ、クルガン、セバストポールの退却等の諸戰役もありたり。併し亦バシ、カドイクラルカラス、シーブ役等の勝利もなきにあらざりき。然るに日露の戦争には、敗北に敗北を重ね、最後には耻辱なる和議をなし、地を割くに至りたり。

然らば如何、我等は敗衄の眞因の唯重もなる一事たりとも之を解得せりや。歴史

が我等に與へたる困難なる教訓は何等かの利益となりたるか。我等は果して覺醒せりや、我等は未來の戦争の爲めに備ふる所もあらざるが如し。平和は締結せられたり、戦争は終れり、甚だ可なり。間もなく祭りなり、御馳走の用意すべしといふ。我國民の如くに輕躁なる社會は、恐らくは他にあらざるべし。

先づ政治上の方面を觀察せんか、此戦争は、兩交戰國と極東の事態に直接利害關係を有する列國に、如何なる反響を與へたるか、此利害關係を有する諸國は言ふまでもなく、日露、米英の四箇國これなり。

予は日露戦争前、本紙上に掲ぐるに、太平洋に於ける我國の位置を觀察して、我等は太平洋上に何等権力上の位置を占めん事を要する動機を有せず、我等は敢て他國の版圖を領せんとする必要なし、我等は一意専念に自國の領地と我血族たる全北部西伯利亞及び堪察加とを防守すべしとの説を以てせり。然るに、それに全く反對の事行はれたり、我等は他國を兼併せんとして、却つて自國——富裕なる樺太島の半ばを失へり。然らば我等は今後如何にすべきか。若しそれ既に喪失せるものは之を回復するを得ずとすれば、尙此上に一層大切なる者を再び失は

ざらんことを思念せざるべからず。我露國は之に關して果して何等か施設する所ありや。請ふ吾人をして以下之を窺はしめよ。

現今日本は如何なる状態にありや。日本は何に困りて我隣國となりしや。之を明かにせんと欲せば、須らく日本人の心裡に立ち入りて之を思考せざるべからず。我等は唯此隣邦即ち日本を見たるのみにて、更に日本を解せざるなり。一佛國人は、彼等(露國人)は識らざるなりと題する著書を公にせる者さへあり。然り、我等露國人は、日本人の精神上の力も物質上の力も、日本人が戦争前に貯へたる強固なる結合力も、皆之を識らざるなり。我等は日本人がポーツマス平和の父たる下ノ關の平和條約締結後に、我等を如何に見居りたるかを識らざりき。我等は我弱點の存する所を解せざるなり。されど茲に一の例外あり、こは、我識らざる事の例外として舉示せざるべからず。今を距る十四年前我東京駐劄公使ヒトロボー氏は我外務大臣に熱心懇懇して、ロバノフ侯(横濱領事)をして日本人と結託せしめんとを勸告せり。ヒトロボー公使はロバノフ侯を尊敬せるも、我國人は彼を以て半猿猴として蔑視せり。ヒトロボー公使は實に能く日本を解せる者といふべし。日

本の現状は果して如何。日本國民はこれ勇敢狡猾にして、堅忍に且つ愛國心に富める人民なり。日本人は世界の政治舞臺に現はるゝや、意外の勝利を博し、今や非常の慢心に満たされ、一種のモンロー主義ともいふべき亞細亞は亞細亞人の亞細亞なりとの主義を實行せんとせり。日本國民が實際に必要とするものは土地なり。然らば如何せんとするかといふに、日本人は全力を注ぎて何處よりなりとも其必要とする土地を得んことを熱心これ慮りて已まざるなり。日本は其土地を何處に何れより得んとするか。日本の太平洋に於ける將來の政策は、此問題の決定如何に依りて定まるなり。是須らく我等の了解し且つ識らざるべからざる事柄なり。

太平洋沿岸を領し居るは、露、日、英、米の四箇國なり。清國は其現状より見て先づ例外として可なり。日本は如何にせんとするか。日本は他の三國即ち露、米、英の何れよりその土地を獲得せんとするか。其人民繁殖の過剩を米國に投棄せんとする計畫即ち平和の道を以て北米の沿岸を占領せんとする計畫は、日本の爲めには失敗に終りたり。米國は日本人に對して長き齒をむき出したる爲めに、恰例なる

日本人は米國方面に對しての其版圖擴張の野心を放棄せり。
又三月十五日(四十一年)露都聖彼得堡軍事研究會に於て、ノイグエ・グレミヤの
戰時通信者たりしダブルノ氏は、極東問題に關する演説をなし、次いで討論會
を開きたるに、來會者は陸海軍集會の大廣間に立錐の地もなきほど充滿した
るが、其狀況を記する所に依れば。

遞信大臣シャウフス將軍研究會長男爵メンドルフ大將、遞信次官ウエンドルフ將
軍、上下兩院議員等も其中にありたり。ダブルノ氏は論旨を二段に分ち、先づ極東
の露領は天富の饒多なるのみならず、主として將來剩餘の人口を移植し得べき
地方として露國に有益なりとの點より説き起したり。ダブルノ氏曰く、今より二
十年を経ば露國の人口が二億となり、五十年を過ぐれば三億以上となることを
記憶せざるべからず。今日にして若し露西亞本國に於て土地に狹隘を感ずとせ
んには、五十年又は百年を過ぎたる時には果して如何なるべき前途斯くの如く
なるに於て、假令蜜柑を産せず、バナナを生ぜずとも之を耕せば以て人間らしく
住むを得るの數百萬坪を、豈不要なり餘計なりと云ふを得んや。今日の事のみを

慮るの人民は禍ひなる哉。我極東露領を天然の運に委せよと云ふは、自存自衛の
本性を失ふに等し。

次に論者は論鋒を一轉して、日本が太平洋上の全權を掌握する主人公たらんと
欲するの野心は、姑らく措いて言はず、六十年を経過せば日本の人口一億二千萬
となるべきを以て、之を移住せしむる土地を要するが故に、勢ひ露國を太平洋沿
岸より全く驅逐せざるべからざる情態にありとて、日本との協約に依つて極東
露領を十分に安固にするを期待するの不可能なるを説き、露國は野心を懷抱せ
ざるを以て、日本と協約を締結するは敢て不利にあらざるも、總體條約の遵奉せ
らるゝは其背後に兵力を有する場合に限るものなるが故に、極東露領に有力な
る軍備を設くること極めて緊要なりと云ひ、現在の東清鐵道は此目的に取りて
全く役に立たず、斯かる目的を實行する唯一の方法は、黒龍鐵道の速成にありと
喝破し、同鐵道を敷設すると共に其沿線に露國より勤勉堅忍の人民を移植すべ
く、之が費用の如きは恐るゝに足らず、其經費は終に利益を齎して復び國庫に戻
るのみならず、國境を安全にして、地方を繁榮に趨かしむるを以て、國家全體に利

益を來たすものなりと云へり。
次にダブルノ氏は進んで第二論に移り、黒龍鐵道問題解決の主點たるべき論據を詳述せり。其大要を擧ぐれば、極東に敵を撃退するに足るの大軍を常時駐屯せしむるの不利なるは言ふまでなし。斯かる大軍を駐屯せしむるに就きて要する經費の莫大なるは言ふに及ばず、開戦の當初に斯かる大軍を要せざるを思はざるべからず。加之此兵たる國家の他の國境防禦の爲め動員せらるることあるも知るべからず。今若し鐵道を以て、黒龍沿道地方を露國本土と連絡するに於ては、極東に大兵を駐屯せしむるの要なく、唯此鐵道をして小期間例へば一箇月又は一箇月半内に露國より極東の開戦地に、十分優勢の兵を輸送する仕組となせば可なるのみと云ひ、論者は輸送車輛の特別の構造を畫きて説明し、同列車には下士卒百五十六名、將校四名を收容するに足り、途中兵士は常に將校の直接監督の下にあるを以て、軍紀を亂し士氣を沮喪するが如きことなく、且つ同列車には食堂車を付するを以て、食事の爲め途中進行を中止して、時間を徒費するの不利を避くるを得べしと説明し、右の如き構造の列車を應用せば、乗客列車並に貨車

とも、一箇月半を出でずして露國より七十萬の兵を極東に輸送するを得べく、更に運轉を機敏にしたらんには約百萬の兵を輸送するを得べし。且つ此兵は附屬の砲及び豫備品と同時に戦地に到着して、直に敵に向つて戦ふを得べしと結論せり。

又ノーヴェグエレミヤは、日本人が堪察加のペトロパウロフスクに領事館を設置すること、及び日本臣民の利益保護の爲め、日本砲艦をして、堪察加沿岸を巡邏せしむるを許可せられんことを露國政府に申込み、そのハバロフスク發電を以て、輕々看過すべからざるの電報なりとし、之に就きて論説を掲げたり。其要に曰く。

樺太島交換條約に依り、露國政府は同島の領有後、同島沿岸に漁場を有する日本漁業家に、十年間を限りて漁業を營むの權利を許可せしに、日本漁業家の數は減せずして年々益増加し、其數増加すると共に、同島駐在日本外交官の權力、勢威益募りて露國官憲之に屈從し、其願使せらるる所となるに至れり。其兵力を擁して大陸に交通の利便を有し、廣大の權力を委ねられたる樺太島知事にして、既に此

くの如しとせば交通の便もなく兵力をも有せざる、一郡長の管理に屬する堪察加半島の如き場所に、日本領事館を設置したらんには、堪察加沿岸一帯は、半年を出でずして日本官憲の權内に歸すべし。

又日本政府は、自國砲艦の六吋乃至八吋砲を以て、堪察加に於ける日本臣民を何人より防がんとするか、堪察加に於て何人か、日本人に侮辱を加へたることありや。何人も侮辱を加へたることなし。白令海及びオコック海に於て、侮辱を蒙る者は、日本人にあらずして露國人なり。保護を要する者は日本人にあらずして露國人なり。露國とペトロパフスク間に電信の連絡を通じ、強速力の巡洋艦を堪察加に派遣するは、目下の急務なり、一日之を後るれば、一日堪察加を化して日本の領土となすの機を早むるに等し、日本人の堪察加に於ける目下の利益は、露國官憲に由りて十分に保護せらる。オコック海及び白令海に於ける日本臣民の保護を、此上更に厚うするの必要毫もあるなし、日本人は從來未だ曾て此くの如き希望を表したることなし。畢竟ペトロパフスクに日本領事館を設置し、日本砲艦にして堪察加沿岸を巡邏せんとするは、已むを得ざるの事情に出づるにあらず

して、唯堪察加に於て露國政治に換ふるに、日本政治を以てせんとの野心に外ならざるのみと。

又露國の鐵道計畫に對する印度タイムスの評論に曰く。

數週間前、露國が近く西伯利亞鐵道の複線工事に就かんとするの報道に接せし時、吾人はこの計畫を以て、露國皇帝が出來得るだけ早く、日本と戰端を開かんが爲めに外ならずと評論したり。何となれば、單に商業上の目的に對しては、全く斯くの如き設備を要することなければなり。露國の眞意のあるところは、最近の報道によりて更に明瞭となれり。察するに、露國の要求する所は、複線工事にあらずして、新に一鐵道を建設せんとするにあるべし。此二者の間には、自ら大なる相違あり。諸種の報道によりて察するに、露國の計畫する所は、疑ひもなく左の如くなるべし。試みに西伯利亞の地圖を一見すれば、西伯利亞鐵道の北方に、約一百二十哩を隔て、一短距離鐵道ありて、エカテリンブルグ及びチユーメンの二市を連絡す。露國の計畫はこの鐵道を延長して、烏拉爾山麓のチユリアピンスク及びオムスクに至らしめんとするものに似たり。かくて此兩地間七百五十露里の間は、自

然二條の鐵道を有する事となるべし。而してオムスク及びトムスク間は、西伯利亞鐵道に複線工事を施す計畫にして、之により歐露より貝加爾湖畔のイルクックに至るまでの間に、僅に一千哩許の單線鐵道を殘すのみとなるべきなり。而して後漸次其歩を進め、先づトムスク及びカンスク間の八百露里を複線にし、次で事情の許す限り迅速に其東方に及ぼし、以て歐露と貝加爾湖間の複線工事を完成せんとする計畫なるが如し。

茲に更に重大なるは黒龍江鐵道なり。再び地圖を検するに、現今浦鹽斯德及び黒龍江畔のハバロフスク間に既設鐵道あり。また眼を西方に轉すれば西伯利亞鐵道は貝加爾湖の東方なるカイドロに於て一小支線を出し、ストレチンスクに至れり。現時ストレチンスク及びハバロフスク間には、道路と水路との外交通の便に資すべきものなく、其水路は頗る巨大なる者なれども、しかも冬期間は氷結して其用をなさず、加之其河口は日本の南部樺太の領有によりて、全く封鎖する所となりたり。目下既に日本の一小砲艦は常に其河口を遊弋せり。一朝有事の日に當りては、黒龍江の流域にある露國臣民は、勢ひ饑餓に瀕せざるべからず。黒龍江

鐵道の敷設は露國が日本に對し、確實に黒龍江州を保有せんと欲する限りは、露國に取りて必要上實に缺くべからざるものあるなり。然れども此鐵道の敷設工事は實に甚だしき困難を伴へり。隨所に横はる多數の小河川には、悉く橋梁を設けざるべからず。また此地方に於ける寒威の甚だしき、夏期と雖地下二尺以下は氷結して容易に解けず、其他築堤、隧道等の諸工事も少からざれば、如何に努力するも完成までには、少くとも五箇年の日子を要すべきなり。

吾人は此鐵道計畫に關して軍事上の二大目的あるを見る。其一は軍隊の輸送にして、他の一は黒龍江州の確保にあり。嘗て日露の役に當り、露國は單線鐵道によりて、能く一百万の軍隊を貝加爾湖以東に輸送したり。所謂複線工事完成の曉には、その輸送力は優に二倍すべきや必せり。而して一方黒龍江州は縱令海權を奪はるゝとも、尙克く一強國に對して之を保有するに難からざるなり。茲に翻りて露國の財政を觀察するに、吾人英國人の眼には、此くの如き巨大なる計畫は、恰も狂者の行爲とも見ゆ。然れども露國の極東に對する行動は、他列強國と同標準に據りて律すべからず。而も太平洋の主權は未だ孰れの者とも定かならず。寧ろ

主權争奪の漸く實現せんとする時期にあればなりと。

ノーヴェグエレミアは、最近に於て三たび國防論を試みて曰く。將來日露衝突の際には、日本人は寛城子線に向つて兵力を發展し、其初期唯哈爾濱を以て襲撃の主點となし、滿洲を以て攻撃地帯となすに限るべしと云ふ説あれども、試に東洋の地圖を繕きて瞥見したらんには、日本人が我に打撃を加ふる爲め、自由に他の方面をも選ぶを得て、海上方面より烏蘇里のニコリ斯克を衝くの恐れあるを推測するに難からざらん、この推定説の當否を判せんせば、ニコリスクの占むる戰略上の價值と、同地が海に接近する爲め、攻略の割合に易きこととに就きて數言を費せば可ならん。烏蘇里のニコリ斯克は露國極東交通線の連鎖點にして、露國より通ずる鐵道ハバロフスク及び浦鹽斯德より通ずる鐵道皆茲に集合す。故にニコリ斯克は一朝事あるの日、敵の攻勢運動を沮止せんが爲め、我初期の運動を發展するの策戰根據地たるべきものなるに、同地にして一たび敵手に陥るとあらば、之と同時にハバロフスク、浦鹽斯德及び哈爾濱の交通共に断絶せられん。開戦の當初ニコリ斯克に兵員を集中し、最初の運動が該方面より

開始せらるべきは、我極東の兵員一九〇四年前の如く滿洲に駐屯せずして、黒龍沿道北方にのみ駐屯するに依りて之を知るべし。ニコリ斯克は必らず黒龍沿道軍管區内の兵員集合所となりて、之より東又は西に進軍するに至るべし。されど豈啻に兵を進むるのみにて可ならんや、之に給するに軍需品、糧食等、豫め安全の根據地に準備したるものを以てせざるべからず。黒龍沿道北方に於ける斯かる根據地は、ハバロフスクの外なきを以て、我軍東に向ふも將、西に進むも、之に供給する物資は同じくニコリ斯克を経べきを以て、同地は黒龍沿道軍管區より繰出す所の兵力に對する供給の中繼地たるべし。

今假りに、日本軍の最初の攻勢運動は、滿洲方面に展開すとせんに、斯かる場合に於ては、我極東の兵力は、哈爾濱に集中せられ、南進して援兵の來たるまで日本軍の攻勢を支へざるべからず。然れども若し果して此くの如き事ありたりとせんには、我軍とその根據地ハバロフスクとの交通線は、架空も同様にして、中繼根據地たるニコリ斯克は、東部方面よりの打撃に對して全く防禦力を缺かん。而も日本人が決して此方面に向つて攻勢運動を試みざるべしとは保すべからざるこ

ごたり。何となれば將來の戦争の一大目的は、實に浦鹽占領にあればなり。而してニコリスクは浦鹽斯德を距ること百數露里に過ぎざるを以て、浦鹽占領に向ひたる日本包圍上陸軍は、背後を安全にして動作の自由を得んが爲め、勢ひニコリスクを攻略する事とならん。然るに哈爾濱—ニコリスク—ハバロフスク線は我軍哈爾濱以南に進軍したるの故に因り、無防備なるに乗じて、日本軍はニコリスク占領と共に我軍の根據地たるハバロフスクを陥ること易々たらん。試みに地圖を瞥見せば、容易に此事の實演せらるべきを知るに難からず。

地圖によれば、ニコリスクが海面を距ること近くして、敵襲を受くるの恐れあり、随つてハバロフスク—哈爾濱に於ける鐵道の安固の恃みがたきを知るに足らん。今や浦鹽斯德は極東の要鎮なるに、これを掩護するの海軍なく、沿岸一帶敵兵揚陸の爲め開放せらるるを以て、浦鹽附近に日本軍の上陸する敢て至難にあらず。此くの如くニコリスクは海上より襲撃せらるるの恐れあり。而して開戦の曉滿洲鐵道運轉の安全期すべからずとせんには、寬城子より進軍し來たる敵を邀へ撃たんが爲め、黒龍沿道軍管區より繰出したる兵は、果して如何の状態に瀕す

べきか。萬一ニコリスクにして敵に占領せられ、滿洲鐵道切斷せられたらんに、我前衛隊は如何なるべきか。我前衛隊に應援兵力を加ふるの途を安全にするの策を採用せざるに於ては、該隊の運命蓋し岌々乎たらん。然れども支那人の陰に或は陽に、我に反抗する場合に於ては、滿洲全線の安固期すべからざるを以て、實際我掌裡にある所の烏蘇里鐵道と、滿洲鐵道中、我軍の行動範圍内にあるの線路を、我に保有するの策を講せざるべからず。之を保有するの策は、烏蘇里のニコリスクに、海面より嚴重の防備を施して、之を金城鐵壁となすにあり。

以上は我輩開戦の初期、黒龍沿道軍管區の出兵に就きて説く所なるも、歐露及び西伯利亞より大兵東洋に來たらんか、ニコリスクの防備益、緊要とならん。開戦の場合我目的とする所は、黒龍沿道地方を保有し、因つて以て北滿洲に於ける勢力を保持するにあり。而も此くの如くせんせば、敵をして我緊要なる戰略地點なる哈爾濱及びニコリスクの戦線に竄入せしむべからず。敵にして哈爾濱を占領せば、我軍二分し、一は黒龍沿道地方に、一は滿洲西部に、又ニコリスクにして敵の陥るる所とならば、吾人は立地に黒龍沿道の南部を失ひ、浦鹽と交通を絶たるる

こと、恰も過去の戦役に於て露軍と旅順口との絶たれたる如くならん。我にして浦鹽を失ふに至らば、我極東の位置知るべきのみ。之を失はば亦回復するの期なかるべく、此不幸を避けんとせば、斷じて黒龍沿道南部を放棄すべからず。而して之を保有せんとなせば、ニコリスクの防備を嚴にするの外なし。

露國議會に於ける黒龍江鐵道計畫の討論は、反面に於て對日本の觀察なり。露國上院に於ては、黒龍江鐵道敷設法案調査の爲め、特別委員會を開くこと七回に及びしが、委員會の意見一致せず、下院議員の如く政府案に協賛を與ふべしとする者委員三分の二を占め、外に二箇の少數意見あり、即ち委員中十名の者は一區分宛精密に探検して、敷設の事情を調査したる上敷設すべしとの區分敷設説を主張し、又實業派委員は、歳計の現状に顧みて敷設すべしとの説を唱へたるが、去る六月十二日本案愈、上院の本議に上り、同日午後一時四十分アキモフ議長席に就きて開會し、多數派は三名の議員を出して政府案賛成の演説をなさしめたり。劈頭演壇に現はれたるはスホチン將軍にして、將軍は黒龍江鐵道の軍事上及び政治上に就きて辯ずる所あり。就中同鐵道が極東防備上に關して必要缺くべ

からすとの點に就きて、切論する所ありしが、其一節に曰く。

極東防備線を慮ることは、目下露國に取りて焦眉の急務なり。今や露國は、幼稚にして成立日猶淺き國なる日本と境を接す。從來歴史の實驗に徴するに、國家編成の時期は約二十五年を要するに、日本は未だ遙に此期限に達せず、故を以て吾人は時々刻々彼より襲撃を受くるの恐れあり。

スホチン將軍は、此くの如く黒龍江鐵道は日本との戦争に關して、重大の價値を有するものなりとし、斯かる時勢に際して同鐵道の敷設を無要視するは、獨り政治上の關係に冷淡にして、四海兄弟の思想を懐く者のみと喝破して、大に氣焰を吐き、次いでペトロフ將軍並にチミリヤゼフ氏起ちて、政府案賛成の演説をなせり。斯くて三氏の演説に三時間を費して一時休憩し、五時に至りて再び開會せしが、議長は豫め演説者に向つて、極東に於ける露國の隣邦に對する政治上の關係に論及すべからざるを注意し、議員ビノ氏少數の反對意見を述べ、首相ストルイビンの下院に於て同法案に就きなしたる演説を引き、政府の黒龍江鐵道敷設に關する政策の失當なるを痛撃したるに、議長は一議員の演説定刻半時間以

上に互るを許さずとて、中途にて演説を中止したる爲め、反對派側に於ては驚々喧擾を極めたるも、議長は斷乎として議事規則の曲ぐべからざるを公言し、ピノ氏の演説を繼續せしめず、實業派議員を應きて演壇に登らしめたり。此日は特に夜九時より三たび開會して討論を繼續したるも、討論終結に至らずして深更となりたる爲め、次回に延期して閉會したりと云ふ。

已にして黒龍江鐵道案は終に決定せられたり、而して其價值に關するノイヴエ・ヴレミヤの所論は左の如し。

極東より警報の頻々として來たるものは、我國の同地方に於ける位置の如何に變化して、其現狀が又如何に頑強なる戰爭に適應せざるかを證するに足る。今や當局者は黒龍江鐵道敷設の急務なるを悟りたるが、其敷設方法は舊案の如くスレーテンスクをボクロフスカヤと連絡し、更にボクロフスカヤをハバロフスクと連絡せんとする者にて、即ち黒龍江畔に鐵道を敷設せんとするにあり。此鐵道は舊に同地方の植民を速にするに與かりて力あるのみならず、軍路上の價值亦少からざるを以て、これに就きて一言する所なかるべからず。

抑も鐵道、即ち交通線の方向の最も有利なりとするは、軍隊の正面に對する垂直の方向なりとす。南部滿洲線は、南より進み來たる日本軍に對して、實に斯かる位置にありたり。惜しい哉斯かる鐵道は我に唯一線あるに過ぎざりしを以て、軍司令官は我兵力を唯一箇所にのみ集中し、爲めに行動の敏活を缺き、臨機應變の策を施すに由なく、糧食兵器の供給に不便困難を感じたるを極めて甚だしかりき。北滿洲鐵道線は南部滿洲線に反して、戰場に對する我軍の正面に對し、併行の位置を占むるを以て、日本軍が同線に接近するに従つて益、不利とならん。何となれば日本軍は我主力を撃破して、其隊を別ち、北滿洲の孰れかの點を襲ひ之を破壊して、浦鹽斯德との交通を切斷するの恐れあればなり。

他日再び戰爭の起る場合に際し、我軍幸ひに機先を制して大兵を寬城子に進め得たりとするも、幹線は同所を距る僅に二百露里に過ぎざるを以て、甚だ危険なりと謂はざるを得ず。日本人は北韓國境附近に集中したる一軍隊を以て、寧古塔に突進し、以て沿海州と本國との交通を切斷するに至るの恐れあり。是我國が關東州と寬城子以南の鐵道と滿洲の覇權とを失ひたるの今日、黒龍州を経て新鐵

道線を敷設せざるを得ざる所以なり。然れども鐵道の敷設や一朝一夕の業にあらざるを以て、ポクロフスカヤより稍、其線を北方に向け、黒龍江ニコリスクまで延長し、次いで之をハバロフスクと連絡せしめ、以て我に能ふ限りの利益を收めざるべからず。

鐵道に依らずして、ニコリスクに對する敵の來襲を防ぐことは至難の業たり。吾人は鐵道を黒龍江より北に隔離するに於ては、其位置を安全となすを得べく、且つ地方の繁榮を來すことも亦速かならん。黒龍州地方たる其天富の饒多なるに拘らず、目下殆ど茫茫たる荒野の觀を呈じ、大軍に供給する糧食の根據地たること能はざるを以て、同地方の繁榮を圖ること亦實に目下の急務なり。

黒龍江鐵道の敷設は、敗戦の結果に鑑みて施設すべき焦眉の急務の一端緒たり。然れども此新鐵道の敷設は、如何に力を注ぐも五箇年より少からざる星霜を費すべきを以て、西伯利亞鐵道の輸送力を確め、若し直に複線を敷設するを得ずんば、回避線を成るべく多くし、且つ戦時専用豫備の車輛を製造せざるべからず。日本は今其兵力を著しく増加したるを以て、吾人が日露戦役の終りに整へ得た

る輸送力の程度にては、他日の戦争に際して猶不満足なるやも知るべからず。假令吾人は過去の戦役よりも兵員の輸送を速にするを得るとするも、日本人亦開戦の當初より、更に多數の兵力を動かすに至るべし。之に就きて吾人は海軍を有せざるを以て、海上に於て毫も日本人の輸送を威嚇するに由なく、日本人は關東州を占領し海上より浦鹽斯德を監視し、同港要塞の北より南より兵を上陸せしめ、以て其背を衝きて交通を遮断するに至らん。

されば吾人が前に説く所の鐵道にして敷設せられたりとするも、事あるの日未だ全く安全なりと見做す能はず。鐵道は兵員を迅速に輸送するを得て、其益する所尠からざるも、防禦の爲め、要塞を築き以て兵員の行動を安全にし、鐵道の外普通の運輸に便する道路を開き、又食糧並に軍需品の貯藏所を有せざるべからず。而して此軍需品を貯ふる爲めには、戰場附近に製造場を有せざるべからず。軍隊に供給する食糧、就中軍需品の本據が戦地を距る遠きにあるの不利なるは、現に日露戦争の明示したる所にして、遼陽退却の原因の一は實に砲彈の不足にありと云ふにあらずや。

若しそれ海岸防禦に至りては、我艦隊の殲滅後全く存在せざるを以て、敢て近き將來に於て日本人を逐ひ拂ふの目的に出でずとも、之を再造せざるべからず。我沿岸は決して軍艦の防禦なしに放棄し置くべからず。

以上列擧したる施設を實行するが爲めに要する所の巨費は、我國庫に目下其準備なしと雖、決して失望落膽すべからず。時機一たび去らば、悔ゆとも及ばざるを以て、目下出來得る限りの事をなさざるべからずと。

蓋し、我極東問題の中心は、第一にその交通問題にて、即ち東部西伯利亞を経て、全露國の各鐵道の終極停車場と極東とを鐵道線路を以て連結するにあり。斯くの如き線路は、實に是、極東を露國に保有するを得べき根本の基礎にして、一切諸他の經營の如きは、此黒龍江鐵道の經營なくんば何等の價值なく、極東を露國に保存する否とは懸りて同鐵道經營問題の解決如何にあり。

黒龍江沿岸鐵道の最も急を要するものは、後貝加爾鐵道の終極停車場なるストレンチンスク邦より、烏蘇里鐵道の終極點なるハバロフスク驛まで、一千六百露里（二露里は我九町四十五間）の線路これなり。勿論此線路工事は頗る困難を極むる

ものあり、四顧茫漠たる廣原に大河蜿蜒横流し、加ふるに寒威酷烈にして、勞働に便なる夏期甚だ短く、且つ材料の運輸勞働者の雇傭等、不便を感ずること尠からざるが爲めに、其經費の莫大なるや論を俟たず、其他地方生産物の稀少なる等種々の困難あるべし。

然し吾人はこの最近年に於て、鐵道線路の不利なる計算が、必らずしも其豫想の如くならざりし事の多くの實例を有するを以て、此工事に對して決して之を悲觀するを要せざるなり。米國人の鐵道を經營するや、常に鐵道は自ら生産をなすとの原理を以て、其經營の要義となせり。之を北米に於ける鐵道經營の結果に徴するに、米國人の企圖は常に其目的を誤らざるを示せり。我露國は如何といふに其西伯利亞鐵道を敷設する際に、輸送生産物の乏しきを云々して、線路を狹軌となし、輕便鐵道を用ひて豫め損失を償ふの計をなさんとしたるにあらずや。然るに其實際如何といふに、今日は單線にては既に輸送力不足なるを以て、線路擴張の急須を告ぐるに至りたるにあらずや。故に鐵道は將來に確たる希望を屬して、其國家的意義を有する者なる事を考慮し、決して暫時の收入不足を危懼するを

要せざるなり。黒龍江鐵道の如きは實に是、大なる國家的意義を有する鐵道にて、露本國と其遠隔せる植民地——東部西伯利亞との直接連絡を安全ならしむるは、一に此黒龍江鐵道あるのみなり。

ハバロフスク地方議會は、黒龍江沿岸地方の福祉は、一にハバロフスク市と、スロレンテンスク市を連絡する黒龍江鐵道の敷設に俟たざるべからざるを決議せり。此事に就きて特に注意すべきは、一九〇三年に黒龍江鐵道敷設の諮問會を開きたりしは、未だ滿洲事件の起らざる以前に屬し、東清鐵道が無事安全なる時なりし事是なり。當時黒龍江沿岸州の事情に通ずる者は、既に東清鐵道の安全を大に疑ひ、露國領土内を一貫せる鐵道の必要を深く認めたりしなり。日本國民が自ら取る所の目的は甚だ明瞭にして、即ち極東に對する露國の影響と意義とを減殺せしめんとするにあり。而して其減殺の理想とする所は、太平洋の沿岸より露國を全く放逐せんとするにあるや論を俟たず。然し斯くの如き宏大なる目的は、勿論一編の文章若くは第一回の日露戰爭の如き歴史上一舉に據るの解決を以て到達せらるべきにあらず。之が爲めには堅忍不撓の精神を以て事に衝り、運

命の天秤の上に全く其手套を置くに先だち、自ら欲する方向に其天秤の盤を轉移せざるべからず。我隣邦(日本)が極東に對して、此くの如き動作を開始したるの證據は、顯然たるものあり。

ポーツマス條約のインキの未だ乾かざる前に、日本は既に英國と極東の平和を保護するが爲めに、所謂十箇年の同盟條約を締結せる事を突然發表せり。此日英同盟條約の目的と意義とは、其意明瞭にして之を論議するの要なし。是、日本の活動の第一歩にして、戰爭より綿々連續せる長き連鎖の一環に過ぎず。日本の第二歩は日清條約の發表に依り、吾人の識り得たる所にて此條約に依れば、近き將來に於て北清及び滿洲に於けるわが東清鐵道の背面及び純露國市街(ブラゴヴェスチエンスク市)若くはそれに最も接近せる(浦鹽、ハバロフスク、チタ等)他國民の移住と通商事業とを開始せらるべきや明かなり。今や吾人は實驗に依りて所謂日本の通商事業の何を意味するやを明知するを得たり。即ち通商貿易は是、日本軍の前衛にして、且つ彼等の斥候たり、探偵たり。而して清國は將來の日露戰爭の場合の前哨たらんとする者なり。是、實に日本の步趨なり。戰爭の進撃的結果よりせる

第一步にして、日本が上述の目的を達する順序よりすれば、其結果は尙遠慮なりと言はざるべからず。砲撃の止むや否や着々其實行を始められたる其順序に對して、吾人は如何に處すべきや、今日迄は全く何事をもなさざりしにあらすや。

又倫敦三月二十日發電報に曰く。

露國政府は其當初の計畫即ち烏拉爾山より浦鹽に對し、直通鐵道を敷設するの計畫に従ひ、今やネルチンスクより黒龍江に沿うて、ハバロフスクに達する最後のリンクを建設せんとす。是、滿洲の戦争が東方問題より露國を驅除する能はざりし一新證なりといふべし。蓋し現在の西伯利亞鐵道の清國領土を通過することを得たるは、一八九六年清國と露國との間に締結せられたる協約に因るものにして、若し此協約なかりせば、鐵道は黒龍江の北岸に沿うてハバロフスクに至り、同所に於てかの浦鹽より烏蘇里平原を走れる支線と合したるならん。滿洲を通過せること、商業上有利なるは勿論ながら、今や露國政府は黒龍江に沿ひ一線を敷設するの決心を起し、而して國會亦之を賛成せんとすとす。尙本問題に關するモ、ニンゴポスト通信員の所報に曰く、此鐵道問題に就き目下頻に提起せらる

る質問は、斯くの如き軍略的鐵道は果して必要なるや否や。斯くの如き鐵道は新なる冒險的極東政策の前驅たらざるや否やといふにあり、露國は敗戦したりと雖、尙吉林附近までの鐵道を所有せり。鐵道守備兵はポーツマス條約に依り、一、二萬を下れり。且つポーツマス條約第七條は軍略的目的に對し、滿洲鐵道を使用するを禁ずるも、然も後貝加爾並に沿海州に十萬の兵を駐屯せしめ、一朝事あらば直に沿線に出動して、浦鹽との交通を擁護するに於て何等の掣肘を受くる所なし。されば滿洲鐵道が清國領土を通過し、黒龍江鐵道が露國領土を通過するの事實は、決して緊要なる問題にあらず。黒龍江に沿へる滿洲北部の地方は、戦争前までは清國側に於て露人より之を遠ざけ、以て安全なる距離に置かんことを欲するものゝ如く、絶えて居住するものなかりしが、今や此地方は南部よりせる多數の移民者に依りて、居住せられつゝあるのみならず、黒龍江鐵道は幾多の地點に於て、黒龍江の十哩内に近接すべきを以て、支那人の江を渡りて鐵道の沿線に居住するに至るは、蓋し遠からざるべし。されば黒龍江鐵道工事に使役せら

るべき勞働者にして、清國人を使用するとせば、幾多の移住者は此地方に於て得らるべく、只其多數なる移住者が露人ならざるのみ。随つて黒龍江鐵道の露領にあるの一事は、極東に於ける露國領土を保護する點より見て、今後幾年に互り多大の利便を與へざるべし。尤も露國は今直に清國側より危険を被らんとするが如き現狀にありといふべからず。清國陸軍は今尙編成の初頭にあり、其攻勢を取り得るまでには、尙幾多の時日を要するならん。かの清國が其年來の露國に對する恐怖心を脱却したるは事實にして、又目下清國に行はれつゝある覺醒の下、必らず露國を懊惱せしめつゝあることも事實なり。然れども清國は未だ露國の敵にあらず、實に黒龍江鐵道の敷設は、清國の侵略を主要なる原因とするものにあらず。然らば同鐵道の目的は何ぞや。曰く、露國はポーツマス條約に依り解決せられたる所甚だ少なきが故に、一九一五年以後即ち日英同盟條約の滿期となりたる後に於て、再び日本と開戦あるべきを豫期するものなり。若し日本にして滿韓の鐵道を開發し、軍隊輸送の方法を完成しつゝありせば、露國も亦其交通を確實ならしめんとするは當然のことのみ。殊に日本の敷設せる元山より豆滿江へ

の鐵道は、沿海州並に浦鹽線を危険に曝露するものなり。然れども此危険は強大なる軍隊を駐屯せしむることに依りて防止すること出來得べからざるや、多大の出費を敢てして一千四百哩と注せらるゝ大鐵道を新に起すの果して絶對に必要なるや否や、これ疑問なり。思ふに黒龍江鐵道は、烏蘇里地方並に浦鹽へ援軍を輸送するの機關となし得べしとするも、之を護衛するには強大なる兵力を要し、却つて弱點を作るの基となるべしと。

ノーヴェヱヰレミヤは又黒龍江鐵道の目的に就き論じて曰く。

黒龍江鐵道敷設の方針に就きて、世上種々の説をなす者あり。甲は黒龍江に接近する南部線を可とし、乙は同江を北方に隔離したるもの即ち北部線を得策なりと主張す。甲の方針を可とする者は、斯くする時は鐵道が黒龍江畔の最も沃饒の土地を通過して、移住に便なるのみならず、黒龍江支流の便に依り、同線各方面に木材を供給するを得て、敷設を速ならしむべく、且つ鐵道が北方山脈に傾くに於ては、敷設工事困難にして、經費を多からしむべしと説き、即ち經濟上の利益は南部線にあるものなり。又鐵道線を黒龍江より北方に遠隔して敷設すべしと説く

者は、専ら戰略的考案に基づくものにして、恰も滿洲の東清鐵道を以て既に存在せざる者の如くに見做し、沿海州と後貝加爾との間に、急遽新鐵道を敷設するを必要とするの理由に等し。抑も東清鐵道は其位置に依りて策戰根據地となると同時に、交通機關となるべきものなれども、一朝事あるの日に、兩者の干繋共に危険の位置とならんこと疑ひなし。同鐵道は哈爾濱より滿洲全土を南に縦貫し、營口を経て支那と接續する他國の領土内に敷設せられて、支那人の南北滿洲植民の益をなすのみにして、我露國人の益をなさず。支那人の性質不撓不屈なると其多數なるに由りて、植民の實を擧ぐることに頗ぶる迅速なり。近頃支那人は更に其植民を速ならしめんが爲め、鐵道を我沿線の齊々哈爾よりノンカウに沿ひてメルゲンにまで敷設し、更にブラゴヴェネチンスク對岸のアイホンに延長するの意ありとの風説行はれたり。されば數年を出でずして東清鐵道の通ずる所、我國民にあらざる他國民の稠密に植民する所となりて、一朝事あれば化して我に敵對の態度を執るの恐れあり。優勢の軍隊忽ち鐵道の交通を斷絶して、後貝加爾と黒龍沿道地方との交通を切斷するに至らんも知るべからず。新鐵道にして黒

龍江に接近して敷設せられたらんには、事あるの日、同鐵道も亦敵の打撃を蒙るの恐れなしとせず。就中黒龍江沿道の支那領土は速に植民せられて、支那の親々乎たる要塞露清國境に起るに及んでは、此危懼更に大ならざるを得ず。之を以て須らく甲乙兩説を斟酌し、一方に偏せずして新鐵道線を黒龍江より稍遠き所に敷設せざるべからず。戰略上より視る時は、河川なるものは到底侵入の爲め重なる妨礙となるものにあらず、且つ黒龍州の天富饒多なるを、植民に適するの地廣大なるに拘らず、新鐵道敷設の目的は戰略を主とするものにして、唯傍ら植民事業と産業の發達に裨益するものたることを忘るべからず。

十月に入りては日露親善の兆ありとして、ノイヴエウレミヤは日本の財政觀を試み、先づ我國歲計近年の膨脹を叙し、斯くの如き膨脹の迅速なるは、他に恐らく其比なかるべしと云ひ、晩近二十有餘年間に歲計額十倍に上れる統計を舉示して、其使途の大半海陸軍擴張費に充てられたるを説き、次に十一年の繰延計畫に論及して、戰爭好きなる日本は、軍備擴張に就きて財政を顧慮せざる國なりと評し、目下米國は日本の海上の最も危険なる競争者なるも、今や恰も

米國艦隊の來航を期として、彼我の軍艦を海上に實地比較し、以て日本艦隊の敢て米國艦隊に劣らざるを示して、兩國民の敵愾心を冷却し、併せて日本の戰意勃々たる人民をして、將來亦海軍擴張に鉅費を投ずるの無益なるを知らしめんとすと論じ、終に陸軍費の節減に就き日露の關係に論及して曰く、陸軍費の經費大節減は、日本に於て遂に露國の平和を希望する誠意を悟りたるを證するものなり。目下世界列國中、太平洋沿岸に日本と競争し得べき大軍を集中するを得る者なし。獨り露國は之が除外例たり。されば日本陸軍の増加は、如何なる口實を以て辯解するにせよ、結局露國に對して敵愾の意を含み、若くは露國の意思に對して不信用を表するものと見做すの外なし。之に反して將來陸軍の擴張を中止したるものは、日本の政治家が西方より毫も彼等に危迫するものなきを確信したるが故と見做すの外なかるべし。此點に關しては彼等誤る所なし。露國は極東事變を惹起したるの政略を中止し、内政問題の解決に其政策を一變したり。蓋し内政問題の重大なる、外交問題を以て之に比すれば皆第二流に位するものなり。露國は國境外より一も來襲あるべきを期するものにあらず、斷じて

之を懸念するの必要なし。其東洋に於ける問題は、單に己れの位置を防守するにありのみ。日本は陸軍經費を節減するに當りて、今若し躊躇するとなし、戰爭の時に其端を發して我東京駐在外交官の失錯に依りて、未だ其局を結ばざる殘餘の勘定を清算したらんには、始めて吾人をして全く善隣の意思あるを知らしむるを得ん。吾人は敢て茲に此等の勘定を枚舉せざるべし。唯正當の故なくして財産を沒收せられたる露國臣民チホンタイ、及び徒に漠然たる口實の下に支拂を躊躇する樺太の小漁業家、並にソートニコフに對する事件を擧げんのみ。露國の善隣の政略は、日本をして年々六千萬圓の經費を節約せしむるを得たり。斯くの如き事情あるに際して、理由の極めて正當なる小勘定を延期するは、豈策の得たるものならんや。日本の財政は之に依りて困難を感ずるものにあらず、而も相互の誠意は、隣邦の吝なるを思ふの邪推によりて眩まざるることなかるべし。

こゝに附記せざるべからざるものあり、日露の商業關係の觀察是なり。露國商業新聞は、露都に於ける日露貿易合資會社設立の件に關し、日露貿易の前途に

就き論じて曰く。

日露兩國は彼我接近の邦たるに拘はらず、兩國の通商干渉は甚だ幼稚の状態にあり。他の歐洲各國北米及び亞細亞の各植民地は、夙に日本と通商的干渉を開きて、日本より其國產物を輸入すると共に、一方には自國產物の販路を求めつゝあり。地味肥え氣候温順にして勤勉相助み、教育ありて剛毅なる五千萬人民を有する廣大なる日本帝國は、國際貿易場裡に顯著なる位置を占むる權利を有す。實に日本の外國貿易は已に鉅額に達し、一九〇四年に於ける輸出額は三億一千五百七十萬圓にして、輸入高は三億七千萬圓に達せり。此日本の輸出貿易に於て、露國の與かれる數は僅に五百萬圓に過ぎざるに、例へば北米合衆國に對する輸出高の如き、一億百萬圓に上れり。全く露國に輸出せざるもの絹、茶、魚油、銅、樟腦、石炭、産等ありて、かの日本に近き西伯利亞に取りて特に必要なるは言ふまでもなく、前記の日本產物は亦露國に取りても必要なるものなり。故に日本の製造品雜貨の如きも、露國に廣く販賣せらるゝの見込あるものなり。日本の生産物は勞働の低廉なるより、歐米市場に非常に歡迎せらるゝを以て見れば、更に日本の隣邦

たる我露國に取りては、若し現在の少額たりとも之を歐洲人の手より多額の二重拂ひをなして買ひ取らざらんには固より更に低廉ならん。我露國にして若し日本との通商機關を設くるに於ては、吾人は例へば聖彼得堡に於て一揃の日本茶器を購ふに四十留を抛たずして十一二留にて足らん。

日本への輸入に就いては露國の與かれる分、總計六百四十萬圓のみなるに、例へば英國の如き輸入高七千四百九十萬圓あり。露國の產物例へば穀物、麥粉、砂糖、牛酪、鶏卵、皮革、毛皮、烟草、鐵、綿織物の如き極めて日本に必要なものなり。然るに獨り歐洲の商人のみ此間に介して漁夫の利を占む。日本人が西伯利亞の牛酪をハンブルグより鐵詰として買ひ取ると云ふに至りては、豈恥づべきにあらずやと。

其二 日本南滿洲經營に對する彼等の觀察

在北京倫敦タイムス通信員モリソン博士は、日本の滿洲經營を觀察し、之を其本社に報じて曰く。

予は近頃親しく往きて滿洲を視察したり。日本の鐵道工事は急速進行し北清鐵道の終點新民屯と奉天とは、日本の三呎六吋軌幅の線路を以て近日中聯絡を見

るに至るべく、此間の距離三十六哩あり。清國政府は此間の線路を日本より買収して清國の標準軌幅に改むべきか、又は日本と合同して之を經營すべきかは今日の處未だ定まらず、兎に角此線路は兩大市を接續する者なれば重要な利害あり。遼河に架したる鐵道橋は優に支那形船を往來せしむるに足りて毫も差支あるを見ず、現に日々其數百隻は橋下を通過し居れり。

滿洲にありては、東清鐵道中、日本の所有に係かる分は旅順口より四平街に至る三百九十五哩間は全通し、四平街以北三十四哩なる公主嶺に至る復舊工事も遠からず竣工を見るに至るべく、更に公主嶺より北、寬城子に至る四十哩間は現に露國演車往復し居りて、條約面を以てすれば來週中には日本に引渡すべき筈なり。鴨綠江岸安東縣より山中を往きて奉天に至る百八十七哩の輕便鐵道は、今尙軍事専用を屬すれども、二年内には日本所有の滿洲鐵道と同様の標準軌幅に改造せられ、安東縣と相聯絡し、更に鴨綠江上を経て韓國幹線と相通するに至るべし。此韓國幹線は既に標準軌幅を用ひ居れり。

滿洲は未だ常態に復せりと云ふべからず。又明年四月十五日に至るまでには決

して常態に復するを得ざるべく、其時に至りて始めて鐵道を除くの外、萬事軍政撤せられて民政の支配となるを見るべし。予が親しく調査視察する所を以てするに、日本は誠意約を踐み、軍隊及び軍政を撤廢するに務め居るは疑ひなく、又局外無干繋の人より聽くに、露國も亦約を履み、北滿洲の軍隊を撤退するに務め居る者の如し。清國官吏は一日も早く外國軍政を撤廢せしめんと急ぎ居れども、其人民は古來外國占領地の人民が苦しみしほどに之に苦しまざるに似たり。蓋し駐屯軍の紀律嚴肅なるを以てなり。唯主たる苦情は日本の犯罪者に對して報償を得るの困難なること、不可能なること即ち是なり。現に續々滿洲に入込む日本人の階級は日本當局者に取りても煩累の種子となり、現在營口、奉天、安東縣にあるもの軍人以外一萬八千に及び、其多くは行商にして此外好まじからざる人民、殊に一種の女群は陸續と入込みて次第に滿洲各地に擴まり、支那人を喰物にして宣教師の大厄介となり、我同盟國の令名を汚す因となれり。

開市及び税關問題 滿洲現下の二大問題は、條約港の開放及び清國税關設立問題即ち是なり。市場は漸次回復に向ひ居れども、決して未だ満足を表するを得ず。

蓋しこれ一は戦後需要を見越して輸入過剰に流れ、豫期したる賣行なきと、一は貨物の大連、安東、浦鹽斯德より無税輸入せられて思ひ設けざる競争を見るに至りしとの結果なり。此競争は頗る甚だしき者ありて、營口の外商は之を重大視して、滿洲が營口以外の地に税關を設立するに至るまでは、營口の輸入税を廢除せしめんと主張するに至れり。營口の税關収入は現在日本人の銀行に拂込まれ、全く日本人の一手に行使せらる。昨年の収入總額は二十萬磅ありたり。日本人は之に對して露國が其預れる金員を還附せば日本亦他日均しく其一部分を清國に還附すべしとの空漠たる約束をなすに過ぎずして、其徵收したる收入の一部は、勝手放題の價格を以て土地を買入れ、道路の築造及び將來の自國居留地建設に供し居れり。

大連の清國税關も下記の如き困難あり。昨年十二月一日總稅務司サー・ロバート・ハートと、駐清獨逸公使ムンム男との間に訂結せられたる膠州修正協約に據れば、獨逸は膠州租借地内に於て清國の其税關職務を行ふことを許可し、以てこれをして境土五十哩の地に税關監督員を置くの費を省かしむる報償として、税關

收入輸出税は除く)の二割を己れに支拂ひ、植民地經營費に充てしむる約束なり。此協定は清國獨逸双方に利益ありと云ふ。清國は未だ日本の大連に向つて正式に這般の申込をなさず。又日本は獨逸より不利なる條件を以て之に應諾すべしとも思はれざれど、清國は獨逸に對するよりも利益ある條件を以て協約を訂結し得べきを望めり。謂へらく、大連に於て日本に此等の條件を許さば、浦鹽斯德に於て税關を設くるを許さざるべからざる場合にも、露國に對して同一の條件を許さざるべからざるに至らんと。事の遷延に由つて利するものは日本にして損するものは清國なり。現在大連に入る船舶は支那船及び日本船のみなればなり。但し此制限は九月一日に至らば廢除せらるべしと云へり。

安東縣に清國税關を開設するの問題に就いても困難あり。安東縣は、一八九三年十月八日の米清條約に因つて開放せられたる港なるが、其困難は税關敷地を設くるの困難にあり。蓋し日本は軍事占領中、名義ばかりの廉價を以て、河岸一帯歐哩の地と土人の城邑以外、外國居留地に充用すべき地とを收用し盡したればなり。又日本居留地は日本人の專用に充て、清國人は其人力車夫だも入るを許され

す。日本が爾く大仕掛に土地を收用し、現に清國政府に向つて之が公認を迫り居ることとは、日本が滿洲協約第五條に於て、其軍事占領中、軍事上の必要より收用したる土地を一切清國に還附せんことを誓ひたる約束を、誠實に履行する積りなりや否やを疑はしめつゝあるなり。

清國と奉天 滿洲に於ける他の重要問題は、滿洲三省内の奉天及び十八箇所の開放に關する者なり。蓋し清國は日米兩國との條約に於て奉天、安東縣及び十七箇所を開きて列國人の居住通商を許し、又其占領使用に向つて適當の地域を供與すべきを約したり。然るに清國は曰く、所謂適當の地域とは、市域外の地若干を限りて、外國の通商占領に供與すべしとの謂ひにして、市其物を開くの謂ひにあらずれば、市は條約訂結前と同様、此條約の爲めに影響を受くることなしと。之を換言すれば、清國の主張は奉天の開放とは奉天市外の未占領地を開放するの謂ひにして、即ち外國の居住通商は此未占領地域に限るを以て、其處より奉天市に入る貨物は清國政府の從來賦課せる一切の租稅徵收金を納附せざるべからずと。日本は此くの如く條約を無視したる不條理の主張を許さざるべく、而して

之に對しては列國の賛成あり。

此他協定を必要とする問題多く、即ち新民屯其他の土地問題あり。奉天附近なる撫順炭坑問題あり。此炭坑問題に就きての清國の主張は、撫順炭坑は清國人が露國の資本を以て經營したる所にして、日本は其資本の露國より出でしを以て之を押收せしは謂れなしといふにあり。之に次いで、鴨綠江上の重大なる伐木問題なり。同處にては、軍人の専恣なる所行はボーイコットを起さしめ、軋轢甚だし。但し目下日清合同資本を以て株式會社を起し、之を經營するの議あり。此外營口の土地問題及び營口に於ける輸出釐金稅公平を失すとの問題共に未だ定まらず。

但し以上の諸問題は、必らず双互満足の間、に協定せらるべきは疑ひなし。予は茲に敢て勸告せん。我輩英國人は從來の如く、單に傍觀者たる態度を捨て、更にそれ以上の態度行動に出でんこと、即ち是なり。我輩は滿洲に大利害を有し、且つ鐵道全線英國輸入貨物に對して、それとなく外間の干涉尠からずとの説もあれば、我輩は此際宜しく經驗ある英國官吏を奉天、及び安東縣に派遣して、状況を調査せしむべきなり。目下北京にある我英國公使館附貿易視察官ホシー氏

は、滿洲事情に精通し、其滿洲に關する著書は斯道の一典據たれば、其人なきを憂へず。特に言ふべきは、我英國は、一八九九年春、遼河の北岸營口と相對するの地に居留地を得たることあり。然るに此地は、拳匪の亂及び日露戦争の爲めに、今日に至るまで未だ之を受取るを得ず。我英國政府は速にこの居留地を獲得せんこと此際極めて緊要とす。本件に就いては一八九九年四月二十四日附ホシー氏の報告を見よ、載せて一九〇〇年の青表紙第一號公文書第二百四十五號にあり。

右の報告を手にせるタイムズ社は、社説に於て論じて曰く。

我北京特派員が滿洲の現状を報じたるもの、大に干緊ありて注意すべき點多しとす。戦後滿洲は世界の主なる舞臺となりしも、其現在の状態及び將來の見込は外間之を審かにすることを得ず。滿洲の將來如何とは、實に世界の大商工國の均しく深く注意せし所にして、日本に次いで我英國人及び我從兄弟なる米國人最も之に眼を注ぎ居るなり。此時に當りて我特派員其人の明快なる觀察評論は更に英米兩國に注意を喚起するを疑はず。兩國人は、滿洲を以て天然の利源未だ經營をへず、將來世界の一大市場たるべきを豫期する者にて、我特派員が觀察の

結果を以てすれば大體に於て好望なりと稱すべし。滿洲開發の第一要件は運輸交通の改良なり。而して日本は之に向つて例の如く其精力を奮ひ、東清鐵道は既に旅順より約四百哩は完成し、更に僅に三十四哩を修理し畢らば、露國鐵道との聯絡を復舊し得べく、又現在新民屯を終點とする北清鐵道も工成りて奉天と相通じ、新舊兩都一路相接するに至るも遠からざるべし。無論當分の間は兩者間日本の狹軌鐵道に依るを免れず、是元と日本が軍事上急速竣工の必要に出でし者なれば、日本鐵道の軌幅を取りしも亦已むを得ざるなり。安東、奉天間の軍事鐵道を廣軌となすは二年後の事なりといへば、之も暫らく待たざるべからず。他日愈本線の廣軌に改まりたる上は、韓國幹線は奉天と直通するに至るべく、又其頃には内地の政治も整頓し面目を改むべきに因つて、清國は満足を得べく、日本も又安心を得るのみならず、滿洲に通商する海外諸國も皆満足を表するに至るを得ん歟。我輩は其然るを望まざるを得ず。唯今日にありては、滿洲政治は過渡時代にあるゆゑ、多少の闕典は固より之あらん。我特派員は此等現在の闕典の漸次廢除せらるべきを信ずると同時に、其大に改革を要とする點をも指摘せり。

滿洲の行政は、今尙軍人の手にありて、其全く撤廢せられて萬般の掌理、鐵道を除くの外、悉く文官の手に復歸するに至るは、蓋し來年四月以後なるべき歟。日本が必らず條約面の規程を踐行して滿洲より撤兵し、行政權を清國文官に還附すべきは、我英國にても始めより寸毫疑はざりし所なれども、かの容易に人を許可せざる我特派員の口より、わが同盟國が英國人の希望し豫期せし如く、誠實に着々其約束を實行し居れりと聞くは、我輩の更に満足を表する所なり。露國の事は我特派員の耳にする所によれば、これ亦約を履んで北滿洲より其軍隊を撤退し居れりと云ふ。然りと雖、軍政は竟に軍政なり、日本將校の行政が清國文官に悦ばれずと謂ふは毫も怪しむべしとせず。且つ占領軍の紀律嚴肅は、固より一點間然すべき所なきにもせよ、今日滿洲にある日本人は、獨り軍人のみにあらずして、平和克復後、日本人は陸續滿洲に入込めるあり。恰も日清戦後日本の朝鮮に權力を張りし後、陸續朝鮮に入込みしが如く、此等の移住民は現に自國政府に煩累の因をなすこと尠からず。殊にわが特派員は、此等の中には日本の令名を汚損すべき好ましからざる徒輩數千の多きにありと斷言し、又清國官吏は、日本の犯罪者は階

級の如何に論なく、捕へて制裁を加ふる能はざるを愁訴すといふ。清國官吏の言は、或は仰山に失せずとも限らざれど、亦多き日本人の中には、或は招いて此言をなさしむるものなことも限らざる故、輕々に之を聽流さざるを宜しとす。由來日本が朝鮮に對して其眞成の利益を損せしは、多くは此等朝鮮に入込める人々の亂行に由るものにて、こは日本政治家こそ最も明かに承知しあるべき筈なれば、今後滿洲に於ても此覆轍を履まざらんこと、是今日、日本政治家の任なるべし。

同紙は又曰く。

滿洲經濟上の不満足なる情態は、又滿洲現實の治者に累ひたるものゝ如し。是恰もボーア戦争後の南阿弗利加に於けるが如く、兩者共に戦後の隆昌を見込みて多くの商品を輸入せしが、事豫期の如くならずして困憊を來し、加之、一方浦鹽斯德よりは露國人の手を經、一方安東大連よりは日本人の手を經て、貨物の無税輸入せらるゝありて、英米人が滿洲に商品を輸入する唯一の門戸たる營口の商人は、之が爲め其當然の權利たる機會の均等を奪はれて、甚だしく競争の打撃を受けたり。因つて彼等は、之が救済策として、當分營口の關稅を廢除せられんことを

主張せるが、此策亦可ならざるにあらざれども、清國は到底之を容るべしとも見えず、况んや日本人に於てをや。日本人は今、露國人の理否疑はしき先例を追ひて清國税關の收入を收用し居るにあらざるや。

日本陸軍官憲の安東縣に於ける行爲に至つては、前者よりも更に異議を受くべき性質の者なり。安東縣は世人の記憶するが如く、一九〇三年十月八日の米清條約に因つて開放せられたる港市なるが、傳ふる所の如くんば日本人は軍事占領中河岸一帶の地及び城外外國居留地に充用し得べき土地を悉皆其手に收容して、今清國が税關を設立すべき便宜の地は寸尺を残さずと言へり。蓋し戰時中にありては、此事ある敢て不思議なりとせず。然れども今收めて放たずんば其效果如何。日本政府はその收容を確定する前宜しく事の效果如何を考ふべきなり。此くの如きは、明かに門戸開放主義を破るものにして、列國はこれに對し如何の説を下すべきぞ。元來日本が露國と戰爭を交へたるは、即ち此主義を標榜したるに外ならずして、我英國が此戰爭に於て始めより日本に深大の同情を表せるは、此主義以外、亦多く理由ありと雖、米國の輿論が日本に無形的贊助を與へたるに至

つては、主として此に見る所ありしに外ならざるなり。それ米國は、露國と舊日の親交を以てして、一朝露國を棄て、日本に與みせしものは果して何の爲めとかなす。是、取りも直さず、露國が所謂百の證言皆實なく、滿洲を割して我專屬市場となさんとする心中を看破したるに由らざるばあらず。想ふに日本政府は占領地に於ける陸軍官憲の行動を考ふるときは、必らず三たび此に意を致すを疑はず。我通信員は終りに我英國政府に向つて、我滿洲に有する大利益を忽せにせざらんことを警告して曰く、我輩英國人は單に傍觀者たるの態度を棄てざるべからずと、因つて一の實行手段を勸めて安東、奉天に經驗ある代表者を派出し、且つ遼河北岸の重要な居留地の拳匪の亂以前獲得して未だ受領せざる所を收得し、些の猶豫あらざらんことを切言せり。我英國の今滿洲に於けるは有用の權利ありて自ら棄て、用ひざるに均しき者なり。

又浦鹽に於ける露國新聞は、日本の南滿鐵道經營を論評して曰く、寬城子青泥窪線の日本人の手に歸してより、日本人は其收入の點に關して、同線に多大の希望を屬したり。當時日本人は運賃低減手段を以て、營口に致命傷を與

へんとし、日本人は露國風に倣うて計畫を立てたるも大失錯を招きたり。哈爾濱青泥窪の南部線が露國人の手にある間、實際甚だ收入多かりしも、戦争後形勢一變じたるに日本人は此に思ひ到らざりき。露國の占領時代に、支那政府の露國人に對する態度寛裕なりしは、滿洲の一般に般賑を極めたるに由りて之を知るに足る。目下日本人が通商上不正不義理の態度を以て土人の人心を激したること甚だしきと、日本政府が壓くとなき要求を以て支那人の自負心を打撃したること深きを以て、支那政府と人民は權謀術策到らざるなく、官吏を買収するの陋手段をすら執るに至れる日本人に對し、苟くも好機の乘すべきあらば大に復讐せんとするの意氣勃々たり。青泥窪の爲めに好都合にして、營口に損害を及ぼすところの運賃は、甚だしく支那人の惡感を買ひたるのみならず、米國人をして亦憤激せしめ、營口の商業家擧つて青泥窪に對しボーイコットせんと決したりき。支那政府は、日本をして露國の南滿鐵道營業中になかりし新民屯奉天線を己れに譲らしめしが、之が爲め端なくも南滿輸送の形勢一變じて、日本人の蔑視したる支那政府は、日本人をして六十露里の線路を手放さしめ、運賃の高低を以ても己れ

の希望する方向に貨物を輸送するを得ざらしめ、日本人をして自ら奉天青泥窪間の鐵道を自滅するに至らしめたり。日本人は貨物が奉天新民屯、滿帮子、營口を経て輸送さるゝに至りたるを見て、始めて其失錯を悟りたり。日本人は之が挽回策として北方の停車場より營口及び青泥窪に至るの運賃を、支那人の運賃に比較低減したるも遂に其效を奏せず。支那人の日本人に對する憎惡と、支那の勃興したる愛國心は、此競争の後援となりて支那人の勝利となれり。然れども支那人と日本人との競争は之に止まらず、支那の鐵道線と日本人の鐵道線との間に遼河なるものあり。同河左岸の目下日本の鐵道に依るの貨物を遼河に由りて營口に輸送せしめんが爲めに、支那人は遼河浚渫工事の計畫を立てたり。目下青泥窪及び營口より日本線に依りて公都嶺まで輸送し、陸路同所より滿洲と東部蒙古の貿易の樞要地たる張家屯に送るの貨物夥し。遼河は源を東蒙古に發するを以て、同河にして浚渫せられたらんに、東部蒙古に往復するの貨物を吸收するを得ん。尤も此輸送は夏期に限るものにして、遼河は冬期四箇月の間、結氷して此間は貨物は再び日本線に依りて輸送せらるゝが故に、支那政府は冬期にも日本線

に収入を得しめざらんが爲め、東部蒙古の國境に沿うて鐵道敷設の計畫を立て新民屯より法庫門、張家屯、伯都納、齊々哈爾に連絡せしめんとす。此鐵道の通過する方面は、滿洲の最も豊穰なる地方にして、目下日本線に依りて輸送せらるる大豆、豆粕等の貨物は、悉く此鐵道に吸収するを得べし。されば日本の南滿鐵道幹線の前途は極めて不利にして、營業上損耗を招くべきは明かなり。遼河及び新民屯より齊々哈爾に至るの鐵道は、寛城子より青泥窪に至る日本の南滿鐵道幹線の収入を全滅するに至らん。

これ南滿鐵道會社の募債の不首尾に終りたる所以なり。同鐵道は單に戰略上の價值を有し、日本の歲計に少なからざる負擔を來すものとならん。されど同鐵道にして損耗を來したればとて、日本政府は固より之を拋棄する者にあらず。日本は南滿洲に於て、南滿鐵道幹線の外、安奉線を有す。此鐵道は最初より收支相償はず、爲めに日本の新聞は屢之が營業を中止せんことを主張したれども、軍人派に左右せらるる日本政府は、戰略上この狹軌線を保持したり。されば此鐵道線も亦唯日本に損耗を來すのみ。

一九〇八年より日本人は寛城子、吉林間の鐵道敷設に着手せんとす。此線路は收入あるの見込あれど、貨物の重なる輸送が通商上の干繋を有する寛城子と吉林の兩市が、僅に百二十露里間にあるを思はざれば、其收入の左まで莫大なるを期し難し。吉林と營口の間に貨物の輸送をなすに於ては、收入も増加すべきこと疑ひなしと雖、支那人が寛城子を張家屯と連絡し、貨物が遼河又は支那線に依りて輸送せらるるに至るやも知るべからず。兎に角、寛城子、吉林間の鐵道は收入あるに相違なかるべしと雖、其收入額は固より前記二線の不足を補ふに足らずして、日本政府は國庫より其不足を填補せざるを得ざらん。

斯くの如く、戦争の結果日本が南滿鐵道領有に就いて費す所莫大なり。之と共に日本人が朝鮮を統治するに就いて費す所に思ひ到りたるときは、片足にて大陸に踏み止まるの名譽は、日本が巨額を以て之を買ひ得たりとの事實を證明するに足らん。

米國領事(大連駐在)はタイムス通信員の報告を否認し、批評を試みて曰く、滿洲の門戸閉鎖なる語は、近頃モリソン博士によりて歐洲へ通信され、其爲め滿

鐵會社へ對する質問ともなりたるが、抑も如何なる事實が果して門戸閉鎖として指摘さるゝものなりや。未だ同博士の詳説に接せざるを以て之を知るを得ず。雖、予の見たる處を以てすれば、日本の政策に於ては斷じて、さる形跡を認めざるなり。若し日本が南滿洲貿易を獨占するの故を以て、貿易を他國に鎖ざしたりと解するものあらば、これ大なる誤解なり。蓋し日本は滿洲唯一の物産たる豆、豆粕の大需要地にして、殆ど同品輸出の大部分は日本によりて買ひ取らるゝが故に、従つて滿洲へ賣るべき物品も又多からざるべからず。通商貿易が斯く巨額となるに従つて、その利害關係も他國に比して密接重大となるは勢ひ然らしむべし。則ち南滿洲に於ける日本の勢力が列國に卓越せるものあるは、毫も怪しむに足らざるなり。また外國人に取りても南滿洲は將來は兎も角現在に於ては、放資するに足るべき事業極めて僅少にして、到底資本家を誘致するほどの價值なきなり。例へば大連に於て事業を開始すると同一の資本と勢力とを以て、神戸、横濱等に於て開業せば、愉快に安全に且つ速に利益を擧ぐることを得べきなり。當市開放以來、英米商人の視察の爲めに來たりたるもの尠なからずと雖、何れも滿洲

人民の生活程度幼稚にして富力の微弱なる爲め、到底歐米製品の大需用者たる能はざると、且つ輸出品として適當なる物品絶無なることにより、急速に投資するの不利益なるを感じ、一人として開業するに至りたる者あるとなし。又現在の鐵道設備に就きて云々する者あれども、現に改築中の鐵道に對し、彼是と苦情を列べ立つるは當を得たる者と云ふべからず。要するに滿洲に於ける日本の政策が門戸閉鎖なりなきと云ふは、決して公平なる評論にあらずと信するなりと。

又二月下旬(四十年)の伯林通信に據れば。

清國政府は伯林駐劄の清國公使孫寶琦氏に訓令して、滿洲商業に對する日本の態度に就きて獨逸外務省と協議し、且つ清國全土に於ける列國商業上の機會均等を維持するため、清國政府は獨米兩國と特別協約の締結を希望する旨提議すべきを命じたり。孫公使は直に外務省を訪ひて本國の命を致し、協約條項の大體に就きて陳述する所ありしが、外務省は兎角の確答を與ふるに及ばざりき。然れども獨逸外務省が、米國駐劄の獨逸大使と清國駐劄の獨逸公使とに對し、清國提案の範圍及び協約締結の可否に就きて諮問する所ありしは、信すべき事實なる

が如く、米國駐劄の清國公使伍廷芳氏、亦本國政府より同一の訓令に接したりといふ。而して清國が、獨米兩國に對して今回の提議をなせしは、曩にルーズヴェルト氏が清國商業に關し、列強に同文通牒を發せしに由來するものと一般に想像せらるる。

又三月下旬、在奉天某外國通信員は報じて曰く。

昨年中滿鐵會社は破損せる車輛を運轉し、乗客をして窮屈不快を極めしめたる爲め、世間より盛に攻撃せられしが、實際又會社は年中其日暮しの有様にありて、僅に日々營業に必要な資金の外一弗の餘裕すらなし。然るに亦會社は自ら稱して曰く、今年一年を待たば米國に註文したる新列車到着すべきに由り、此際徒に資を投じ舊物を彌縫するは愚なりとて之をなさず。本年四月末頃には大連、旅順、奉天間に壯麗なる米國製の列車を通すべきを約言したるが、會社は果して其言を實行し得るや否や、是、頗る疑はしき所なり。また滿洲の門戶開放を保存するの道は、たゞ一に清國をして飽くまでも南滿鐵道を買収せしむるにあるのみ、如何に口舌を以て争ふも日本がその手に此鐵道を握る限りは、滿洲の實力自ら之に

歸し殆ど行うて意の如くならざるなかるべく、亦日本より言はゞ、北京政府の命する儘に之を還附するは狂愚を免れざれば、普通一遍にては之を手放すべからず。近頃奉天、吉林、黑龍江の三巡撫は滿洲總督と會商し、奉天巡撫は其結果を齎らして北京に赴きたるが、此會議には種々大問題も出でしならんが、想ふに日本の攻撃的態度と、戰時中其獲得したる特權は一寸も拋棄せざらんと、其決意とは、其首要なる問題たるならんと察せらる。總て日本との問題は、今尙一も解決を経ず、殊に日本が新民屯鐵道を法庫門以北に延長せんとするに反對するは、清國が最も感情を害せし所にて、これ日本は非道にも延長を禁制するものなりとて、非常に憤慨せり。蓋し新法鐵道敷設の曉は、南滿鐵道の貨物を奪ひ去るに相違なし。何となれば、滿洲道路は粗悪なれば、南滿鐵道の左右四十餘哩間の都市は、皆この鐵道に依りつゝあればなり。但し新法鐵道敷設の結果斯くの如き者あればとて、清國が自ら所信を行ふに於て、日本が不可をいふ謂はれあるべからず。假りに此鐵道通ずる所、遼河を挟み三十五哩の近きにありとするも、猶且つ然り、日本は決して其遠近を言ふべきにあらざるなり。歐米の將校が戰後に至る迄も、日本戰時の

行爲を諱稱せしもの、今之を見れば果して如何の觀を下すべき乎と。

滿洲に於ける日本政府の行動に對しては、巴里發刊米國新聞紙が華盛頓發通信として、滿洲に關し一致の行動を執るの目的を以て、米獨兩國政府間に内々意見の交換ありたるが如き報道を掲げたる際、南獨通信新聞は之に對し大要左の如き半官的伯林通信を公にしたりと云ふ。

米紙の暗示するが如き險惡なる風説は、吾人其何の意たるを解せず。米國を使喚して日本に反抗せしめんとするが如きは、獨逸外交の想到せざる所に屬し、吾人は日本に對し權謀術數を講すべき理由を有せず。今や日獨兩國の關係は圓滿なり、焉んぞ滿洲の事を以て之を傷くるの危險を冒さんや。米國政府は過般既に本件に關し、自ら日本に對して何等提議するの意なく、又他國より協議を受くる事あるべきを期待せざる旨、公然聲言したるにあらすや。少なくとも獨逸は米國政府に對し、何等意見を開示せること斷じて之をあらす。

又北清デーリー・ニュースは曰く。

滿洲に關する日本の行動は、徒に列強の怒りを買ふのみにて何等の得る所あら

ざるに似たり。此くの如くにして、日本は海外に向つて自國の利益を永遠に増進せんとするも、其結果は却つて露國の利する所となるべきのみ。今日の滿洲は東清鐵道協商時代の滿洲にあらず、列國の利害干繋甚だ複雑なれば、列國は一八九六年に於ける露國の行動を觀過したりしが如く、一九〇八年に於ける日本の行動を默許するものにあらず。且つポーツマス平和條約及び其他の公約ある今日に於て、日本が鐵道地域に關して何等か要求をなす事あれば、勢ひ之を以て日本は自國の商業の爲めに滿洲に於けるあらゆる特權を獨占せんとするものなりと思考されざる能はず。又斯くの如き特權を海外の植民地に強求せんとするは、思慮なき行動たるを免れず。日本の當局者は、清國の到る處に於て此くの如き行動を執れるものに似たり。東京通信員の報道する所に據れば、此問題に關して列國は既に其決心を示現せりと。日本が今に於て此形勢を輕々に觀過する事なくば、刻下容易に調停の途を見出し得べし。然れども列國の與へたる最初の警告によりて、斷然其行動を改むるにあらざれば、終に意外の結果に到達するに至るべく、世評は此結果を以て殆ど想像以上にあるべしとなせりと。

第四節 日英同盟の存状に對する彼等の觀察

英國外務大臣グレー氏は、下院に於ける外交に關する討論中左の如く云へり。日英同盟は極めて健全なる状態にあり。日本は其非常なる精力と公的精神とを韓國の誘導と自己の資源の開發とに集注し居れり。日英同盟は他の如何なるものをも顧慮することなくして、確實に相互の安全を保障するの感を兩國に與ふるものなり。予は將來に於て今日の状態の永く繼續すべきを信す。

英國の當局者の言明此くの如しと雖、第三者の論評に意外なるものあり。紐育トリビーン紙上に一種奇怪なる論文あり。主として日英同盟の永續すべからざるを論ずるものなり。其趣意左の如し。

吾人は極めて不愉快なる臭氣を發するが如し。予の茲に吾人といふは亞米利加及び歐羅巴の白哲人種の謂なり。日本人のいふ所に據るに、吾人の發する臭氣は常に苛烈なるのみならず、酸氣をも含み居りて堪へ難しといひ、彼等は他の東洋人種及び我赤印度人と等しく吾人の臭氣を厭ふこと甚だしく、若し日本人にし

て多年歐米にありて此臭氣に感染したるものある時は、之を以て兵役免除の十分の理由なりと思惟せらる。實に吾人の臭氣に感染したる日本人は、其同胞と打交はる能はざる者なりと認めらる。其狀恰も癩病患者に於けるが如し。吾外人の臭氣は常に日本人をして兵役に就くの資格を失はしむるのみならず、尙日本の法律に據るに離婚の正當の理由ともなる。白人は今日まで思惟すらく、吾人は亞細亞人、阿弗利加人、亞米利加印度人、エスキモー人等よりして、優等なる人種若くは殆ど半ば神に近しと認めらるゝ者なりと。而して吾人は得意なりき。然るに豈計らんや、吾人は吾人の臭氣よりして尊敬崇拜を受けざるは愚か、我等に對し厭忌の念を與へ居らんとは、寧ろ驚くべし。讀者或は之を以て戲談なりと思惟するやも知るべからずと雖、決して然らず。若し吾人の臭氣にして日本政府より海陸軍兵役の障害物と批難せられ、且つ離婚の正當の理由と認めらるゝとせば、此臭氣や實に堪ふべからざるものに相違なく、かの最下等の支那苦力の吾人に接する時、折々其面上に嘲弄侮蔑の色を見るは、其原因全く此處にあるなり。スウイフトのかの有名なるガリヴァ旅行記を著すや、中にリップ等々に於ける蠻族がガリ

ザアの臭氣に堪へざりしをいへり。吾人は此譚を以てスウィフトの例の興味ある諷刺なりと思惟し居たるが、今や日本人はスウィフトが吾人の不愉快なる臭氣を有して、黒奴をすら鼻を擧めしむと云ひしことの、全然眞面目なりしを吾人に知得せしめたり。

勿論吾人も亦黒人種の臭氣を感ず。殊に支那人は一種特別の臭氣ありて、歐米人は之に慣るゝ能はず。予の屢、支那に滞在するや、予は此臭氣を分拆せんことしたり。此臭氣は其觸るゝに従ひ、凡ての物に之を感染せしむ。餘り勁烈なりとはいふべからざるも、歐米人に取りては嘔氣を催さしむ。予は姑らく其由つて來たる所を發見する能はざりしが、或は入浴の時石鹼を使用せざるに因るにあらずやと思惟せしも、元來支那人は屢、入浴する者にして、殊に衣服に就きては日本人と違ひ、大に注意を加へて常に清潔を貴ぶを以て、原因は石鹼の缺乏にはあらず。然るに予は遂に其眞因を發見し得たり。そは支那人が極めて古き鶏卵を喜び腐敗せる牡蠣に舌鼓を打ち、腐臭高き魚類を好むの一事なり。されば彼等の常に臭氣紛々たるは敢て驚くに足らざるなり。

日本人亦斯くの如し。實に彼等の臭氣は支那人よりも一層甚だし。これ彼等の食物の嗜好支那人と同様なるも、且つは衣服の不潔なるに因る。殊に衣服は其更へらるゝこと稀にして、又決して之を洗ふことなし。尤も日本人は普通の文明人士を半熱となすが如き熱湯に日々沐浴す。しかし入浴を終るや、再び例の古びたる衣服を着用す。實に此衣服たるや、三四代以前の祖先より着用し來たるものなり。といふも過言にあらず。絹及び毛製の衣服は長く使用に堪ふるに相違なしと雖、二三十年も間斷なく着用せば、之を洗濯すること必要なり。殊に熱帶地方に於て然りとす。されば日本人が其花卉と比較して一大照應を示すは敢て驚くに足らず。茲に可笑しきは、日本の花卉が地質の關係よりして全然香氣を有せざることなり。されば苟くも日本に滞在したる歐米人が、歸國後其臭氣を脱するに餘程の長時日を要するは敢て驚くに足らず。

東洋到る處に於て酷しき臭氣を嗅がされし吾人は、東洋人よりして吾人が不愉快なる臭氣を發すといはれて片腹痛しといはざるべからず。交趾支那、安南、暹羅に於ける各都市にては、汚物街頭に投捨てられて、其高さ家の窓に及び其臭氣の

甚だしき之に比較すべき者あらず。若し又臭氣の如何なるものなるかを知らんと欲する人あらば、宜しく埃及の墓地に赴くべし。同國の墓は頗る淺く、時として其結果如何。墓地の臭氣は殆ど名狀すべからず。又阿弗利加のニグロイド族の臭氣は如何。彼等は駱駝の排泄物を燃料に供し、獸脂を石鹼の代りとして使用するを以て其臭氣は面を向くべからず。シャーマン將軍嘗て曰く、赤印度人中一番善きものは死したるものなりと。以て其臭氣の如何に甚だしかりしやを想見すべし。

東洋にては人種に依り各、特種の臭氣あれども、歐米にては然らず。個人に依りて特種の臭氣あるなり。吾人は目を蔽うて臭氣に依り其人の階級を斷するを得。されば相當の地位ある婦人は、斷じて勁烈なる香料を用ひんとすることなく、又男子とても香氣高き香水を使用せば、爲めに却つて彼の成上り者たるを悟らるるのみ。實に吾人の臭氣といふは、食物及び飲料に基づくものにして、香水を用ふるも到底十分に之を消すべくもあらず。而して茲に注意すべきは、色彩音楽に調和

のあるが如く臭も亦調和あり。されば吾人人類の生活なるものは臭の好惡に依りて支配せらるるところ甚だ多し。實に臭なるものは、世界の外交に對して大關係あるものにして、予自身は久しく日本にありたる一人として、かの日英同盟の永續若くは其價值を更に信せざるものなり。何となれば互に其臭氣を攻撃する兩人種が結合する能はざるは勿論にして、又白人の臭氣を以て離婚の正當の理由とする人種と、戦時協同するを頼みとせる英人亦馬鹿なるかなど。

又倫敦帝國評論に於て、英國下院議員キャプテン・キンケード・スミス氏が、自ら東洋巡回の結果を論述したる一篇あり。先づ日英同盟の大目的は日本の生存に憂懼を與へたる露國を目的とするに外ならざりしと言ひ、更に曰く、

列國中極東に利害を同じうする者は只英國と米國あるのみ。共に門戸開放を方針とする者なれば、極東政策を考定するに於て此事實を強記して忘るべからず。されど門戸開放政策を維持するの最好保障は、清國をして強大の陸軍を備へしむるにあり、これ獨り日本をして強大ならしむるに勝る萬々なり。清國強くんば以て能く自ら東洋の均勢を保つべし。かの黄人患若くは日清同盟を説くが如き

は未だ實際を知らざる迂腐の見なり。清國人は日本の爲めに領土を蠶食せられたるを怨みて之を嫌惡すること甚だしく、日本亦清國を侮蔑すれば其間如何ぞ聯合あるを得んや。今日東洋にある英米人は、一般に極東事變の經過に徴じて日英同盟の過計なりしを思惟し、滿期の後は其斷じて重訂すべからざるを説かざるはなし。然れども日英兩國民間に於て今何等感情の齟齬あるにあらず。蓋し英本國の人は全く日本を知らざればなり、唯東洋にあるものは日本を嫌ひ、又事毎に日本を惡み、日本人亦英人に對して此感情を等しうすれば、今より後遠からずして兩國商業上の利害必らず衝突するを免れざるべし。これ五年前にありては何人も夢想せざりし所なり。英國若し日英同盟を恃んで極東の兵力を減じ、殊に萬一清國に騷擾起る時、自家當然の義務を擧げて、其一端たりとも日本に委任して晏然たるが如きことあらば、大失敗を招かんこと必せり。英米人の日本に對する惡感情は、新嘉坡、卑南よりして、愈日本に近接するに従ひ愈盛んなり。此事は倫敦支那エクスプレス記者アンジャー氏の通信中にも見えたり、但し氏は其妄を辯せり。蓋し此原因は或は嫉妬に因り、或は商業上の競争に由り、或は日本が露國と

講和條約を訂結したる時、皆く日本に瞞着せられたるを不快とするにも由らん。蓋し當時文明列國は、日本の實狀を解せずして、萬口一齊に其講和條約の寬大、日本の節制を稱揚して措かざりしかば、其實を知るに及んでは、此處、日本に誤魔化されしことの感なきにあらざるべし。當時日本が財竭き兵盡き、又復戦ふ能はざりしは、毫も疑ふべき所なし。随つて北清、滿韓の商事に就きて察するに、日本が條約を無視し、自國の商人に百方便宜を與へ、外商を疎外すとの怨言到る所に聽かざるはなし。朝鮮の事は憫むべきまでに失敗せり。是、日本政府當初の政略を過りしに由るなり。今後百の善政ありと雖、韓人の心を柔ぐると蓋し至難なり。凡そ日本の今日、難局に陥れる人、或は其敢爲を稱し同情を寄する者あらん。しかも元こそ其の行ふ所條約に背反し、我商人に損害するに於ては、外人此儘唯々として已むべきにあらざるなり。宜しく日本の風景、衣服の美、婢僕の丁寧懇切を喋々するを休めて、日本及びその志は、英國及び列國民の利害と衝突する所あるべきを慮り、斷然之に處する所以を講述せざるべからざるなり。

第五節 日本と清韓の關係に對する彼等の觀察

其一 日清關係に對する彼等の觀察

露國ノ一ウエウレミヤは清國に於ける阿片業問題を論じ、清國に於ける覺醒の機運を示現したるは、これ日露戰爭以來の形勢の變調なりと論じ、更に説をなして曰く。

此問題に關して特に露國に取りて重大なる意義を有するは、此阿片問題に對する日英兩國の關係なり。日本は阿片喫用者を五年の重禁錮を以て處刑し、英國も亦阿片製造禁制の法律案を提出し、去る四月を以て議院の決議に附したり。阿片禁制の擧はこれ久しく清國の醒起を妨礙したる大障害を去りて、清國の桎梏を解除する者なり。此重大なる事實を見るにつけても、尙運命其ものが我等に與へ居る若干年限を最も廣く利用せざるべからず。即ち軍備その他對清策を講せざるべからざるの意。

昨日の敵なる日本に對しては、我等は善良なる平和の間に居り、且つ最近の英露

協約よりは我國の安全を保險する保證の基礎を得ざるべからず。我露國は清國に對しては眞實なる不分離の友誼を結び、これに依りて將來露清兩國は亞細亞北部の主權者たらざるべからず。日清兩國は早晚必ず衝突を免れず。我露國の國家的義務は、この衝突を避けしむる爲めに全力を注ぐにあり。然りと雖、若し此日清兩國の衝突は、我等の意思に關係なく茲に起るものとせば、我露國は其何れに味方すべきかはこれ問題なり。

辰丸事件の起るや新聞報は論じて曰く。

日本は今より三十年以前、未だ羽翼生ぜざりし時にすら、已に牛に對して戰はんとする兎の如き舉動をなせり。而して一度一國に對して勝つや、自尊の心は無限大となり、幾度か甘言を以て清國を欺きたり。清國は露國に結ぶを恐れ、百方某國と結ばんとせり。而して日本の心事は、清國に永久的に根據地を有しつゝ、其勢力の擴張を計るにあり。而して一事起るや、恰も命令者の如く清國に逼るなり。殊に英國と同盟したる以來は、清國を侮辱するも、何の遠慮なしと思惟するが如し。清國は無事を望みて常に日本の希望を容るゝなり。日本は清國に異動の起らん

ことを祈れり。日本は此機會に乗じて清國を自己の藥籠中に收め得べしと信ずればなり。辰丸事件の如き明かにこれを證するものなり云々。

又間島事件の起るやノールヴエブレミヤは論じて曰く。

日本の慾望は日に月に増長し、今や韓國の占領を以て満足せずして、如何なる方面に其手を伸ばさんかを考慮し、遂に清國領土の一地方なる間島に手を伸ばせり。間島は軍路上甚だ重要な地方にて、豆滿江の二支流の間にある平原なり。清國と韓國との國境は既に一七二二年に確定せられ、其境界碑はペイトク山に建てられ、爾來今日に至るまで此地方は清國の版圖として道臺の治政の下にあり。昨年八月、日本は同地方人民を馬賊より防禦するとの口實の下に、齋藤中佐に僅に六十名の兵卒を以て間島を占領せしめたり。同中佐は直に知事たるの職權を行ひ、間島は韓國の版圖なる旨を聲言したり。

日本は滿洲總督の反對あるにも關せず、新に占領したる間島を堅く占領し、且つ齋藤中佐は清國官憲に此處に國境を新に劃定せんことを提議せり。

間島の境界調査の爲めに差遣せられたる清國の境界劃定委員の報告は、京城に

於ける清國總領事の得たる古來の韓國地圖と全く符合し、其他幾多の書類は悉く清國の利益となる證據ならざるなきも、何等の理もなく齋藤中佐は依然として清國の一縣たる間島に縣知事として職權を行へり。滿洲の清國總督が先月北京に入京せる際に、直接日本公使に會見したる結果、清國の正當なる要求を退くるは證據を無視するものにて、日本の不法なる事は日本公使も之を認めたりとのこと、北京新聞に見えたりしが、齋藤中佐は依然として間島を占領し、加之、同中佐は新に國境を劃して既に境界の標石を建てたりとの事なり。

間島の清國道臺は最初日本の遠征者より退去を要求せられしも、その位置を保ち居りしが、遂に何等の效なきを認めて、自ら召還を北京に要求せり。現今此間島事件の談判は袁世凱との交渉に移されたれば、同將軍は責任ある解決を與ふるならんと想はるゝも、清國が果して要求の満足を得るや否やは疑はしき次第なり。然し日本が一時に間島全部を占領したるは、後讓歩してその半ばを割くか、若くは其返附の交換として、清國より未開港地の開港等を要求せんとする野心にあらざるか、要するに此間島問題は特別なる祕密の間に決定せらるべく、歐洲に

於て此問題の解決を傳へ聞く時には、既に其結果が利害關係を有する歐洲列國に及びての後なるべし。

紐育アメリカン特派員ロバート・クロウジャー・ロング氏は二月八日(四十年)倫敦より其本社に向ひ左の如き通信を電送したるよし、曰く。

英國極東通の斷言するところに據れば、この次日本の侵略の目的物となるべき運命を有する者は、米國にあらずして清國なり。米國の順番は日本が同國と戦うて成算ありと認むるに至るまでは廻り來らざるべし。今を去る十四年日本の清國と戦うて之を破るや、世人私に想像すらく、極東の覇權に對する日清兩國の主張は、茲に永久に解決せられたりと。然も清國は疑々乎として覺醒し、此想像の中らざりしを示せり。成る程、清國は日本に後るゝ事三十年なり。されど清國は遂に確に覺醒し來りて、活氣あり、不撓なり、革命的なり。殊に一般外國に對して排外の精神強く、就中日本に對する排斥熱最も大なり。同國は今なほ其腐敗せる軍隊に對し、日本教官を聘用せるも、然も是、必要に迫らるゝが爲めのみ。米人若くは歐洲人に比して十分一の經費を以て足るが爲めのみ。然れども同國も今や是等外人

に代ふるに自國教官を以てせんとし、日本の野心を憎むは軍人も改革派文官も共に然り。現に改革派新聞紙は昨年を通じて日本排斥を呼號し、日本教官に代ふるに國土遠隔にして危険少なき獨人を以てせんことを主張したるが、殊に重大なるは今や外務部が日露戦争の結果として、日本の強請せる無敵の要求を拒絶するを恐れざることこれなり。日本は豫て其奴隸と想像せし清國より、斯くの如き不遜の態度に接して、初のは之を憤怒せしが、其憤怒は今や變じて著しき喫驚となれり。勿論日本は再生せる清國より侵略を被るべしとは思惟せざれども、然も嘗ては固く手に握り締めたる清國の、今やスル／＼と掌中より迂り脱げんとし、而して其全然自由の身となりて、自國よりも更に一層侵略的となるの、單に時日の問題たるを覺ると同時に、稗史に所謂一千万の兵勇も遂には歴然たる事實となり、猛然として日本排斥に着手すべきを看破せり。されば日本の目的は、清國が斯くの如き状態に達せざるに先ちて、早く之を征服せんとするにあり。これ米國攻撃よりも更に差迫りたる必要なり。何となれば日本若し今直に米國と戦はんには、其結果は到底自國を疲憊せしむるに過ぎざるべく、加ふるに清國の鎗の一

面に閃めくを見ん。これ日本政治家の研究せる所なり。目下日本が清國に向ひ頻々として難題を吹掛け、動もすれば一八九〇年の再演を見んとするが如きは、全く右の理由に基づく者と云ふべし。日本は外交文書と倫敦に於ける機關新聞を利用して、日清問題の頗る重大なるを説得せんとするも、然も問題の重大となれるは日本の脅嚇的壓抑の然らしむるもののみ。葛藤の第一原因は豆満江附近の些々たる間島問題のみ。第二は法庫門鐵道問題なり。清國の主張は、清國が滿洲に於て主權を有すといふにあり。是、國際法の現行條約に據りて争ふべからざる所なり。第三は伐木問題、更に第四は關東の所領問題これなり。熱之を見るに、右の問題中重大と認むべきものは一として之あることなく、只日本が兵力を以て清國を脅嚇する口實として問題を重大なりと吹聴するのみ。清國は克く危険を知れるも、然も其動くこと遅緩なり。思ふに日本は猫の如く機を窺ひつゝ、第一の機會を捉へて清國に飛び蒐るならんことを云々。論旨淺薄笑ふべし。雖、外人が如何に日清の關係を揣摩するかを知るの一資料には供せらるべし。

其二 日韓關係に關する彼等の觀察

ノーヴェグレミヤの日韓論に曰く、

韓國事業の歐洲に傳はる通信は甚だ稀にして、且つ偏頗なる報知のみなり。韓國に其足場を固めたる日本人が、成るべく其吹聴を避くるは自然の事にて、韓國電信機關を其掌裡に收めたる日本人が、自己に不利なる通信を抹殺して不利ならざる通信のみを傳ふるなり。故に韓國より非常の注意を以て漸くに發送せられたる郵便のみに依りて、以て韓國事情の真相を窺ふに足るべく、斯くの如く郵書の延着するは、寧ろ其郵書通信の正確なる事を證する者なり。在京城の通信者中にタン新聞の通信員ありて、深く韓國の内情に通じ、且つ韓國に對して公平なる見解を有せる人なり。吾人は同通信員の最近通信と、間接なる道により他方より得たる通信とに依頼して、韓國の位置事情に對して少しく觀察する所あるべし。日韓兩國關係の依りて定まる所の法律的基礎は頗る曖昧なり。タン新聞の説の如く、日本は唯韓國を征服したるにあらざるのみならず、韓國と一兵を交へざるを以て、韓國に對して保護權を布告するの權は至つて微弱なる者なり。これ恰も佛境に勝利を得たる獨逸が、中立國たる瑞西に於て特權を將來に保有すればと

で瑞西に對して保護權を布告する權利を有せざると一般なり。對露の目的を以て成立せられたる日韓同盟は、これ韓國人の自由意志に依らざる壓制の結果たるに過ぎず。保護權の承認は、これ狡猾手段を以て韓國皇帝より得たる所のものなり。斯くの如くなるを以て、對露の日韓同盟並に保護權承認に關する國際公法上の價值は、全くのゼロに歸せざるを得ず。日本權利の唯一の根柢は、即ち實行せられたる事實の勢力是なり。恐らくは歐洲列國若くは其他の國の中に事實斯くの如き状態に抗爭をなすか、或は之が修正をなさんとする國を出だすに相違なし。吾人の取るべき策は、平然として韓國の事情を觀察し、白人の所謂獨立の能力なき國民に對する、日本の指導的政治の成果如何を觀測するあらんのみ。

日韓協商の主動者たる伊藤は五月に其幕僚と共に日本に還れり。或者は曰く、伊藤侯は更に廣き全權を得て京城に來たるべしと。また或者は云へり、伊藤侯の東京に於ける勢力は大なりと雖、侯は山縣元帥一派の反對に堪へずして全く政界を隱退すべしと。伊藤侯は韓國に在任中或種の最も重大なる成果を收めたるに相違なきも、然し主に既に着手せられたる改革の範圍内に於ての成果に過ぎず。

伊藤侯は京城にて日本黨を作らんとして其目的を達せざりき。前任大臣の若干の者並に教育を受けて外國より召還せられたる義和宮殿下並に多くの韓國官吏は、皆是、一般社會の不平を鎮壓するに力なく、又新領主に對する住民の現然たる怨みを鎮むるを得ざるなり。伊藤侯の唯一の働きは、韓國より歐洲の官憲を驅逐し去りたるにあり。その中には英、白、米、佛等の諸國ありたり。韓國の歳計を容易ならしむる爲めに、四十名の官吏を免黜して之を日本人を以て代へたり。最近の調査に依れば、韓國にある日本官吏は一千七百人なり。斯くの如くして、日本人は勝手次第に歳計を容易ならしめて自己の欲する改革を行ひ、且つ地方に移民をなせり。日本の移民は日々平均三百名を算せり。伐林特許事件の爲めに吾人を譴責したる日本人は、自ら露國の特許取得者の後を襲ひ、寧ろ之を追越して、不法にも一切外國人を排斥して、利益の存する事は悉く其掌裡に收めたり。地方治安と邊境防備の名目にて、日本は陸海軍の兵力を以て、廣大なる土地を占領せり。馬山浦は日本の軍港となり、仁川も亦同様の目的にて防備を施され、平壤、京城、ダブク、元山、義州、定平、其他の都市は軍隊駐屯地となりて、是等の諸市は全く日本の支配

を受くるに至れり。外國人の私有權さへも認めざることなり。仁川に於けるヒリッ
 プ氏事件の如き、優に此事件を示すに足れり。其他平壤に於ける佛人の特許權、京
 義鐵道の特許權、其他の事件の如き、皆其事例なり。是等特許權は悉く取消され、其
 損害賠償の如きは今日に至るまで未だ耳にせざる所なり。
 日本は其約束せる改良事業、即ち道路の改修、模範農業、其他學校等の爲めに日本
 の商業銀行にて、韓國に一千萬圓の國債を成立せしめたり。此國債は、韓國に於て
 國民に對しての侮辱と、日本官吏に對する幾多の誣告を惹起し、伊藤侯の如きも
 大に疑はれ、統監府附の鍋島氏は、統監の冤罪を雪ぐために、半官的に外國領事を
 訪問せる位なりき。日本は財政整理の任に當りたる事故、其冒險を自ら安全なら
 しむる道を講せざるべからざるや、固より當然なり。日本は此目的を以て、韓國の
 關稅を掌握せり。此事件にも亦日本は排外主義を行へり。
 斯くの如く、韓國の官吏、行政、農産等の一切の事は悉く日本人の手に歸したり。韓
 國は朝鮮としての國家の存在を失ひて、日本の一縣となり、此縣には外國人の入
 る事さへも困難になれり。以上吾人は、只事實を綜合したるまでの事にて、敢て政

治的論評をなしたるものにあらず。

韓國京城駐在、露國領事プランソン氏の赴任に關し、ノイグエブレミヤは左の
 如く論じたり。

キヨルン通信員の電報に依るに、露國は韓國に領事を任命したるに、日本は駐在認
 可を東京に於て求むべく要求せりと云ふ。日本は之を以て、露國をして日本が最
 後の日韓條約に依りて得たる日本の、韓國管理權を公認せしめんと欲するもの
 なり。

日韓條約の本文は今吾人の手許になし。曾て英國新聞の傳ふる如くんば、日本は
 第一、韓國皇室の名譽、尊嚴を保護することを約し、第二、日本は韓國政府の主班に立
 ちて、全般の行政を管理する。統監を任命するの權利を有し、第三、韓國は自國の外
 交を擧げて日本の監督に委ね、全然日本の指導に従ふを約し、此事に就いて、韓國
 に有利なる點は、唯日本が將來韓國の内部状態が其外部の獨立を回復すること
 を公約したるの一事のみ。第四には、日韓條約にて、韓國の稅關官吏が悉く日本臣
 民を以て任命せらるべきことを規定したり。

本文にして誤りなくんば、日本は此條約に依りて韓國の諸般の外交を管理するの權利を有すると疑ひなく、随つて領事の駐在認可證交付の權利をも有するものなり。唯此條約は第三者たる露國に取りて恪守するの義務なし。是に於てか吾人は果して斯かる條約に對して抗議を申込み、又は抗議に等しき行動を執るの必要ありや否や(我に此抗議の權利あるとは固より疑ひなし)の問題起らざるを得ず。

駐在認可證交付の如き官署の手續に關する區々たる問題を以て、韓國の獨立の作られ又破らるべきものにあらざるは論を俟たず。韓國の國際的位置たる、確乎堂々たる干繋を以て一定せらるるものにして、かれこれの儀式の如き、之に對して全く微々たる價值を有するに過ぎず。今日強硬なる態度を執りて飽くまで韓國の獨立を擁護せんことは固より吾人の本意にあらざるを以て、駐在認可證交付問題の如きも亦争ふべきものにあらざる。而してその争ふべからずとするは、日露の干繋に關する點に止むべきは論を俟たず。

吾人が斯く言ふ所以のものは、韓國の位置たる國際上相交渉する各國の利害休

戚に關する問題なればなり。故に露國たる者は、決して他の列國に取り不利なる先例として解釋せらるるが如き行動をなすべからず。之を換言すれば、韓國駐在の我領事は駐在認可を何人より受くるも、露國に取りては全く問ふ所にあらざるも、露國は此點に關して先例を作るべからずと云ふのみ。即ち他の列國にして東京に於て駐在認可を求むるの手續に出でたらんには、露國も亦其手續を履むも可なりと雖然らざる場合に於ては、領事を京城に任命するを見合すを以て得策なりとす。

我國の貿易政策に就き、奇怪なる打電をなしたる倫敦デリーメール通信員マッケンジー氏は、其後朝鮮に渡航して引續き非日本的通信を頻發しつつありたるが、同新聞紙上載する所の朝鮮に關する同通信員の一語に曰く、最近二年間に、日本は昔に偉大なる武力國たるのみならず、又卓越したる植民的國民たること明かとなれり。實に同國は三十箇月ならずして、世界中最も豊饒なる一地域を、土人より何等の故障を受けずして獲得し、其大なる都市には到る所千を以て數ふる同國民來りて根を下せり。目下朝鮮にある日本人は、軍隊を除く

外、八萬人を下らず。彼等は國中最良の地點を選擇して之を手に入れたり。彼等は南北を貫通せる立派なる鐵道を敷設し、沿線の土地の大部分を押領せり。彼等は靜に宮廷と政府とを壓して自己の好むが儘に振舞へり。彼等は土人を訓練して、苟くも彼等に對して手を擧ぐるを得ざらしめたり。彼等の警吏は到る所にあり、彼等の軍隊は直に何れの所にも赴くことを得。彼等は鑿々として國土を開拓しつゝあり。彼等は未だ嘗て手の觸れざりし炭坑を採掘しつゝあり。今日まで棄てられたる金鑛、鐵鑛を採掘しつゝあり。清國及び露國々境の神代的森林は彼等の斧を以て鳴りつゝあり。南方の日暖き田園は、彼等の棉花を生じつゝあり。朝鮮に來たる日本人は最劣等の者と雖、苟くもその日本人たる以上は、誰彼の區別なく征服者の風采を以て濶歩しつゝあり。普通の日本人に取りては、日本人と日本人以外の此二人種あるをいふのみ。若し諸君にして日本人ならんば、諸君は即ち劣等なる人種にして萬事茲に休す。この事屢、悲惨なる結果を來たす。凡ての日本兵士は、單に其兵士なるが爲めに、其なす所は凡て可なりと認めらる。實に日本軍人に對して訴へを起すは難し。朝鮮に於ける日本裁判所は、自國民の爲めに都合好

き判決を與ふるが爲めに構成せられたるものと思惟するが如し。かの埃及に於ける英國の保護は英國を利するにあらずして、専ら埃及國民を文明に誘導せんとするにあり。されど日本の行動は、全く之と背反せり。一九〇四年日本人の朝鮮に來たるや、普通の朝鮮人は日本人を見るに善友を以てしぬ。然も今や朝鮮人は日本人を憎むと蛇蝎よりも甚だし、これ何が故なるか、第一國民的原因是なり。朝鮮人曰く、日本人は朝鮮の獨立を維持すべしなご稱する好言好誓を以て、友情の假面の下に朝鮮に來り、次で軍隊を國內に駐屯せしめ、朝鮮を手中に握り終るや、直に約を食みて獨立を奪へりと。尙朝鮮人の云ふ所によれば、日本人は何等の理由なくして私有家屋地面を掠奪し、恬として顧みず。加ふるに無賴の日本人は續々渡航し來り、何等の牽束を蒙らずして思ふが儘人を撲り、婦人を辱しめ、財を掠め生命を奪ふ。而して日本軍隊は、今や戰爭の終れるに拘らず、國中到る所に駐屯し、人民の收穫物を足下に蹂躪し、田園を荒し、住民を家宅より放逐す。實に朝鮮人は銃劍の威力を以て脅かさるゝが爲めに、餘儀なく普通賃銀の半分を以て日本人の爲めに勞働せざるべからざる境遇にあり。若し彼等日本人の官憲に訴

ふるることあるも、官憲は恬として顧みることなく、偶之を受けらるることあるも、更に満足なる裁断を得ることなしと云へり。日本の正理なる語は、今や朝鮮人の間に於て一種の諺となり居れり。

又倫敦國民評論に、ダリン・ウオストツと云へる變名を以て、日本の朝鮮に對する將來を論評したるものあり。論者は先づ日本が豊臣秀吉の大志を實現して朝鮮を其屬地となすを得たりと説きて、朝鮮は日本との地理上の關係に於て、自然の發展上、その勢力範圍に入るべき地位にありて、日本は乃ち之が爲めに二回外國と戦ひ、遂に日韓協約を結びて之を保護國とするに至れりと論じ、細かに當時同協約訂結の事情を叙して伊藤侯爵幹旋の功を擧げ、更に統監の職務決して容易にあらず。日本が統監に伊藤侯を得たるは、誠に日本の幸運なりしと言ひ、先づ侯が財政を整理し、宮中を肅清し、人材登庸の門を開きて、冗官三千を廢し、其改革の發程成功を收め、前途望みを屬すべきものあるを叙し、更に一轉して曰く。

日本の朝鮮に對する處置に就いては大に世間の攻撃を招きしも、これ或は實を

得たるもあれど、又或は誇大に失せるもあり。今日日本の朝鮮を占據するを咎むるは蓋し非ならん。日本の之を占據するに至れるは、何よりも武力上の權利にして、而して現在世界は日本が武力に由つて獲得したる地位を認許せるなり。即ちポーツマス條約之を許諾し、日英協約之を確認し、列國の任意的に公使館を撤退せる亦之を承認したる者にて、斯く既成事實として、各方面より文書に於て、實際に於て之を承認するあれば、今更之を攻撃するは蓋し其處にあらざるべし。日本の之を占據するは自ら確乎たる一定の目的あつて存す。朝鮮の行政を改革すること即ち是なり。日本は自ら列國に誓つて朝鮮の税政を刷新せんとし、而して朝鮮の自ら刷新する能はざるは歴史上の證明あり。然らば日本は如何なる方法に由つて之を改革せんと欲するか。乃ち我輩の今宜しく論議すべきは前者の占據論にあらずして、此改革方法の如何にあり。虚禮は日本の宿病にして、事常に繁文縟禮に流るゝを免れず。其朝鮮に於ける亦然るを見る。例へば日韓兩國の經度を異にするにも拘らず、東京時を朝鮮に強ひ、又人民に短き煙管を用ひしめ、其白服を廢せしめんとするあり。此等は一方より見れば極めて笑ふべく、曾て一たび試み

て失敗に歸したれば、今回又必らず失敗に歸するは明かなり。朝鮮人は何故か生來白色を好む人民なれば、法律之を禁するも禁せざるも、必らず白服を穿つべし。今日にありても、京城街上を往き最も人目を惹くは、貴人の白服を穿ち、奇異なる馬毛帽を被り、長煙管を口にしつゝ、悠然として行歩することにて、曾て往日と異なることなし。

然りと雖、此等は固より瑣末の件にして、其最も重大なる干繋あるは日本武官の權勢行動と、日本移民の朝鮮人に對する態度即ち是なり。日露戦争の記憶尙新たにして日本に於ける武人派の態度は、文官に尠からざる憂慮の源となり、今年初夏滿洲開放問題に關して、政府の文武官中に大激論を生じ、結局文官派の主張勝を制して、門戶開放の議を決するに至れるも、武人派は頗る不平に堪へざりしといふ。更に朝鮮にありては、日本武官の權力内にある處は、土人の感情も正當なる愁訴も殆ど曾て其耳を傾くる所とならざるは人の皆知る所にして、例へば土地の如きも戰略上の必要といふ口實の下には、又復何等の顧慮をも受くること能はずして、其代償として下附せらるる金額は、一に當該武官の見込に由るのみ之

に由つて不平の聲囂々たれど、さるにも拘らず、近頃朝鮮國內、日本官憲の權限を限定したる規則に於て、武官を健全なる文官監督の外に置きたるは、蓋し決して幸事と謂ふ能はざるべし。

統監が現下時局の需要を解し、朝鮮の爲めに計るに熱心なるは蓋し疑ふべきなし。行政の改革、財政の鞏固、農工山林の改良等、皆其改革政綱中の首要なる部分を占むるは能く之を、徴すべく、又朝鮮に於ける國人の缺點を知れるとも能く之を知るに足る。伊藤侯は東京に於て、公會席上語つて曰く、從來朝鮮にある邦人の行爲には非難すべき點尠からずして、朝鮮人をして爲めに深怨を懷き、暗涙を吞ましめたる者あり。日本帝國既に朝鮮の保護に任じたる上は、斷じて斯かる不當の行爲あらしむべからずと。現在朝鮮の人口は凡そ一千二百萬にして、日本在留民の數は、昨年中五萬五千より増して七萬二千に上りたれば、今後歲月を積むに従ひ、朝鮮の益、日本人の勢力の下に歸するは疑ふべき餘地なし。されば日本たるものは、文明強國として、また文明の師範國として、其人民の朝鮮に於ける驕傲專恣の行動を制遏するに餘力を遺さざるべきは、誠に緊要とす。凡そ征服國の強制的

指導は、縱令改良刷新の目的に發するにもせよ、之が下に立つ無氣無力の人民の苦惱の聲は、古今何れの處にも論なく、常に局外國の同情を呼起し易きものなれば、日本は此際尤も之に注意せざるべからず。歐洲大陸中、日本帝國を敵視する邦國の人民にして極東に在留する者は、日本の戦勝を快とせざる一種深遠の感情を有するとは親しく極東を巡遊したる者の皆心に感識する所、日本帝國人民たるもの、則ち此際自ら馳せて専横の行動に出づるは極めて不得策なりとす。京城の政府一新し、日韓人民共に正義と互恵とを以て交際の要義となし、又通商上の機會均等を保障せられたる各國民も皆均しく此恵みを受くるを得るに至らば、世界は國際上に於ける朝鮮の地位一變したるを悦び、決して異議あるべからず。傳ふる者は曰く、日本は日韓關稅同盟を建設するに銳意なりと。されど我輩は何よりも先づ、日本が列國と朝鮮との現行條約を引受けたるは、纔に昨年十一月の事なる事實を回想して、斯かる報道の未だ信を措くに足らざるを信せんと欲す。更に是以上に我輩の斯かる間違なきを安心するは、當局伊藤侯の達識敏慧にあり。伊藤侯は本年二月日本の最大政黨政友會員に演説して曰く、列國の感情

に背くべからざるは、獨り朝鮮の事に於けるのみならず、極東の總ての問題に於て亦然りとす。如何なる強大の國も獨立獨歩自恣の振舞あるを許さず。若し日本戦勝の餘威に浮かれて、自強自大、列國の同情を失はざらば、必らず他日自ら禍を招かんと。日本が國家の體面及び令名を何よりも重じとし、兼て國際海洋の暗礁間を無事乗越すの大經驗ある政治家伊藤侯その人の如きを有するは、誠に日本の幸ひなりとす。

或筋に達したる日韓新協約の評電に依れば。

英國諸新聞紙は、今回の日韓協約を以て、日本の保護權當然の結果として豫期し居りしと見え、該協約の内容に對し是非の評論を加へたるもの殆ど皆無なり。紐育トリビューンは、韓國に於ける日本主權の確定と題し論じて曰く、

日本は韓國に權力を把持したれば、此權力を有効に使用するは日本の義務なり。日本の行動は韓國のために利益にして、同時に韓國と交通する各國民の利益なり。適者生存の原則は恰も植物または動物中に於けるが如く、國家間にも行はる。韓國は明かに不適者なり、故に生存する能はず。若し韓國にして日本の勢力、技能、

徳義の十分の位置を表示するを得たるに於ては、殘酷腐敗無學の域を脱して其主權を確立するを得たりしならん、日本が韓國をして其混沌時代を脱して秩序を得しめんとするは容易の業にあらずと雖、日本がこの機會を利用し且つ自個の負擔せる責任を盡すの勇氣を有するは明白なり。

獨逸のフオッシュニツァイツング新聞は其社説に於て、先づ伊藤侯が韓國に於て行ひたる諸般の行政並に財政の改革に論及したる後、左の如く曰へり。

伊藤侯は過去短時日の間に一腐敗國の恩人たる資格を證明せり。何れの點より考ふるも、此新協約は韓國主權の存在を排除し、内政に於て實際の元首は皇帝にあらずして統監となりたり。新政に對して地方的暴動の起るべき兆候あるも、結局韓國が全く日本の主權に服従するに終るべきや疑ひなし。日本にして亞細亞大陸に對して有する政治的計畫を閉却するにあらずんば、韓國は度外に措くこと能はざるなり。何となれば韓國は亞細亞大陸に達する一方の橋梁にして、滿洲は他方の橋梁なればなり。

ペルソニエルトターゲプラットフォーム新聞は曰く、

吾人の豫想したるものは實現せり。韓國國民は自國の内政を日本人に委ねざるを得ざるに至れり。恐らく林外相が京城に向ひ出發するに當りて、其ポケットの中には新協約を持參したるなるべし。此新協約によりて日韓の完全なる合同は既定事實となりたり。滅亡又は驅逐するを得ざる韓國國民をして、其半開化的抵抗の下にありたる運命より、將來一層光明あらしむべく指導するは、今や日本の事業となるに至れり。

ロカールアンツァイゲル新聞は曰く、

今回の日韓兩國の間に成立せる新協約は、列國殊に獨逸に對し、何等の困難をも生せしめず。在京城獨逸辨理公使の召還は、其當時既に韓國に於ける日本の宗主權を承認せるものなり。

キヨルニツニツァイツング新聞は曰く、

日本が韓國を合併するよりして生すべき困難に就いては、吾人之を豫言すること能はず。然れども日本は總ての抵抗に對する處置を知れり。海牙に派遣されたる密使は、米、獨、佛の三國に於て多數の保護者を發見すべきことを豫想したりし

ならん。然れども彼等は、大なる誤想の下に行動せるものと謂ふべし。何となれば、列國の韓國に向ひ要求する唯一の事柄は、商業上條約權の維持のみにあればなり。

紐育トリビュンの社説に曰く。

過去數年間に於て、韓國は自ら獨立の自主政治を行ふに憚むべき程不十分なることを表白せり。韓國は數世紀の間支那の保護國として認められしに、日本は此有様より韓國を救ひて獨立國たらしめたり。然れども同國は其後と雖、日本と露西亞との間の追羽子と毫も選ぶ所なく、忽ちにして日本の羽子板に上り、また忽ちにして露國の羽子板に歸じ、變轉飛動暫らくも定着する所なかりしなり。而も韓國が此追羽子の如き地位に立てるは、他より強制せられ、其意にあらずして、茲に至れるにあらずして、自ら求めて之をなしたるのみ。韓國の此救済すべからざる優柔不斷と無定見とは、實に日露戰爭の原因にして、兼ねて又今を去る十年、日清戰爭の動機を作りしものなり。今や韓國の臨終は來れり。世界の公平なる判斷は之を以て至當のことと見るに躊躇せざるべし。

今次の讓位の直接原因をなせる韓國皇帝の處置は、實際日本を憤怒せしむるに十分なり。韓國は日本の手により露國の征服を救はれ、數年前、財政及び其他の行政は日本の指導勸告を仰ぎ、外交のことは日本政府を通じて行ふべきことを誓ひ、日本は其代り韓國領土の保全及び其皇室の安全を保障すべきことを約したる。此日韓協約は世界列強の承認する所となれり。然るに日本に於ても忠實に此協約の實行を努めたるに反し、韓國朝廷は日本に對して種々の陰謀を企て、其極終に皇帝は密使を海牙の平和會議に派し、平和會議をして日韓兩國の間に干渉せしめ、日本をして半島帝國に對する監督權を抛擲せしめんことを運動したり。平和會議に於て是等使節の言に耳を傾くるなきや、勿論にして、日本政府が韓國皇帝の此行爲を非難し、其責任を明かにせんとするは固より其所なり。試みにボカラーのエミールが使節を遣はして、露帝と自家との間に干渉せんことを懇願せりと假定せよ。安南の皇帝が佛蘭西に對して、かゝる陰謀を企てたりと假定せよ。又印度のマハラジャがヒンドスタンより英國の治者を放逐せんことを海牙の會議に要求せりと假定せよ。露佛英國民の憤怒激昂果して如何なる

べきぞ。是等の場合を想像すれば、日本人が韓皇帝の海牙密使事件に依りて、日本に加へたる大なる侮辱に就きて激怒するの當然なることを了知し得べし。尤も韓國皇帝に關しても憐むべき事情なきにしもあらず。又在韓の外人中には、韓國に對する日本の施政を非難し、韓人をして歌舞伎的政變を挑發せしめて自ら快とし、日本の果斷なる善後策を誹謗するものなきにあらずと雖、是等の人々は安南に對する佛蘭西の統御、印度に對する英國の管轄を賞讃し、ボカラに對する露國の宗主權、及び土耳其斯坦に對する同國の絶對的征服を以て、却つて文明普及の博愛的行爲なりとして、之を是認せし人々にはあらずや。日本の韓國に對すると、是等の國が其保護國に對すると何の異なる所かある。

近代の韓國は名は獨立國たりと雖、自ら陰謀と詭計の絶えざる目的物となるとを防止するを得ず。常に隣邦確執の原因にして、又永久の戰爭的威嚇なること、これ日清、日露の二大戰爭に依りて知り得べし。此戰爭的威嚇は、韓國の現狀に急激的變化を加ふるに依りて、交際し得べし。世界の平和と進歩とは、實際獨立し得ざる國の名義的獨立よりは遙に大事なり。吾人は韓國が今後國際的紛争の本地地

たらざるに至りたるを悦ぶものなり。日本の保護國として、韓國は將來日本が享有するが如き文明進歩の大部分を、日本より繼承し得べきを見て、今回の政變を祝するものなり。

ノーヴェグエ・ブレミヤは毒筆を弄して、支那も亦韓國の覆轍を踏むべしとなし、言をなして曰く。

日本は露國と干戈を交ふる以前に於ては、朝鮮人に説くに露國と葛藤を醸したる原因の一は、朝鮮の獨立及び自由を安固にせんとするにあるの希望なりと、このことを以てしたり。然るに近頃の事件は、日本が朝鮮の獨立と云ふを以て、何事を意味したるかを明かにせり。朝鮮の皇帝は位を黜けられ、皇帝に忠順なる諸官は捕縛せられ、人民及び軍隊は叛逆人と宣言せられたり。即ち日本は朝鮮の獨立と云ふを以て、朝鮮を化して日本の一縣をなすことを意味したるなり。支那は危然たる肉片なるを以て、之を一呑みにすること難し。支那を化して日本の藩邦となすには、時日を要し極めて緻密の準備を要す。日本は今着々これが準備をなしつつあり。

一九〇五年締結の日清條約の追加協商は、外國人即ちまた日本人の住居を許可するの場所を確然規定するに、日本人は此協商を遵守するの義務なしとして、苟くも己れの爲めに有利と認むる所には入り込まざるなし。追加協商に依れば、鴨綠江の森林事件は、日清兩國連合會社に於て經營すべきものなるに、今や日本は公然該事業を全く日本法律に遵由すべきものなりと宣言し、同事業は恰も支那領内にあらずして、自國領土内にあるものゝ如き振舞をなし、日本人の支那人に對する態度、全く朝鮮人に對する態度と同じからんとす。

支那帝國は領土廣漠たるの故を以て年中寧日あることなく、此處彼處に種々の原因の下に紛擾騒亂絶ゆる時なし。支那は決して之を避くると能はざるべきも此等地方的の争亂は敢て由々しき價値を有するものにあらず。目下南清諸省に起れる反亂は、幾百度、幾千度も支那に起れる争亂の一たるべきも、此動亂に就きては一種の特徴あり。其細微の點に至る迄、忽ち日本諸新聞の探知する所となりて、各新聞社恰も其各反亂地點には豫め特派通信員を有するものゝ如し。例へば日々、時事報、朝日、毎日、國民の各新聞は異口同音、今回の動亂は滿洲朝廷に對す

る性質を帶ぶと確證す。而して此日本諸新聞の記事論説は、支那諸新聞に轉載せられ、滿洲朝廷が外國人を保護すと云ふを以て、支那國民が同朝廷に對し惡感を惹起するの風説盛んに行はる。これと同時に、同様の説は西歐諸新聞、就中英國新聞にも傳はりて、歸する所支那は今や舉國一致滿洲朝廷に對し、外國人に對して反亂を企てんとするものゝ如き感起さしむ。日本人は巧みに支那人を煽動して、所謂洋鬼に反抗するの氣概を起さしめ、同時に西歐各國に對して彼等の支那に於ける利益を危ぶむの念を起さしむ。之が結果として、日本人は支那人の目に取れて天然の防衛者及び守護者の如くに見え、歐洲人の目に取れては恰も支那に於ける彼等の利益を防禦する爲め、天より下降したる警察官の如くに見ゆ。

日本人は日本諸學校に遊學する支那青年を日本氣風に養成し、歐洲人の踏み入ること能はざる支那内地の商業地點に入り込み、支那の最大富源たる鐵道、森林、炭坑、金鑛、鐵鑛等を手に入れ、支那の改造陸軍の指揮官及び將校となり、急ぐことなく着々支那の運命の支配者たらんとす。之と共に、日本は西歐人民に向つては支那に對する僻心を起さしめ、自ら西歐文明及び西歐利益の贊同者なりと揚言

し、歐洲各國と續々協商條約を締結して、其南清及び黃海沿岸に對する侵略的行動に向つて彼等の防碍を排除するに汲々たり。日本は支那の土崩瓦解を準備しつつ、此處に朝鮮の歴史を再演せんと豫期す。近頃まで錯綜ならざりし極東の形勢は、今や紛糾錯亂して意想外の大事件陸續紛起せんとするの兆あり。而して之が牛耳を執る者は實に企業心勃々たる日本人なり。

なほ同新聞の不謹慎なる批評に曰く。

ロイテル通信員は東京より七箇條より成るの日韓新協約締結せられたりとの事を電報す。是協約と言はんよりも寧ろ壓制と稱すること至當なれ。されど通信員に取りては孰れにても同じ。次に該通信員は日本人の提出條件輕からし爲め、朝鮮政府は速に其提議に同意を表せしと云へり。ロイテル通信員が此等の功勞の爲め、日本政府より幾何の報酬を受けたるや、又此電報を以て何人を欺かんと欲するや聞かまほし。總體に今日朝鮮に行はるゝ事は、實に憤慨に堪へざる事のみにして、獨り和蘭の眠れる平和會議のみ之に對して冷然たるを得べきのみ。

獨紙フオッシュエツァイツングは極東通なる某外交官の談話なりとて左の記

事を掲載せり。

密使の海牙に現はれたるは、日本に取りて決して驚くべきことならざりき。東京にては、韓國内閣が抗議の準備をなしつつありしを五月下旬には知り居れり。この秘密の洩れたるは、内閣大臣中二人の異論者ありて、之を伊藤侯に洩らしたるなり。これ當時の内閣の倒れたる理由にして、五月二十九日新内閣は前記二人の大員を舊大臣より入れて組織せられたり。此時には密使は已に途上にありしが、電報を以て抗議書の提出中止を命じ來れり。然れども陸相は再電して密使に囁するに、若し列國が抗議を容れずんば、公開演説を以て世の注意を喚起すべきを以てせり。韓皇は此陸相の訓令に賛意を表せざりしは、吾人も認め得るの理由あり。斯くて伊藤侯は巧みに密使事件を利用して、日本の權利位置を高めたるも、韓國の愛國的運動は容易に消ゆることなからん。

倫敦タイムスは曰く。

新日韓協約は海牙會議の豫想外なる一結果と稱して可ならん。韓國皇帝の不明なる使節を海牙に派遣し、自ら招いて位を去り、王權を制限せられ、日本に政權を

委することを致せり。蓋し一九〇四年の協約は實行に適せざりしに似たれば、早晩この政變は數に於て免るべからざる所なりしも、日本は急ぎてこれを行ふを欲せざりしものゝ如し。これ日本政治家には其理由ありしなり。因つて今回海牙使節の事あるとも、若し一方に於て世間論客の深き思慮もなく、韓國問題を世界列強の裁斷に提供せんことを唱ふることもなかりせば、日本は猶之を行ふを肯んせざりしなるべし。只事茲に至つては日本また已む能はざるなり。伊藤侯は米國新聞記者に向つて、日本が漸次韓國を合併する底意ありとの世説を否認し、且つ合併は無用にして又不得策なりと思惟する旨を語れる由なるが、今日の事は既に合併と擇ぶ所なく、日本は新協約に由つて行政司法立法の實權を一切掌握し、而して外交權は既に其掌中にあり、韓國政府の任務としては、たゞ皇帝の命令に親署せらるゝ事なれども、これとても統監の承諾なくんば皇帝之を敢てせざるべし。

林外相は、日本政策の要はこの新協約にて盡せりと語れりと云ふ。我輩は曩に論じたる如く、日本は韓國を經營するのみにても、當分多大の努力を要すべし。先づ

日本が斷然今回の緊要なる處措を執るに當つて、一外國よりも故障出でざらしめたるは幸ひにして、此點より云はゞ日本は最好事情の下に其事業に着手せるものと謂ふべし。日本の韓國に於けるは、我英國の埃及に於ると似たる點尠なからざれども、此外國干繋の一事は全く埃及に於ける場合と異なり。埃及にあつては列國の治外法權條約あり、混合裁判所條約あり、又金錢の貸借政治、通商上の利害干繋等種々輻輳せる事情ありて、英國の行動を障得するもの頗る多かりしも、韓國にあつては則ち然らず。門戶開放の利益以外、重大なる利益干繋なく、無論今後統監の韓國經營には重大なる艱難の之に伴ふものあらんも、先づ外國よりの故障のみは之なしと認め得べく、此點は日本に行動の自由を與へ、大に其施設に便なるものなりとす。然りと雖、日本は韓國に於て英國が嘗て甚だしく埃及に經驗せざりし所の一障得を有するを思はざるべからず。韓人の日本人に反對なること即ち是なり。韓人は日本人に對して宿怨を懷き、且つ眞に之を憎み、加之歐洲人の日韓兩國人を識るものより見れば笑ふべきの至りなれども、彼等は昔に之を憎むのみならず、亦輕蔑するものに似たり。上流社會の自國文明を以て、自ら高

しとするも亦厄介なる事態なり。蓋し彼等は其宗教、治國、禮儀の思想を支那より承け傳へたれば、彼等が心服畏敬する國は、世界唯支那あるのみ。日本は古來數、韓國を攻襲したれば怨みを含むこと頗る遠く且つ深く、殊に近世日本が西歐化せりといふ事は彼等の最も忌む所なるが如し。

日本は、韓國に着手せる事業の成績を擧げんと欲すれば、必らず先づ此感情を打破せざるべからず。日本がカラナイジング・パワーたる海外經營の美名を得ること否とは今懸つて韓國にあり。外國の故障なしと云ふ一事實のみも、即ち日本の責任を重からしむる者にして、此成否共に世界の具瞻する所たるべし。日本は其結果に因つて其力量を判断せらるべきが故に、日本は萬々之を自覺して其事に當らんことを要す。日本にして意思の堅確、處措の巧練及び持重耐忍の三者を巧みに併せ用ひて、以て韓人をして其政治に悦服せしむるを得ば、是即ち英國が埃及に成就したる所を成就するものにして、世界列國は日本を仰いで不平外國民を撫御する所以の師とせん。伊藤侯が徐々に且つ着々其事を行ふべしと言へるは、將來の有望を示すの好兆なり。東洋にあつては韓國ほど頑迷保守の人民ある

なければ、過激躁急の改革は最も感情を傷害し嫌惡の念を増さしむる所以なり。之を導くは唯須らく徐々たるべし。現に今日まで日本の感化に因つて執行せられたる改革中、下流民の多數に歓迎せられたる者尠からざるが如し。新協約に規定したる行政、司法の獨立の如きは、是、本と概して東洋人になき思想なれども、能く其實を擧げなば、彼等は必らず日本を徳とせん。蓋し舊裁判所の腐敗偏頗は實に其極に達せり。若し能く之を改革して訟訴公平なるに至らしめば、彼等漸次排日本思想を棄つるに至るべきなり。宮廷は排日密謀の源泉なれば、之を清掃するは緊要事なること固より疑ふべからざれども、これ亦大に用意あるべし。人民は韓國皇帝を仰いで半神半人となす者なれば、之を待つに躁暴なるは、また無謀の陰謀家に其利器を與ふる所以なり。

林外相は京城に於て、清國は韓國の近事に鑑みんことを戒めたりといふ。其言の要に曰く、清國は未だ晚からざるに及んで、韓國の運命に鑑みよ。京城の壓制政治は今終末を告げたり。清國に行はるゝ壓制政治は即ち京城の壓制政治の最も模範を取りし所なり。これ至惡の政體にして、必らず遠からずして危機を來たすを

免れず。清國は須らく韓國の事に鑑みて、早く自ら整理を行ひ、以て外國を以て干渉して代つて之を行ひ、偏に京城の近事に倣はんとする慾念を断たしむべきなり。此言たるや、林外相の如き、經驗あり且つ現に一國外務の要路にある政治家の言ふべき所とも思はれざるなり。林外相果して其友邦の内事に對して此説をなせりと謂ふか。但し是、正しく林外相の意見なるべし。唯必らずしも此くの如き言語を用ひたりといふにはあらざるべしと思ふのみ。

朝鮮に對する日本の行動に就いて嫉妬百出、惡罵群起し、其中には、かのマッケンジー、ベッセルの如きものありたれど、更に甚だじきものは、ホーマー、ビーバル、ト氏なり。氏はアップルトン、スマガジン誌上に於て朝鮮に於ける日本人の行動を罵倒せり。其曰ふ所に據れば、

朝鮮に於ける日本の施設を見るに、これ全く虚偽の連続にして、日本人の行動は貪慾の發現なり、人或は曰く、日本が朝鮮に鐵道を敷設したるは、頗る其稅政を償ふものありと。然れども其鐵道の敷地は人民より強奪したるものなり。而して日本人は朝鮮政府の背後に隠れて、其敷地を奪ひたるものは朝鮮政府なりと放言

せり。足一たび入り、日本は改善を布くために何をなしたるか。又朝鮮政府を組織する爲め如何なる賤夫を用ひたるか。而して如何に日本人が朝鮮人に貪婪、淫蕩、虚偽の訓練を興へたるか。又朝鮮の鑛業、漁業、林業、港灣製鹽業の成行如何を觀察したる人は、直に日本人の利己心の激烈を悟りし、併せて其韓國在留の自國民の亂暴なる行爲を抑制すること能はざる政治の道德的價值も、略計量することを得べきなり。

朝鮮は實に日本が文明の名の下に何をなしたるかを、實に教育に依りて教ふるものと謂ふことを得べし。朝鮮にある最下等の日本人の夫と雖、朝鮮の司法官が一時間たりとも干渉を加ふることあらば、直に之を嘲弄す。日本の官憲は、日韓人間の訴訟を裁断するに際して、韓人の舉證を許すが如き事は、夢想だもせざる所なり。此事實は予は屢自ら實驗したり。嘗て日本の一仲買商は、韓人に對して自己の振出したる手形の金額を支拂ふことを拒みたり。日本の官吏は該仲買商が手形なくして既に金額を手拂ひたりとの言を承認したりしかば、該韓人は一外人を立會はしめて、以て僅に自己に歸屬する金額を受取る事を得たり。此時す

ら、日本の官吏は何故に外人の介入を請ひしかとて、嚴しく該韓人を叱責したり。又嘗て或韓人の家屋を賃借したる日本人は、家賃を支拂ふ事も、家屋を立退くことをも共に拒みたり。是に於てか該韓人は日本の官憲に接して陳情せんことを求めしが、毎に門前拂に逢ひたり。事態此くの如きを以て、該韓人は百計盡きて遂に一外人の援助を請ひたりしかば、茲に至りて始めて日本官吏は該日本人に家屋の立退を命じたり。若し此際此外人の干渉なかりしならんには、此一萬弗を値ひする家屋も、横着なる日本人の手に落ちしならん。されど日本人が腐敗せる朝鮮人を使ひて、同じ朝鮮人の財産を押領する醜陋に至りては、更に之より甚だしきものあり。曾て日本人は京城に於ける韓人の財産を取得せんことを望みしも、公然の所置に出でんとはせずして、一腐敗韓人を使喚して之を押收せしめんとせしが、予は恰も此時、該事件に干渉して自ら此財産を買ひ入れ、以て事なきを得しめたりと。

尙、バルバート氏は、日本政府は自國の人民を畏怖すと附記し、若し日本政府にして正當の道を以て朝鮮を遇せん乎、忽ち日本國內に革命を惹起して、流血の

慘劇を見るに至らんと謂へり。

一九〇八年一月のコンランボラリー・レヴェーは、其誌上に於て、朝鮮に於ける日本人なる題目の下に、マッケンジー氏が昨秋朝鮮内地を旅行して實見したる所に據れば、伊藤公の寛大なる政策は之を諒とすべしと雖、在留日本人の行動は實に人をして嬰辱するを禁せざらしむと論せり、曰く。

日本と韓清の關係に對する彼等の觀察

マ氏の説に従へば、氏が通過したる一地方の二萬許の人口は、今や家を奪はれて食を得る道を失ひ、不毛の丘麓に彷徨して、將に來らんとする冬季に、飢寒のため死するを待ちつゝありき。マ氏は到る處に婦女が凌辱せられ、傷けられ、銃劍を以て貫かれたる風説や、非戦員や小兒が射殺せられたる事實を耳にしたり。此等の徒は反徒に屬するものにあらずして、温順素樸にして法規を遵守する良民なるに、只反徒が彼等の家の附近に戦鬪したりとの理由の下に、無殘にも斯くの如き辛辣なる待遇を與へらるゝなり。

斯くて朝鮮は無慈悲なる日本人の手によりて、奪掠せられつゝあるなり。長谷川大將は、近代にあつて文明の名に於て行はれたる、最も殘酷にして暴戾なる戦鬪

をなしたるなり。伊藤公は本國より適當の人材を十分に得ること能はざるが故に、自己の懷抱する正義と緩和とを旨とする政策を實行すること能はざるなり。朝鮮に於て官途に就く者は、只本國に於ける第三流の末輩のみ。而して狂熱したる韓人が一たび武器を執るや、兵士は直に派遣せられて彼等を壓迫し、拷問し、殺戮するなり。

マ氏の言ふ所が、果して歐米に於ける或一部、若くは大部分の意見を代表するものとせば、亦以て参考に資すべきなり。只茲に注意すべきは、外人の口を極めて朝鮮に於ける日本人の行動を批難する者も、伊藤統監の政策に對しては同情を吝まざる事なりとす。これ統監の外人に對する態度の宜しきを得たるため歟。抑も亦統監の八方美人主義の勝利歟。何れにせよ、統監も亦多幸兒なる哉。

一九〇八年一月のレヴェ・オヴ・レヴェに於てステッド氏が「朝鮮と日本との題下に説く所は、言簡なり」と雖、言論界に多大の勢力を有する記者の議論として一顧する價值あり、其言ふ所左の如し。

朝鮮に於ける反徒を鎮壓するために、更に多數の日本軍隊を派遣するの必要を

生じたりと傳へらる。惟ふに昨年日本が朝鮮に多數の軍隊を送らずして、其代りに俊秀の人才を送りて伊藤公を助けしめ、朝鮮に陸續として入込む浮浪の徒の群を抑制し、以て公正なる裁判を行ひて朝鮮人を保護したりしならんには、鎮壓すべき反徒も起らざりしならん。日本は朝鮮に於て實に試練の最中にあり。日本は軍國としては既に其聲價を顯はしたり。今後は公正なる行政によりて、被征服國民を悦服せしむる伎倆を示さざるべからず。日本に勸告するに、朝鮮に於ては最も慎重に行動施設するを旨とすべきを以てする者は、直に日本の友人なり。世界は日本の將來の成功の機會を、對島沖の勝利よりも寧ろ朝鮮に於ける人民の満足によりて計量せん。

第六節 日露協約及び日佛協約に對する

彼等の觀察

其一 日露協約に對する彼等の觀察

外務省着電タイムスの論評に曰く。

日露協約は到る處興味と満足とを以て迎へらるべし。是實に極東に於ける平和の維持に、一層の保證を加ふるものと謂ふべし。日本は戦後以來のみならず、夙に講和の正式に成立せし以前より、其巧妙なる外交を以て幾多の協商を企畫し、若々其效を奏して、最後に今回の協約を締結するに至れり。本協約たるや他の諸協約と同じく、決して一片の形式に止まるものにあらざるは、數月前露國外務大臣の全國議會委員會に於ける演説を記憶する者の何れも諒悉する處なるべし。其演説の要旨に曰く、露國人民は當初ポーツマス條約を以て、一時の休戰條約に過ぎざるものとせり。然るに此思想は近來跡を絶つに至れり。是一は露國內部の擾亂に因ると雖、又一は西歐諸國譯者曰く英佛ならん支那海及び其沿岸に於て、平和を維持するの決心を有すること、愈明白となれるに由る事疑ひを容れず。今や露國は其新なる地位を淡白に承認せり。是世界一般の満足する所なりと。

此日露協約は實に露國が之を最後確定のものとして承諾するの決心を有するに基づける者なり。吾人は之に續いて英露間正式協約の速に成立せんことを希望す。

す。要するに今回の協約はポーツマス條約を承認するに一の休戰條約とせず。其極東の永遠の事態を確立するものたるを承認するものなりと。

又同紙の其社説は實に左の如し。

七月二十八日露都に於て公表せられたる日露協約本文は、各國とも注意と満足とを表する所ならん。是極東の平和の大建築に柱礎を据ゑたる者にして、日本外交が戦争以後熱練と成功とを以て締結したる各大協約の最終なる者なるべし。其條約の第一は日英同盟の再訂、第二は去る六月十日の日佛協約、第三は即ち此日露協約なり。凡て此等の諸條約が單に形式上の約束にあらずといふとは、數月前露國外相イズヴアルスキー氏が國民議會委員に對してなしたる演説を讀む者の皆能く承認する所ならん。イズヴアルスキー氏の演説に曰く、初め露國人民はポーツマス講和條約は一時の休戰條約と見做せしが、爾來一は國內紛擾の結果と、一は西歐の二大國にして兼て東洋に廣大の領地と通商干繋とを有する二強國が、支那海上及び附近の平和を維持するの決意堅固なるを漸次了解するに至れる結果とに依りて、斯かる見解も消滅するに至り、今や露國は此新局面を認め

列國も亦之に満足を表せりと。此日露協約に次いで英露協約を見るに至るべく、而して此日露協約はポーツマス條約を以て極東の休戦條約と見ず、堅固なる約文となすことを承認したる者といふべきなり。

日露協約は極めて簡單なれども、其二十行中に含む義務の重大なるは、他に多く類を見ざる所なり。その第一條には清國との各條約中に於ける日露相互の權利を尊重すると共に、領土の保全を尊重すべきことを相約せり。而して其相尊重するてふ權利は、ポーツマス條約及び他の兩國特別條約に規定せる機會均等の原則と矛盾するとなかるべきを言へり。第二條は第一條よりも重要にして、日露兩國は清帝國に於ける商工業上の機會均等の原則を承認すると共に、同帝國の獨立と領土保全とを承認したれば、兩國は僅々たる年月間に、二回機會均等主義の實行を誓約したるものとす。戦後殆ど日本の掌握中にある滿洲地方にあつては、此機會均等主義は未だ實行に至らざるは事實疑ふべからざる所なれば、各通商國は此嚴正なる誓約を重ねて聞くことを得たるは、必らず認めて歓迎する所なるべし。蓋し滿洲に入る貨物の牛莊を經由するものは重税を課せられながら、大連

灣にあつては日本以外の貨物は今日未だ全く其恵みに浴するに至らずと云ふは、亦止むを得ざる自然の事態ならんと雖、清國內地の商標保護問題に至つては、必らずしも日本俄に列國の協約に加入する能はずといふの理由あるを見ず。それは孰れにもあれ、日本既に機會均等主義を嚴誓したれば、他國商人の愁訴の原因は、何事を問はず之を除くに務むべきは疑ふべきなく、日本既に人力を極めて此三協約を結び、東亞の平和を確保することをなしたれば、其管掌内にある土地にあつては、必らず機會を見て速に機會均等、門戶開放の障礙たるべきものを悉皆掃除するや期して待つべきなり。

スタンダードは曰く。

極東に於ける均勢が突然破壊さるゝとなき保証として、吾人は日露の新協約の成立を祝す。右協約は一九〇五年日英條約を産める偶然的出來事が廢止せられたるの保証と見るも可なり。吾人はポーツマス條約の改正を企つるが爲め、露國が一種の用意をなせりなごと思ふものにあらずして、日露間の爭議あるべき機會を永久に延期したるは此協約の特效とす云々。

モーニング・ポストは曰く。

日露協約は日英條約と日佛協約と同一精神に成り、日英露佛の四列國は競争上一種の衝突あるべきに顧み、現状維持を根基として、相互の保護協力を約せるは賀すべきなり。斯くて四國間の誤解を避けらるべきを以て、右協約は日露の平和條約を補充したる平和の保證たり。

露國ノヴァエ・ヴェレミヤは曰く。

漁業條約の如きは未だ發表せられざれども、沿海州の漁業は目下我國に取りて焦眉の急とは云ふべからず。但し日本にとりては殆ど死活の問題なるを以て、露國は己れの利害に關係なき限りに於て之を讓歩したるに過ぎず。而して此讓歩は密獵を防止すると同時に、露國の漁夫を將來教育するに就きての良方法たるべし。吾人は今回の協約が締結せられて、戦後未だ解決に至らざりし各種關係の確定したる以上は、唯日露兩國平和的關係の將來益發達せんことを希望するの外なきなり。

スロウオ新聞は曰く。

日露戦争後露國は日本に於ける武斷派が露國の弱點に乗じて、露領を侵略せんとするの意思あるを疑ひ、又は日清兩國同盟して露國に當るに至るべしとの想像を抱けるが如し。又露國の武斷派中には、日本を大陸より驅逐すべしとの説を熱心に唱ふるものあり。今回の協約は全然此種の風説を一掃し、眞に露國の外交史上に一新紀元を開きたるものなり。

プウルス・ガセットは曰く。

平和條約締結せられたる後、日露兩國の關係は尙未だ一定せざりしが、今や是等の關係は全く明瞭となるに至れり。日露間の協約は、何等新奇なる法律的關係を設けたるにあらずして、單に現存せる状態を確保したるに過ぎず。本協約に於て確定したる極東現状の維持は、日英同盟及び英露協約と相待つて完全なるを見らるべきなり。日露兩國は本協約によりて、互に意思の一致を表明したるに至らんと未だ同盟を形成するに至らざりしも、吾人は早晩此兩國が同盟するに至らんとを切望するものなり。露國が日本と此種の良好なる關係を設定したるまでには不幸なる戦争と莫大の讓歩を要したるが、向後極東に於ける露國の安寧は、是等

の打撃と讓歩に値ひすること明瞭なり。
 ベテルスブルグスカヤガゼットは曰く。

日露協約は露國に行はれたる戦争後に於ける各種の不愉快なる風説を一掃し、
 總ての危険を除き、且つ兩國が平和を愛する所以を表白したるものにして、著し
 き國際的の出來事なり。同協約は平和條約の足らざるを補ひ、日露兩國の意見を
 一致せしめたる效あるにより、日佛協約、英露協約と相待つて、大なる效能あるを
 疑ふべからず。則ち右三協約は共に相合して一の同盟的組織をなすものなり。
 タワリシチーは曰く。

日露協約は、平和條約に於ける未決の問題を決定し、戦争の爲めに動かされたる
 諸般極東の關係を定むるに至りたり。韓國問題に關しては本協約は何等言及す
 る所なきも、露國は平和條約に於ける一切の權利を認めたるを以て、今や韓國は
 國として存在せず、單に日本の一植民地に過ぎず。又此協約は極東に於ける自個
 の損失を甘んじ、日本との平和及び一致を鞏固ならしめんとを欲する意思を明
 かにする者なり。且つ此協約は、日露英佛四國同盟の準備なるを表明せる者なり。

其他諸新聞の所論は、大體同一轍にして、何れも聲を同じうして歡迎の意を表
 明せり。今之を綜合すれば、大要下の如し、曰く。

今次發表せられたる日露協約は大なる満足をも以て歡迎せざるを得ず。本協約は
 平和條約締結後、日露間に蟠まれる政治上未定の状態を確定し、相互の誤解を除
 去するに有力なるものなり。是、感情に基づく協約にあらずして、兩國が各、其利益
 を慮るに出でたる實際的協約なればなり。日露兩國は、本協約に依り平和條約の
 足らざる所を補ひ、又清國領土の保全を確保し、亞細亞大陸に於ける平和を保障
 せり。この協約は既に締結せられたる日佛協約及び將に締結せられんとする英
 露協約と種類を同じうせるものなりと。

其二 日佛協約に對する彼等の觀察
 倫敦スタンダードの巴里通信員は報じて曰く。

日佛協約近日中調印せられんとこの報道は、全く當地公衆の不意に出で、豫て這般
 の商議あるを聞知せるものは、僅に一部の人士に過ぎざりしなり。斯かれば此報
 道は廣く公衆に甚大の感興と満足とを與へたり。之より先、久しく世人は佛國政

府が日清戦争の際露獨兩國に與みして日本の戦勝結果を奪ひたるを大失策とし、又日露戦争破裂前にはその勢力を利導して露國を牽制せば、幾分か此失策を償ふべかりしを、政府が此機會をも逸したるは重ねく遺憾なりとせり。蓋しロジストウンスキー艦隊が印度支那沿岸を遊弋し、軍需品をその諸港灣に仰ぎたりとの説ありしとき、若し英佛協商だになかりせば、佛國は此兩失策の結果とし、久此怨みを忘れず、必らず佛領印度支那を奪ひて甘心せんと欲すべきを恐るゝものは、佛國人中には甚だ尠からざるなり。

然れども、日本は侵略の野心なきことを再三泰西各國に證明し、黃人患を説く者の迷謬なるを自覺せしめたり。即ち初めは露國との媾和談判に彼我兩國に満足なる條件を以て自ら甘んじ、今回は又佛國の極東領土の安全を保障し、其日本に恐るゝ所あるを須ひざることを明かにしたり。日本より見るに、日本が之に因つて佛國の有力なる德義上及び金融上の幫援を得るは、殊に其今日發展の途上にあるに於て最も貴重すべき所ならん。此協商は誠に悦ぶべく、英露兩國の歡迎を受

けんこと、猶佛國に於けるが如くなるべし。日英條約は此日佛協商を得て益々堅固となり、相待つて極東の平和を資くると必らず大ならん。各國際事件には必らず非獨陰謀あるが如くに思惟する獨逸新聞中には、之に反對せん者も蓋し尠からざるべし。雖、獨逸國民は決して故障を挾むべき性質のものにあらざるなり。

日佛協商を提議成就したるの功は、佛國外務卿ピシオン氏に歸すべし。氏は栗野大使と商議し、而して商議中の模様は一々英露兩國政府に通報したり。ピシオン氏はタン新聞記者に語つて曰く、日佛商議の目的は、極東の平和を維持するの新保障たる定約を訂結するにあり。佛國の外交政策は、世界各國、就中佛國の最も利害ある方面にありて、外國との衝突を避くるを唯一の目的とするなれば、此商議も畢竟事の自然のみと。

タン新聞は其社説に論じて曰く、日佛協約は暴風雨後の晴天の如し。數年前佛國は其政略を過まりて、日露談判に局外傍觀の態度を取りて、日露開戦に至り、而して開戦の結果は又佛露同盟の脆弱を來し、尋いで摩洛哥事件の發生となりしが、今や佛國は極東に新生面を開き

て活動すべき地位を得たり。日佛協約は一方には我極東領土の安全を保障し、一方には從來間、世人の疑團となれる日本の非侵略宣言の誠實他意なきを徵證するに足るべし。加之、日露協約既に調印せられ、英露協約又將に調印せられんとするあれば、日佛協約は、此等と相待つて亞細亞大陸の平和に堅確なる基礎を與へんこと、實に想像以上にあるべく、我代議院は必らずピシヨンの日佛協約案を批准するを疑はず。人若し此協約が他國を目的とするものゝ如く推想するものあらば、過まれるの甚だしきものなり。我輩は之を挾んで以て他國を脅嚇せんとする意思寸毫も之なく、他國皆安意して可なりと。

デパー新聞は日英佛露四國同盟説を排斥して曰く。

此四國は共に現状維持を目的とするものなれば、各別箇協商をなすを妨げず。此總結果は佛露同盟の保持する政略と、日英同盟の保持する政略との間に衝突なからしむるに至るべし。日佛協約が常軌を脱せざる限り、兩國に益するは疑ひなし。日本に向つては佛國金融市場既に一千二百萬磅を貸附せり(に接近するの便益を與ふると同時に、佛國に向つては我印度支那に關する危惧の念を一掃せし

むるの利益あるべしと。

同新聞の伯林通信員は同日附を以て報じて曰く。

新日佛協約に關する獨逸政治社會の感想は、一般に之を以て國際間の反目を増さしむるに至るべきものとなす傾向あり。獨逸の觀察者は自家流の國際見解よりして、この協商は英國が獨逸の四面に敵國同盟を置かんとする計略の一にして、今後英露協商成り、又日露協商成らば、獨逸は愈々重圍の中に陥らんと斷せり。獨逸新聞界は單に日佛協約説あることを報じて、何等の批評をも加へず。蓋し一には官邊の確報を待ち、一には官邊の意見を待つものならん。唯ターゲブラットは、端なくも世間の疑惧心を漏して曰く。此協商は佛國の一大勝利なり。知らず、日本は何を望んで斯かる協約を結ばんと欲する乎。金融上の一利益ありといはば、兎も角、此以外には又何の得る所なき者なり。我輩は日本の眞意を知るに苦しむと。

ブチー・パリジャンは評論して曰く。

日佛の協約は日本及び佛蘭西が年來の平和的政策を繼續して、毫も極東に於ける従前の領土を變更する意思なきことを證明するものなり。臺灣韓國は日本の

正當なる領土を認むべきと同時に、印度支那及び佛國占有の下にある清國の或土地に於て、佛國の有する權利は不可侵のものたるべし。今日未だ英露佛日間に四國同盟の成立することなしと雖、是等の諸國中、各二國間に成立せる協約又は條約は、漸次是等の諸國を接近和親せしめて、遂に諸國間の紛擾衝突を避けんとする一の目的に向つて進行するに至るべし。日佛協約は極東に地歩を占むる凡ての列強の利益たるべし。日佛協約は日本が亞細亞は亞細亞人の亞細亞なりと云ふ、新モンロー主義を棄却せると同一の結果を生せしむるものなり。故に佛國は極東に於て利己主義の政略を用ふるを要せず。日本は世界に對して其平和的意思の確實なる保證を與へんとしつゝありと。

エコー・ド・パリは曰く。

新協約は一として幸福なる結果ならざるなし。これ實に一九〇四年デルカッセ氏の着手したる政策の價值あるものなることを改めて説明するものなり。新協約は何れの國に對しても威嚇を與ふることなく、印度支那の地位を鞏固不拔となし、我國の一般政策に取りて無限の利益を與ふるものなりと。

尙此外、諸新聞の論調を抜萃すれば、ブチー・レビュブックは評して曰く。

何人も日佛協約の成功を疑ふものなかるべし。是、印度支那の我植民地の安全を保證するものにして、兼ねて英露、日佛、四國同盟の基礎をなすものなり。我佛國はこの協約に依りて更に新らしき友を得んと言ひ。ゴローワは、吾人は、我國が亞細亞に於て有する政治上、經濟上の利益に貢獻する所多き日佛の新協約を歓迎慶賀すると同時に、協約中に米國に不安の念を起さしめ、爲めに獨逸米國の親善を促すに至るが如き條項を避くることを努めざるべからずと説き。シークルは、同盟條約協商の手段に依り、亞細亞の平和は確實に建設せられたり。佛蘭西、英吉利、露西亞、日本は最早何等の恐怖すべき原因を有するとなしと論じ。其他の諸新聞亦皆同一の論調を以て新協約に賛意を表せり。

又日佛協商に關する風説は、埃太利に於て著しき注意を惹起せり。之に關して發表せられたる意見及び新聞の論説の徴すべき者甚だ尠なしと雖、同國の官邊にては驚愕と満足と、交れりと言ふ有様にて、輿論は日本の協約に因りて、佛蘭西との間に生すべき一切の疑惑と恐怖とを一掃し得て、極東の平和は一

層強固なる基礎の上に置かれたりと云ふに一致するものゝ如し。ノイエス・ヴイナ・ターゲブラット新聞が五月九日の紙上に於て發表したる佛國外交交通の消息は、維納市民の大なる注意を喚起せり。其要旨に曰く。

今次の新協商はポーツマス條約の履行に關して佛國が日露兩國の間に斡旋の勞を取れる結果なり。佛國の好意によりて日露兩國の間に十分なる意思の疏通を見るに至り、又毫も日本と佛國との親善を妨害すべきものなきに至れり。日佛の新協約は英國の協商と全く調和するものにして、倫敦、聖彼得堡の政府は此協約に對して十分なる好意を表すべきや明かなり。斯くの如くにして露佛の同盟は全然英佛協商及び日英同盟と調和すべきものたり。佛國の立場より見るに、この新協商たるや、實に大なる利益にして、伯林政府も、佛國は此協商に因りて毫も他國の權利を威嚇侵害することなくして、自國の權利を保護せることを承認するならん。

然るに之に對して、獨逸外務省の機關新聞として知らるる、ノイエ・フライエングレツセ(維納にて發刊す)は疑心暗鬼を生じ、切りに日佛協約より生ずべき獨逸の

危急を呼號したるも可笑し。其論調に曰く。

日英佛の關係は三國同盟に外ならず。此三強國は疑ひもなく支那の商業問題に關して共同して行動すべき、他の競争者の取得すべき利益は毫も殘留せざるに至るべし。殊に獨逸は之が爲めに大なる打撃を被るとなるべく、支那に於て全く不利益の地位に立たざるべからざることとなるべし。獨逸は又支那に於て全く孤立の有様に陥り提携すべき友なし。日佛の協約は平和の目的なることを表標するを以て、假令、膠州灣は直接之が爲めに争奪の禍中に投せらるることなしとするも、支那政府は今後以前よりも、山東省に於ける獨逸の事業に對して、故障を述ぶること容易なるに至るべし。たとへ自國の利益範圍を侵害せざるにもせよ、我利益を拂拭せんとする他國の協約を袖手傍觀するは、如何なる場合に於ても獨逸の利益にあらず。栗野日本大使の言に據れば、日米の協商も亦成立するならんとの消息を窺知するに足るものなり。斯くの如くにして、極東には獨逸の加はらざる三國若くは四國の同盟成立すべし。獨逸を加へざる他國の政策は、或事情の下に於ては獨逸に反對する政策となるべし。

又我筑波千歳の佛國訪問の際に當り、巴里のジャーナル新聞は、其歓迎文中に述べたる所のものはここに追記するの價值あり、曰く。

日本艦隊の來訪は目下ブレストに碇泊せる米國艦隊とは異なりて、單に國際的同情を表證せしのみにはあらず。日本艦隊が佛國にて受くべき歓迎は、實に日佛協約に對する佛人の眞意を證明すべし。日本との協商は寧ろ一九〇一年伊藤侯が重任を帯びて、巴里及び聖彼得堡に來りし際に於て確定せらるべかりしなり。事實上日本の柱石たる伊藤井上、松方、山縣諸老の如き、用意周到なる政治家が冒險的政策を取るに事あるべしと思ふは、一大誤謬なり。清國に於ける現狀維持に依つて、最も多く利益を受くべきものは、恐らく日本自らなるべし。而して佛國も亦之に依つて其極東領土の安全と平和の保障とを得べきなりと。

米國(五月八日)は如何。獨逸は米國に向つて、盛に日佛協約は米國に大なる不利益を與ふるに至るべきことを言ひ觸らしつゝあるに拘らず、米國の政治家は概して之に氣を留むるものなく、新協約の成立は全く日本は財政上の考慮より、佛國は亞細亞に於て有する領地を防衛せんとの希望に出でたるものなり。

として疑はず。かのイザニング・ポストの如きは新協約を以て平和の有力なる要素なりと論せり。其要旨に曰く。

露國は日本に對して復讐的戰爭を計畫することは、必らずしも不可能にあらず。も、日佛の協約は斯くの如き戰爭を防止せしむるに至るべし。又支那に取りても、其新協商の結果として、外國よりの攻撃に對して憂慮すべきものなきに至るべきを以て、銳意内治に力を用ふることを得べしと。

又紐育サンは曰く。

米國は四強國(英、露、佛、日)との關係上是等の國の何れとも干戈を交ふるが如きとなかるべきは明かなりと雖、米國政府が菲律賓に關して、日本と此新協約同様の協商を遂げざりしは悲しむべき次第なりと。

英國が、日佛の新協約に對して十分の満足を表すべきは言ふ迄もなきことにして、諸新聞の論調(五月十日)は日佛協商の一層日英、日佛間の關係を親密ならしめ、極東及び世界の平和に大なる保障を與ふるものなりと云ふに一致するものゝ如し。英國輿論の代表者とも見るべき倫敦タイムズは左の如く論せり。